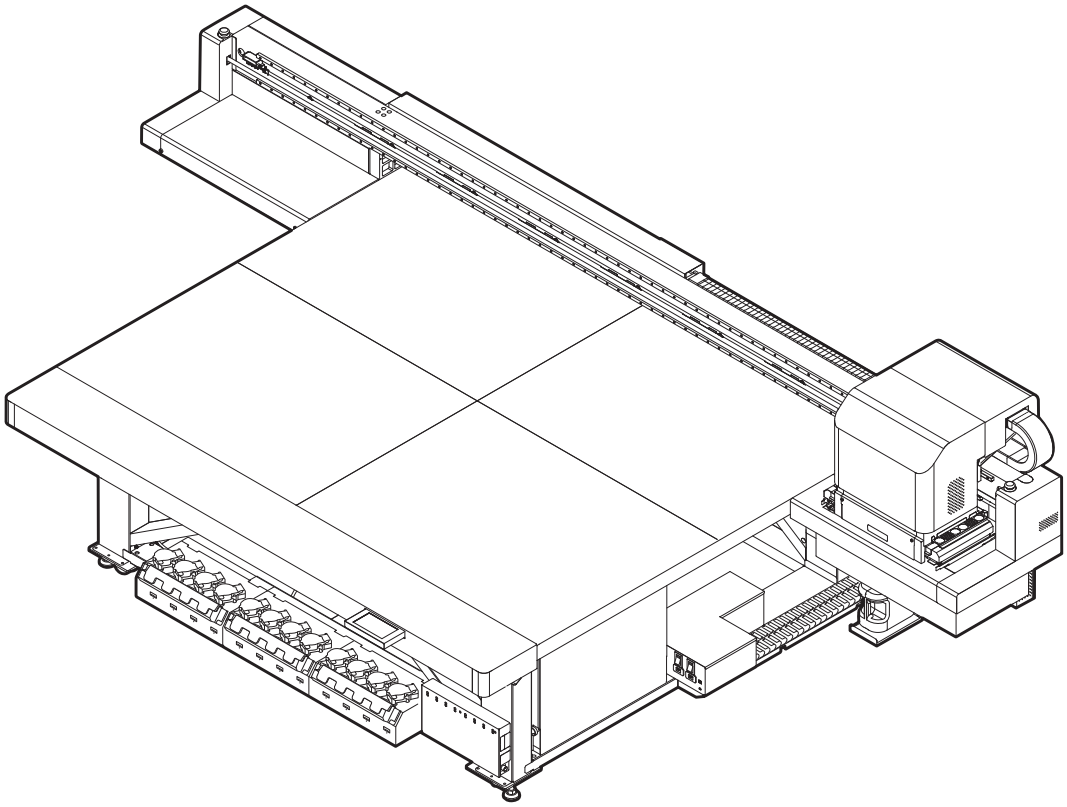
Operation Manual

UV INKJET PRINTER

JFX220-2515

取扱説明書



本書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

株式会社ミマキエンジニアリング
https://japan.mimaki.com/

D203988-10
Original instructions

目次

はじめに 6
安全にお使いいただくために 7
マーク表示について 7
使用上の警告と注意 8
してはいけない危険な行為 17
設置上の注意 20
警告ラベルについて 21

第 1 章 ご使用の前に

1.1 使用上の制限について 26
使用上の制限 26
使用者の制限 26
エリア制限 26
1.2 本機の設置について 27
設置環境について 27
設置場所について 27
本機の固定について 28
本機の移動 28
1.3 各部の名称とはたらきについて 29
装置前面 29
装置背面/側面 29
操作パネル 30
キャリッジ 32
キャッピングステーション 32
停止スイッチ 33
1.4 ケーブルを接続する 34
電源ケーブルを接続する 34
LANケーブルを接続する 35
1.5 インクボトルについて 37
使用可能なインクの種類 37
インクボトルをセットする 37
インクボトルを交換する 41
遮光カバーが外れてしまったときは 44
インクの使用制限について 44
インクボトルの保管について 45
インクボトル取り扱い上のご注意 45
1.6 メディアついて 46
使用可能メディアサイズ 46
メディアの保管について 46
メディア取り扱い上の注意 46
1.7 テーブルについて 48
マスキングレス性能 48
マスキングレス性能の劣化に関して 48
1.8 治具の運用について 49
治具使用時の利点 49
治具製作の流れ 50
治具製作時の注意点 51
1.9 作業環境などに関するご注意 55

第 2 章 基本的な使い方

2.1 作業の流れ 58
2.2 電源を入れる/切る 59
電源を入れる 59
電源を切る 59
2.3 メディアをセットする 61
メディアの正しい載せ方 62
メディアをセットする 63
2.4 メディアの厚みを登録する 68
メディアの厚みを手動で登録する 68
メディアの厚みを自動測定する 69
2.5 ヘッドギャップを設定する 71
ヘッドキャップ値を登録する 71
ヘッドギャップ値を確認する 73
2.6 テストプリントをする 74
作図不良の例 74
ヘッドの配列とテストパターンの関係 75
テストプリントを行う 76
2.7 ヘッドクリーニングをする 78
2.8 双方向プリントのドット位置を調整する 79
ドット位置を補正する 79
2.9 データをプリントする 81
原点を変更する 81
プリントを開始する 82
プリントを一時停止する 83
プリントを中断する 83
Yバーを移動させる 84

第 3 章 各種設定

3.1 メディア設定メニュー 86
ワークチェンジの設定 88
3.2 メンテナンスメニュー 89
3.3 メンテナンス設定メニュー 90
ノズルチェックとは 91
3.4 機能設定メニュー 92
3.5 環境設定メニュー 93
時刻の設定 94
単位の設定 95
キーブザーの設定 97
言語の設定 98
ネットワークの設定 99
外部停止I/Fについて 100

第 4 章 メンテナンス

4.1 日常のお手入れ 104
お手入れのご注意 104
メンテナンス液について 104
お手入れを行うタイミング 105
外装のお手入れ 106
テーブルのお手入れ 106
MBISのお手入れ 107
LMガイドの清掃 109
イオナイザーのお手入れ 109
ミストフィルターの清掃 109
UV LEDフィルターの清掃 111
4.2 キャッピングステーションのメンテナンス 113
ワイパーとキャップの清掃 113
NCUの清掃 118
ステーション周辺の清掃 119
インク排出路の洗浄 120
4.3 ヘッド周辺のメンテナンス 122
UV LEDユニットの清掃 124
DASセンサー、測距センサーの清掃 125
4.4 ヘッドノズル面のメンテナンス 126
4.5 ノズル詰まりが復旧しない場合 128
サブタンクからヘッドまでのインク充填を行う 128
ヘッドノズルの洗浄 129
ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時) 131
空気抜きを行う 135
ノズルリカバリー機能 139
4.6 オートメンテナンス機能 147
リフレッシュ間隔を設定する 147
クリーニング間隔を設定する 148
4.7 消耗品の交換 150
ワイパーを交換する 150
キャリッジフィルターの交換 152
廃インクの廃棄 153
インクボトルキャップの交換 156
ミストフィルターの交換 157
UV LEDフィルターの交換 159
UV LEDガラスの交換 160
4.8 フラッシングフィルターについて 162
フラッシングフィルターを交換する 162

第 5 章 困ったときは

5.1 故障かなと思ったら 166
電源が入らない 166
プリントできない 166
画質不良が発生したら 166
ノズル詰まりを解消したいとき 167
インクボトルに異常が発生したら 167
インク漏れが発生したら 168
「ホワイトインクボトル ヲ フッテクダサイ」が表示されたら 168
圧力異常が発生したら 169
5.2 メッセージを表示するトラブル 172
ワーニングメッセージ 172
エラーメッセージ 172

第 6 章 付録

6.1 仕様 184
本体仕様 184
インク仕様 185
吸着ブロワ仕様 186
6.2 インクボトルのセット順 187
6.3 LICENSE Library (EPL StarterWare) 188

はじめに

この度はUVインクジェットプリンター JFX220-2515をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、取扱説明書（以後、本書と称します）をよくお読みいただき、十分に理解してから使用してください。

本書で使用しているイラストは、機能や手順、操作の説明を目的としており、本機と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Illustrator、Photoshop、およびPostScriptは、Adobe Incorporatedの米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

その他本書に記載されている会社名、および商品名は各社の日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 2026 株式会社ミマキエンジニアリング

● 免責事項

- JFX220-2515（以後、本機と称します）の故障有無に関わらず、本機をお使いいただいたことによって生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機により作成された製作物に対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 弊社推奨品以外の装置などを使用すると、火災、または本機の破損事故のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- 弊社純正インク、メンテナンス液をご使用ください。それ以外を使用すると、プリント品質の低下、本機の故障のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- インクボトルのインクを詰め替えないでください。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- UV-LEDユニット、UV電源装置は、弊社純正品以外は絶対に使用しないでください。弊社純正品以外を使用すると、本機の故障、感電、火災のおそれがあります。この場合には保証の対象外となります。また、それに対して生じた直接、または間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。

● テレビ、ラジオの受信障害について



- 本機稼働中は、高周波が発生しています。不適切な条件下で使用した場合、テレビやラジオの受信障害を発生するおそれがあります。特殊なテレビやラジオに対して、保証しておりません。

テレビやラジオの受信障害が発生したら、本機の電源を切ってから、テレビやラジオの受信状態をご確認ください。電源を切って受信障害が解消すれば、本機が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせて試してください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変えて、受信障害の発生しない位置を探してください。
- テレビやラジオは、本機から離れた場所に設置してください。
- テレビやラジオは、本機が接続している電源供給経路とは別のコンセントに接続してください。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味を理解し、本機を安全に正しくお使いください。

● マーク表示の例

	内　容	
⚠警告	警告	この指示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷のおそれがある内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
⚠注意	注意	この指示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度の負傷のおそれがある内容を示しています。
	一般警告	注意しなければならない事項を示しています。具体的な注意事項は△の中に描かれます。
	一般強制指示	実行しなければならない事項を示しています。具体的な指示内容は●の中に描かれます。
	一般禁止	してはいけない事項を示しています。具体的な禁止内容は⃠の中に描かれます。
重要!	重要	本機をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	ヒント	知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	参照情報	関連する内容の参照ページを示しています。文字をクリックすると該当ページが表示されます。

使用上の警告と注意

● 異常事態が発生したら

⚠ 警 告



- 誤ってインク、メンテナンス用洗浄液を飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないください。
  その後、（財）日本中毒情報センター　中毒110 番に連絡してください。
  大阪 : 072-727-2499
  つくば : 029-852-9999
- 蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして呼吸しやすい姿勢で安静にしてください。また、直ちに医師の診断を受けてください。
- 万一、金属、水、液体などの異物が本機内部に入ったときは、すぐに電源を切ってください。その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。
- インク漏れが発生した場合は、主電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてから、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態が発生したら、すぐに電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。
- お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

● インク、洗浄液について

⚠ 警 告



- インク、メンテナンス用洗浄液の取り扱い前に必ず安全データシート（SDS）をお読みください。
- 一部成分において、水生生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。
- インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。
- インク、メンテナンス用洗浄液は、冷暗所で保管してください。また子供の手の届かない場所に保管してください。





- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。

⚠ 注 意



- 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。この場合には保証の対象外となり、専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
- インクボトル内のインクを詰め替えないでください。この場合には保証の対象外となり、詰め替えたインクを使用して生じた不具合について、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 専用インクは、他のプリンタで使用しないでください。プリンタが壊れるおそれがあります。

● インクボトルの取り扱い

⚠ 警 告

- インクボトルにインクに関する注意書きが記載されています。よくお読みいただき、十分に理解してから使用してください。
- インクボトルや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注 意

- インクボトルを寒い所から暖かい所に移した場合は、使用する場所に3時間以上放置してから利用してください。
- インクボトルは使用直前に開封し、早めに使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、印刷品質が低下するおそれがあります。
- 専用インク以外のインクを使用すると、装置保護のため、動作しません。

- インクボトルを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。ボトルからインクが漏れるおそれがあります。

● 可動部に注意

⚠ 警 告

- 危険な可動部に、指や体の他の部分を近づけないでください。怪我をするおそれがあります。
- ヘッドやキャッピングステーションのメンテナンス時には、キャリッジが動作し、怪我をするおそれがあります。作業中は非常停止ボタンをすぐ押せるようにし、マグネットエマースイッチを手元に置いてください。

● 警告ラベルについて

⚠ 注 意

- 本機には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり、剥がれた場合は、販売店、または弊社営業所にて新しい警告ラベルをお買い求めください。

● 紫外線（UV）、UV-LEDについて

⚠ 警 告



- UV-LED装置は非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、UV-LED装置消灯後、十分温度が下がってから行ってください。やけどのおそれがあります。



- UV-LED装置周辺から多少の紫外線漏れがあります。手袋、長袖の服、顔面部は遮光面、遮光メガネなどを着用し、紫外線を皮膚や目に浴びないようにしてください。
  (1) 紫外線を皮膚や目に浴びると、炎症や皮膚ガンを起こすおそれがあります。
  (2) 弱い紫外線で炎症を起こさない場合でも、反復暴露により慢性障害に発展するおそれがあります。
  (3) 点灯中のランプを肉眼で見ると、目の痛みや視力障害を起こすおそれがあります。
  (4) 紫外線による目の障害が発生するおそれがあります。
    - 急性障害:異物感、とう痛、涙が流れるなど
    - 慢性障害:白内障など



- 点灯中のUV-LED装置は絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。必ず付属の保護メガネを着用してください。また
- 手の皮膚を保護するため手袋を着用してください。



- 紫外線（UV）を皮膚に直接あてないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。

⚠ 注 意



- UV-LED装置などの高温部に可燃物が触れると、発火、発煙の可能性があります。また、UV-LED装置の下に数秒間、可燃物を放置すると、発火、発煙の可能性があります。



- UV-LED装置下面のガラスは、必ず手袋をはめて取り扱い、素手で触れないでください。UV 硬化が著しく低下する原因になります。汚れがついた場合には、エタノールで湿らせた清潔なガーゼなどで拭いてください。（外側カバーはエタノールで拭かないでください。塗装がはげます。）



- 弊社推奨のUV-LED装置、UV電源装置以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨品以外を使用すると、火災または装置が破損するおそれがあります。この場合には保証の対象外となり、弊社推奨品以外を使用して生じた不具合について、弊社は一切責任を負いかねます。
- ガラス製品のため、落下させたり、物をぶつけたり、無理な力を加えたり、キズをつけたりしないでください。

● 接地工事について

⚠ 警 告

- コンセントの増設には、感電事故防止のため接地工事が必要です。
- 接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。
- 接地工事は、感電事故防止のため必ず行ってください。

● 設置場所、使用環境について

⚠ 警 告



- インクに引火する可能性があるため、本機を使用する場所は火気厳禁としてください。



- 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用する場合は、必ず換気装置を設けてください。
- 本機は防爆タイプではありません。危険物雰囲気で使用しないでください。爆発などのおそれがあります。
- 排気口施工時には、本機の故障を防ぐため、下記の注意を必ずお守りください。

  (1) 排気口の設置については各国の地域のEHS（Environmental, Health and Safety）ガイドラインに従ってください。

  (2) 排気口に閉鎖弁などを設置する場合、本機使用時は必ず閉鎖弁を開けてください。



- 引火する危険性の雰囲気（ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・粉塵など）で使用しないでください。引火による火災や感電の原因になります。
- 紙や布をUV-LED 装置に近づけたり、覆ったりしないでください。火災の原因になります。



- 湿気の多い場所では使用しないでください。また、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。



- 本機を子供が立ち入るおそれのある場所に設置しないでください。

⚠ 注 意



- できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。
- この機器は子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- ヘッド周辺にホコリが付着すると、インクのしずくが落ちる原因になります。ヘッドをクリーニングしてください。
- 本機を水平に保つようにしてください。

● テーブルに乗らない

⚠ 警 告

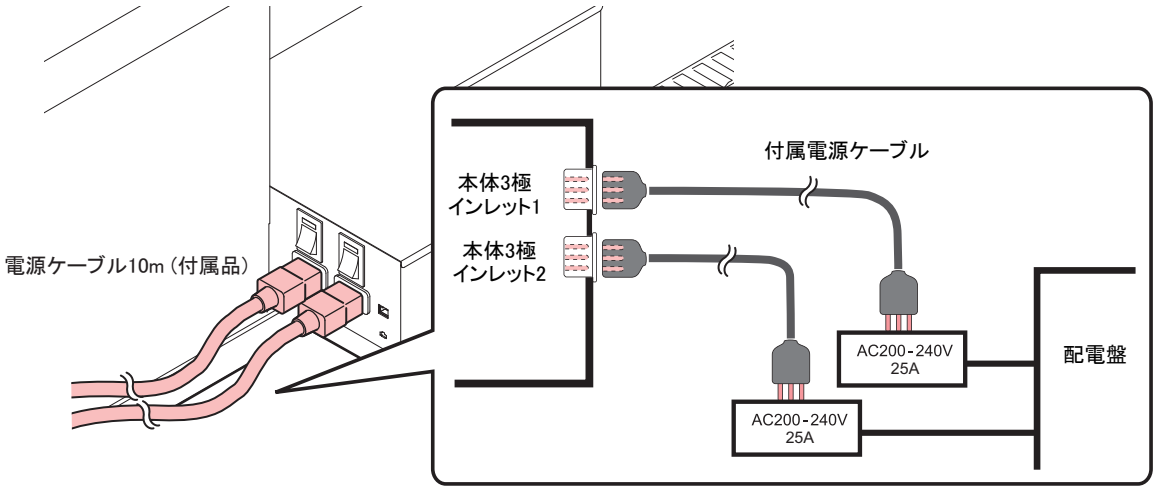


- テーブルの上には絶対に乗らないでください。盤面精度が狂うおそれがあります。

● 電源、電圧について

⚠ 警 告

- 同梱されている電源ケーブルセットは本機専用です。本機以外の電気機器には使用できません。また、同梱されている電源ケーブルセット以外の電源ケーブルセットは、本機には使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードは使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源プラグの刃に金属などが触れると、火災や感電の原因になります。
- タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源ケーブルが傷んだり、芯線の露出・断線などが見られる状態で本機を使用しないでください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。サービス実施店にケーブルの交換を依頼してください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 表示された電源周波数以外では使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源ケーブルを接続する際には、電源コンセントの入力電圧、ブレーカーの容量を確認してください。また、それぞれのケーブルはブレーカーが独立している別の電源に接続してください。同じブレーカーにつながっているコンセントに接続すると、ブレーカーが遮断してしまうおそれがあります。



- 表示された電源仕様で使用してください。また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理されたコンセントに差し込んでください。火災・感電の原因になります。

- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災や感電の原因になります。
- 本機の主電源スイッチの投入作業は、本機の操作方法を熟知した人以外は行わないでください。

● 電源供給について

⚠ 警 告

- ブレーカーは常時オンにしておいてください。

● 電源ケーブルについて

⚠ 警 告

- 付属の電源ケーブルを使用してください。

● 廃棄処分について

⚠ 警 告

- 本機を廃棄したいときは、販売店またはサービス実施店にご相談ください。なお、お客様自身で廃棄処理される場合は、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 不要になったインクボトル・廃インクは、販売店またはサービス実施店へお渡しください。なお、お客様自身で廃棄処理される場合は、産業廃棄物処理業者または各国の地域の条例に従って処理してください。

● バキュームの取り扱い

⚠ 警 告

- バキュームの分解・改造は絶対に行わないでください。また、リリーフ弁（圧力調整弁）に触れたり、バキュームの排気口をふさがないでください。吸着力の低下および、発熱や故障の原因となります。（バキュームはテーブルの真下にあります。）

⚠ 注 意

- 低温環境下で本機を使用すると、まれにバキュームから甲高い音が発生することがありますが、故障ではありません。

● 分解・改造はしない

⚠ 警 告

- 本機やインクボトルの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。

● メディアの取り扱い

⚠ 警 告

- 重量メディアをセットする場合は、必ず2人以上でセットしてください。
- 夜帰宅する際は、メディアをセットしたままにしないでください。メディアの上にホコリが付着する原因になります。
- 50kg以上の重量メディアをセットする場合は、必ずリフター機器を使用してセットしてください。

⚠ 注 意



- 安定した高画質でプリントするために、弊社推奨のメディアをご使用ください。
- メディアの伸縮にご注意ください。包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で30分以上さらしてから装置に取り付けてください。
- カールしたメディアは使用しないでください。メディアづまりの原因になるだけでなく、画質にも影響を及ぼします。また、カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。
- メディアはホコリがつかないように保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。

● メンテナンスについて

⚠ 警 告



- メンテナンス時には感電を防ぐために、必ず主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてください。また装置によっては、コンデンサーの電荷放電時間に1 分間必要な場合があります。主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いた後は、必ず3 分後に作業するようにしてください。



- 高温注意銘板が貼ってある部分およびその付近は、絶対に触らないでください。触るとやけどのおそれがあります。万一、高温部に触る時は、断熱性のある手袋を着用して手の皮膚を保護してください。



- 水のかかる場所での使用は、漏電の可能性が非常に高くなります。水のかかる場所での使用は避けてください。万一、漏電が発生すると、作業員の感電や火災に発展する場合があります。

⚠ 注 意



- 長年の使用により装置導電部や絶縁部にゴミやホコリがたまり漏電する場合があります。定期的に清掃をしてください。
- 圧縮空気の吹き付けは行わないでください。ゴミやホコリが飛散し、導電部に侵入して動作不良を起こすおそれがあります。必ず掃除機を使用して、ゴミやホコリを吸い取ってください。
- 事故防止のため、定期点検、定期交換部品の交換などは必ず行ってください。
- 本機には定期的に交換する部品があります。保守契約をしていただくことをお勧めします。
- 長年の使用により安定器やその他使用部品にゴミやホコリがたまり、漏電や絶縁劣化による発火、発煙のおそれがあります。定期的な清掃、絶縁抵抗測定による劣化部品の交換をしてください
- 長年の使用により導電部のネジなどが緩むことで、発火、発煙のおそれがあります。定期的な増し締めを行ってください。

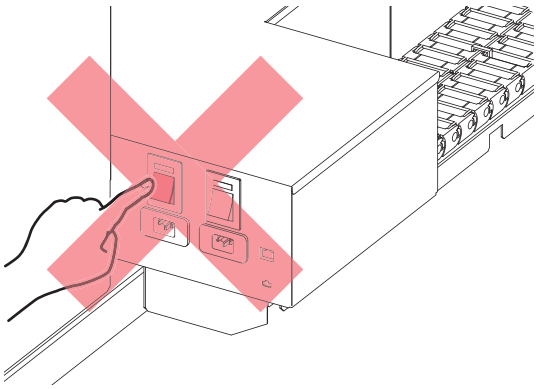
● 電源に関するご注意

⚠ 警 告

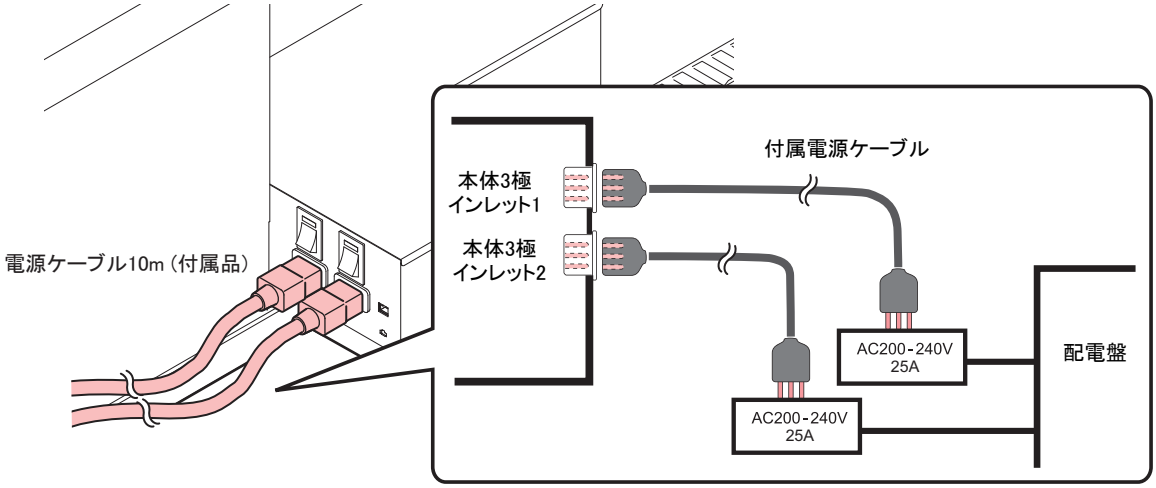
- 付属の電源ケーブルを使用してください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。なお、本機以外の電気機器には使用できません。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとケーブルが破損して、本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- 電源プラグにホコリなどが付着したまま使用しないでください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- 電源プラグの刃に金属などが触れないようにしてください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。電源ケーブルが破損して、感電や火災につながるおそれがあります。
- 延長コードの使用やタコ足配線をしないでください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- 電源ケーブルの破損や芯線の露出、断線などが見られる場合は使用しないでください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き挿ししないでください。感電のおそれがあります。

- 電源ケーブルのプラグは、接地（アース）極性付きのコンセントに接続してください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。
- コンセントの増設には、感電事故防止のため接地（アース）工事が必要です。必ず電気工事士の免許を持った人が電気工事（C種接地工事（特別第3種接地工事））をしてください。

- 通常時は、本機の電源を切らないでください。電源を切っていると、オートメンテナンス機能（ノズル詰まり防止機能やインク排出経路の清掃機能など）が実行することができません。吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）の原因になります。
  異常を感じた等の理由で止むを得ず本機の電源を切る際は、必ず2つのスイッチ全てを切り供給電源遮断を行ってください。
  2つのスイッチすべてを切っていない場合、感電の危険があります。



- 本機は指定された電源仕様で使用してください。
- 電源ケーブルは、必ず本機の近くにある電源コンセントに接続してください。また、電源プラグの刃を根元まで確実に挿し込んでください。
- 電源ケーブルを接続する際には、電源コンセントの入力電圧、ブレーカーの容量を確認してください。また、それぞれのケーブルはブレーカーが独立している別の電源に接続してください。同じブレーカーにつながっているコンセントに接続すると、ブレーカーが遮断する原因になります。



してはいけない危険な行為

電源が入っているときは、以下に挙げた危険な行為は絶対にしないでください。定期メンテナンスなどでキャリッジが動いたときに、大きなケガ（粉砕やせん断）につながるおそれがあります。

● Yバーの背面に立ち入らない

- 電源が入っているときは、Yバーの背面に立ち入らないでください。Yバーが動き出して思わぬ事故につながることがあります。

● キャリッジ周辺に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしない

- キャリッジとYバーの隙間に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしないでください。

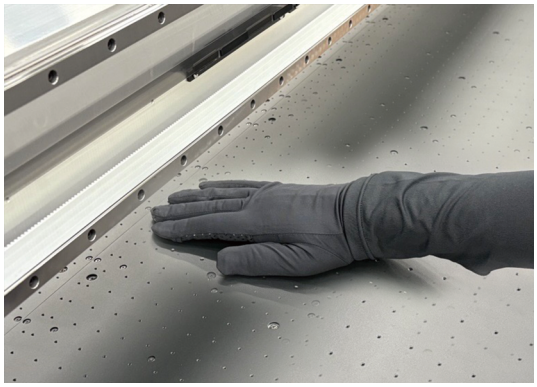


- キャリッジとテーブルまたはステーションの隙間に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしないでください。



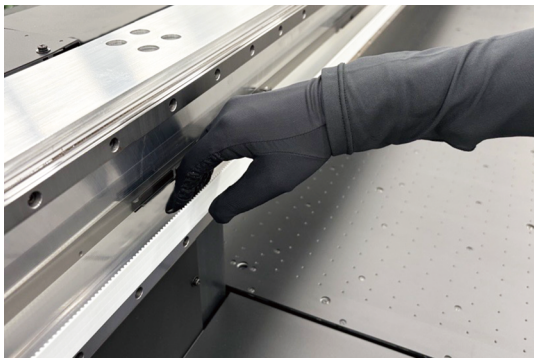
● Yバーとテーブルの隙間に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしない

- Yバーとテーブルの隙間に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしないでください。



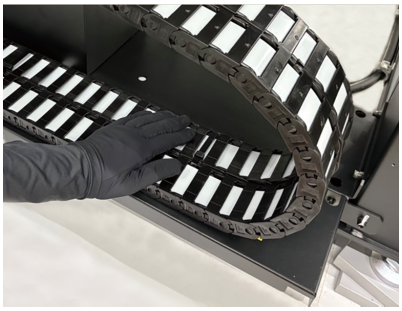
● 可動部に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしない

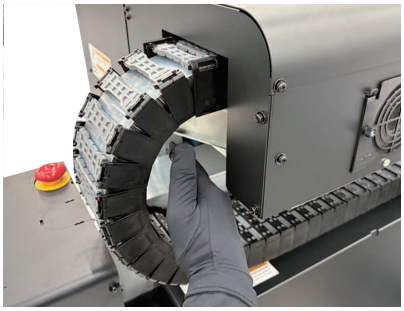
- Yバーのベルトに顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしないでください。



● ベア部に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたり、物を置かない

- Yバーやテーブル下のベア部に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたり、物を置かないでください。



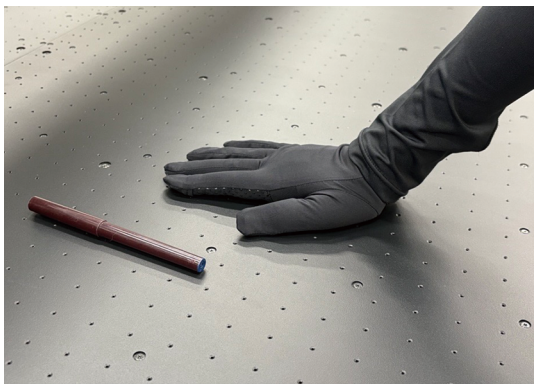


● テーブルの下に顔や手など体の一部を近づけたり、入れたりしない

- テーブルの下に潜り込んだり、顔や手など体の一部を入れたりしないでください。

● テーブルに手や物を置かない

- テーブルに顔や手など体の一部、またはメディア（厚さ101.6mm未満）以外の物を置かないでください。



● UV-LEDを直視しない

- UV-LEDを直視しないでください。椅子などに座って作業しているときは、キャリッジと頭の位置が同じ高さになっているので特に注意してください。



● キャリッジの動作を妨げない

- キャリッジが動作中（プリントやクリーニングなど）は、無理矢理キャリッジを動かさないでください。

● 本機を使用するときは、保護メガネと手袋を着用する

UV光の漏れによる目の障害を防止するため、本機をご使用になるときは、保護メガネを着用してください。また、紫外線から皮膚を守るため手袋を着用してください。

● インク交換をするときは、以下のことに注意する

- インクのはねによる手や目に付着することを防止するため、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
- インクカバーを引っ張りすぎないでください。
  チューブやケーブルが傷つきます。
- インクボトルを交換するときは、ウエス等で周囲を養生してから行ってください。フロート部からのインク垂れにより周囲が汚れてしまいます。

● メンテナンスを行うときは、保護メガネと手袋を着用する

インク交換など本機のメンテナンスを行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
また、必要によってはガスマスクを着用してください。

設置上の注意

本機を設置する場合は、以下にご注意ください。

⚠ 警 告



- 本機は、専用の個室に設置する、囲みを設けるなど物理的な方法により確実に隔離できる場所に設置し、プリンタおよびインク供給ユニットに容易に手が届かないよう、隔離エリアを設定してください。
- 隔離エリアには、弊社が実施する安全教育の受講者、もしくはその受講者から教育を受けた方のみとし、安全教育受講者以外は立ち入り禁止としてください。
  本機が動作中に教育を受けていない方が隔離エリア内に入ると、プリント中のYバーに当たるなどケガなどをする危険性があります。
- 本機を使用するオペレーターは、弊社が実施する安全教育の受講者、もしくはその受講者から教育を受けた方のみとしてください。

⚠ 注 意



次の環境下でお使いください。
- 動作可能環境：15 ～ 30 ℃（59～ 86°F）35 ～ 65% Rh（結露なきこと）
- 精度保証温度：18 ～ 25 ℃（64.4～ 77°F）

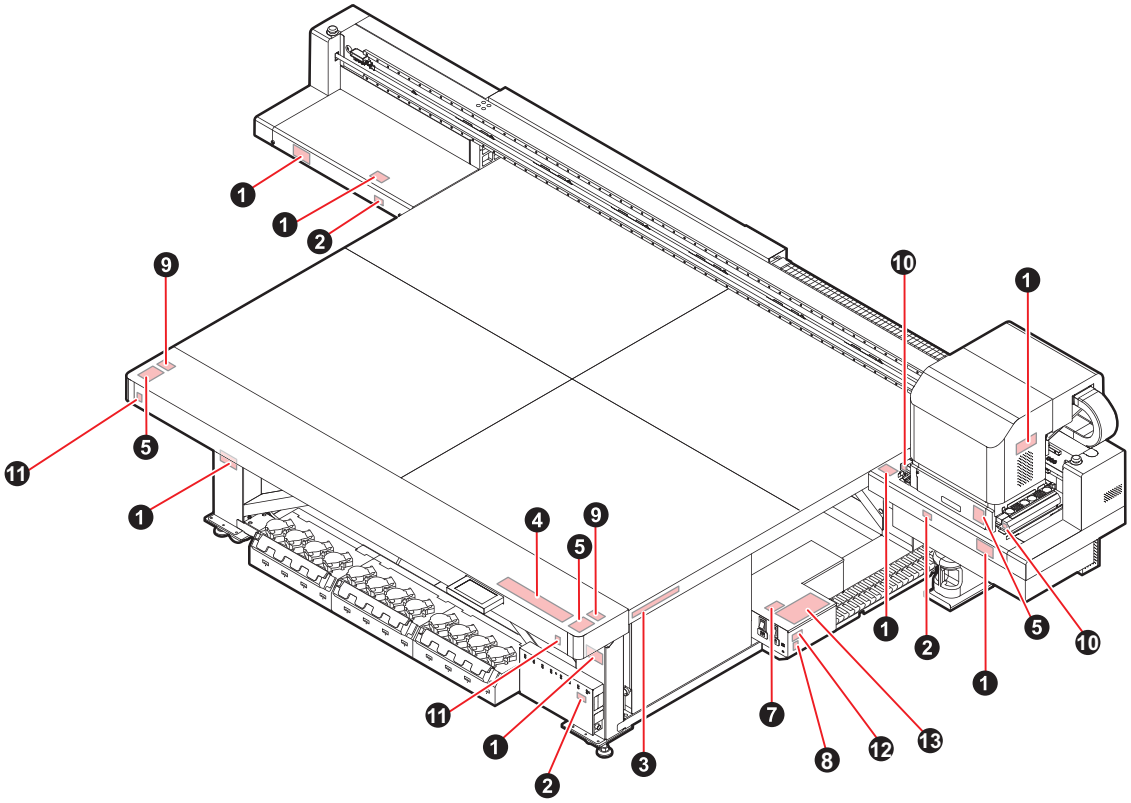


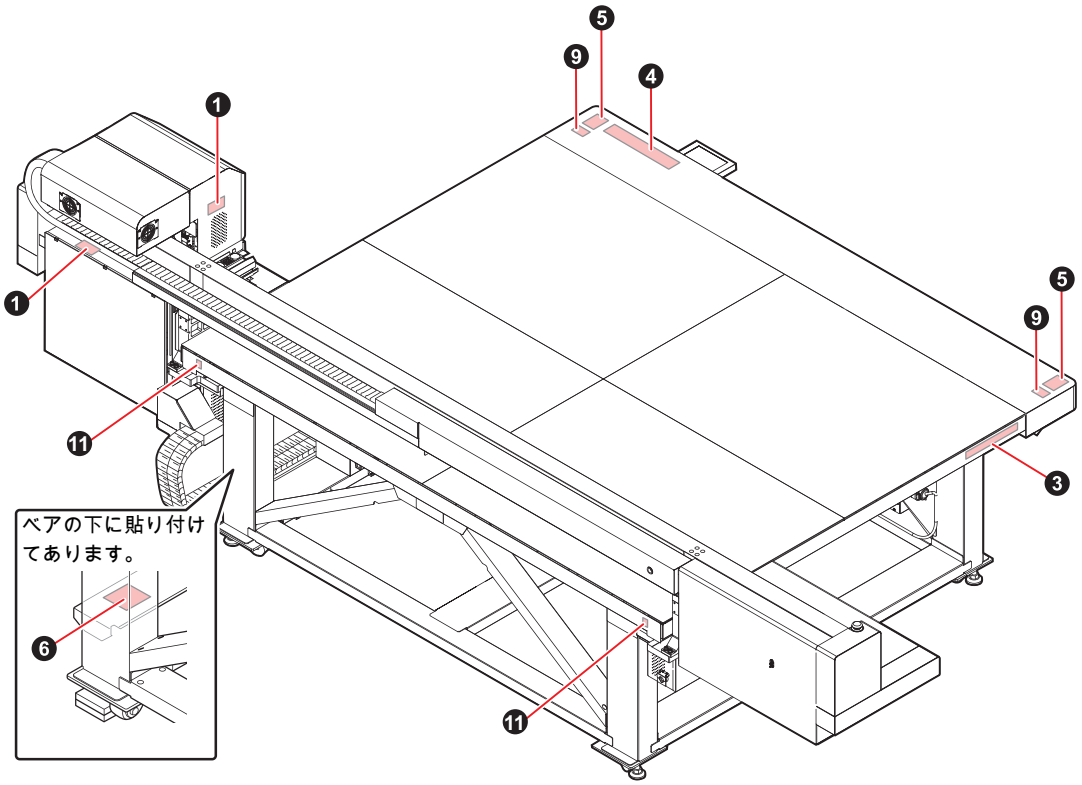
次の環境下では使用しないでください。
- 直射日光が当たる場所
- 水平でない場所
  (機械が水平でないと画質不良の原因になる場合があります)
- 振動が発生する場所
- エアコンなどの風が直接当たる場所
- 火を使う場所
- 埃が多い場所
- 周囲に化学薬品がある場所

警告ラベルについて

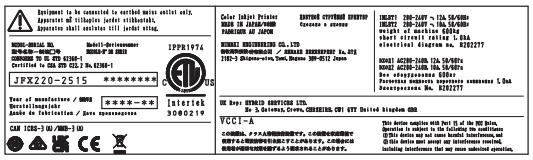
本機には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。

なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれたりした場合は、販売店または弊社営業所で新しい警告ラベルをお買い求めください。





No.	注文番号	ラベル	内容
1	M909381		危険な可動部があります。Yバーやキャリッジが動作した時に、大きなけが（粉砕やせん断）につながるおそれがありますので、指や体を近づけないでください。
2	M903330		インクなどの液体が跳ねて皮膚に付着したり、目の中に入ったりするおそれがあります。作業をする時は保護メガネや手袋を着用してください。
3	M906115		危険な可動部があります。Yバーやキャリッジが動作した時に、大きなけが（粉砕やせん断）につながるおそれがありますので、指や体を近づけないでください。
4	M902663		ヘッドの移動中やリモートモードの時は、動作するYバーに当たり、けがをするおそれがあります。手や顔を近づけないでください。
5	M905980		本機は紫外線を発生させています。紫外線を浴びると、失明や火傷を起こすおそれがありますので、UV光に注意してください。
6	M909385		上に乗ると板金が変形し、転倒するおそれがあります。また、変形した板金が接触してけがをするおそれがありますので、上に乗らないでください。
7	M903281	See SET UP GUIDE before connecting to the supply. 電源を接続する前に、必ずセットアップガイドを読むこと。 在接通电源之前请一定阅读安装说明书。	電源を接続する前に、必ずセットアップガイドを読んでください。誤った接続をすると、本機の故障や感電、または火災につながるおそれがあります。
8	M907935		内部に高電圧があります。高電圧部に触れると、感電する危険がありますので注意してください。
9	M917420	RISK GROUP 3 • WARNING UV emitted from this product. • Avoid eye and skin exposure to unshielded product. GROUPE DE RISQUE 3 • AVERTISSEMENT : UV emis par ce produit. • Eviter l' exposition des yeux et de la peau a un produit non blinde.	本機は紫外線を発生させています。（リスクグループ3）皮膚や目に紫外線を浴びると、炎症を起こすおそれがありますので、UV光に当たらないように注意してください。

No.	注文番号	ラベル	内容
10	M903239		高温部を示しています。 ヒーター通電中はやけどの恐れがあるため触れないでください。 • ヘッドユニット • UVユニット（右、左）
11	M918531		重量物持ち上げの際に注意してください。
12	M906031	WARNING AVERTISSEMENT 警 告 This unit has two power cords. For removal of all power, disconnects both cords. Cet appareil a deux cordons secteur. Pour le mettre hors tension, débranchez ces deux cordons secteur. 本機は、2本の電源ケーブルがある。電源をオフする場合、2本とも抜くこと。	電源ケーブルについて説明しています。 安全の為注記を守ってください。
13	M921051		電源ケーブルについて説明しています。安全の為注記を守ってください。

第 1 章　ご使用の前に



この章では...

本機の各部の名称や設置方法など、ご使用の前に知っておいていただきたいことについて説明します。

使用上の制限について.....26
　使用上の制限.....26
　使用者の制限.....26
　エリア制限.....26
本機の設置について.....27
　設置環境について.....27
　設置場所について.....27
　本機の固定について.....28
　本機の移動.....28
各部の名称とはたらきについて.....29
　装置前面.....29
　装置背面/側面.....29
　操作パネル.....30
　キャリッジ.....32
　キャッピングステーション.....32
　停止スイッチ.....33
ケーブルを接続する.....34
　電源ケーブルを接続する.....34
　LANケーブルを接続する.....35
インクボトルについて.....37
　使用可能なインクの種類.....37
　インクボトルをセットする.....37
　インクボトルを交換する.....41
　遮光カバーが外れてしまったときは.....44
　インクの使用制限について.....44
　インクボトルの保管について.....45
　インクボトル取り扱い上のご注意.....45
メディアついて.....46
　使用可能メディアサイズ.....46
　メディアの保管について.....46
　メディア取り扱い上の注意.....46
テーブルについて.....48
　マスキングレス性能.....48
　マスキングレス性能の劣化に関して.....48
治具の運用について.....49
　治具使用時の利点.....49
　治具製作の流れ.....50
　治具製作時の注意点.....51
作業環境などに関するご注意.....55

1.1 使用上の制限について

使用上の制限

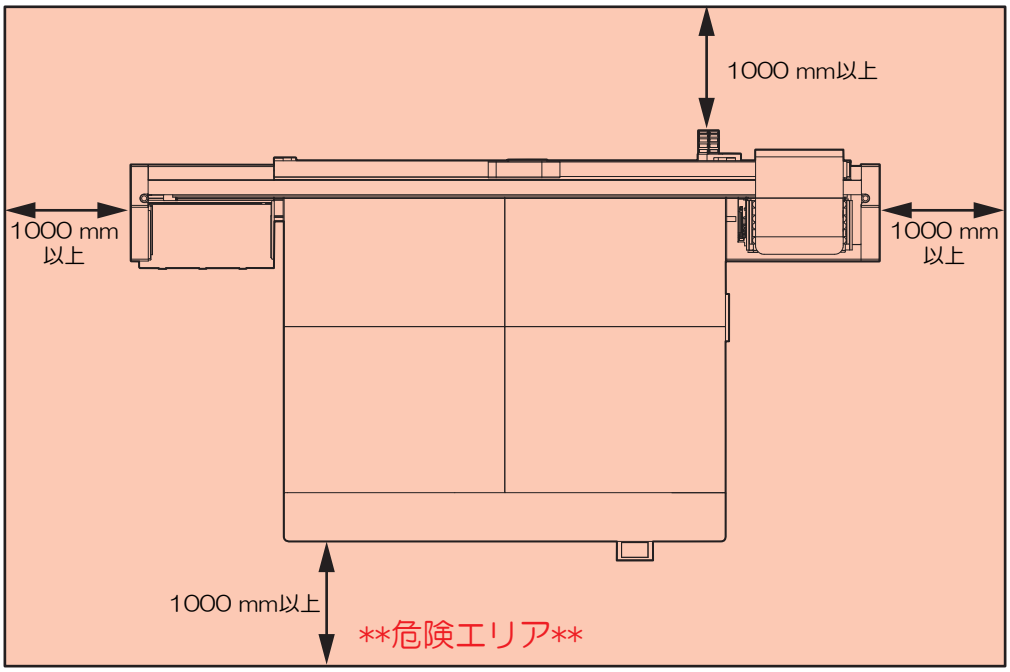
本機は高速可動部、高温部およびUV照射部を有し非常に危険です。本機の使用は、それらの危険性を十分理解した使用者に限られます。

使用者の制限

本機を使用するオペレーターは、弊社が実施する安全教育の受講者、もしくはその受講者から教育を受けた方のみとしてください。

エリア制限

- 適切な訓練を受けた使用者以外の者が装置に近づくことを禁止します。下図に示す範囲でエリア制限を設けてください。エリア制限の方法は、本機を専用の個室に設置する、囲みを設けるなど、危険なエリアであることを認識させる必要があります。
- 危険エリアには、弊社が実施する安全教育の受講者、もしくはその受講者から教育を受けた方のみとし、安全教育受講者以外は立ち入り禁止としてください。本機が動作中に教育を受けていない方が隔離エリア内に入ると、プリント中のYバーに当たるなどケガなどをする危険性があります。
- 安全棚にてエリア制限を行う場合は、EN ISO13857規格にて従う安全棚を設けてください。
- 専用の部屋に設置する場合は、部屋の扉への鍵やインターロックを設け、最終的に設置現場にてリスクアセスメントを実施の上、ご使用ください。





- プリンタ本体のUV-LEDはIEC62471に従ったRisk Group3に分類されます。
製品に表示されている警告ラベルおよび本書の安全上の指示に従って使用してください。



- 本機はIEC62471に従ったRisk Group3に分類されます。本機内部にアクセスする際は、UV 遮光メガネや遮光用フェイスシールド、保護手袋（UPF15以上、UV遮断率93～96%を推奨）、長袖の服を必ず着用してください。制限エリアで作業する場合は、素肌や目が露出していない状態で作業を行ってください。

1.2 本機の設置について

設置環境について

- 粉塵の多い環境では使用しないでください。粉塵が発生する場所で使用すると、吸着テーブルの吸着穴が詰まりやすくなり、メディアを正常に吸着できなくなるおそれがあります。また、プリンター本体の故障や印刷不良の原因となる場合があります。吸着テーブルの吸着穴が粉塵等で詰まった場合、メンテナンスによる復旧は困難であり、基本的には部品交換が必要となります。
  本製品は、粉塵が十分に管理・除去された環境での使用を推奨します。
- 本機は安定したプリントを行うために、+15 ℃～+30 ℃ （59°F～86°F）、35 ～65% Rh の環境でご使用ください。

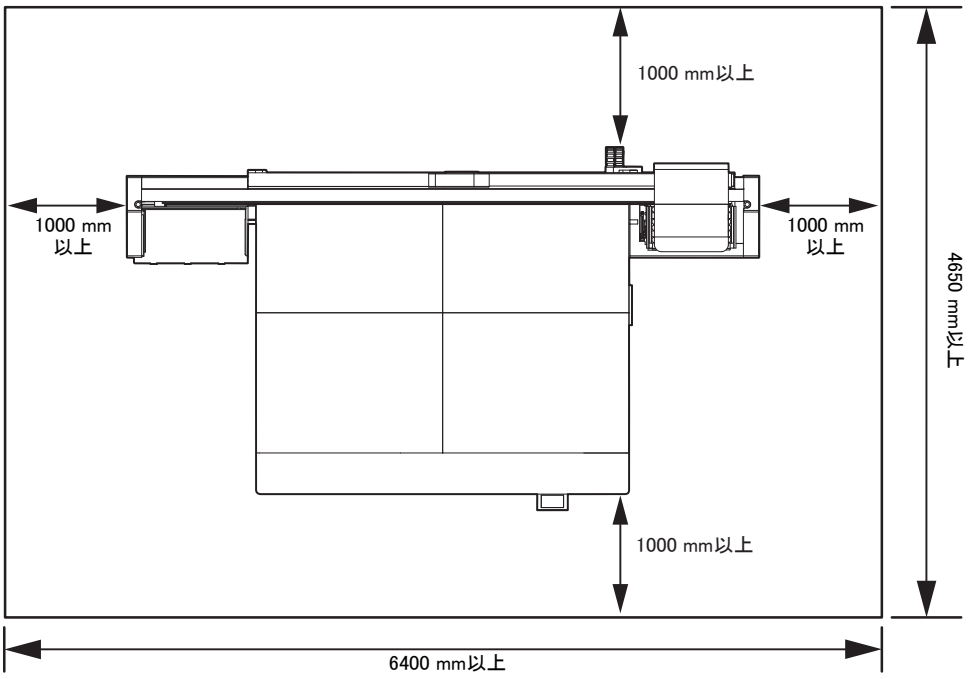
設置場所について

本機を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。

本体の大きさとプリントのために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	横幅	奥行き	高さ	全体重量
JFX220-2515	4400 mm	2550 mm	1490 mm	920 kg

重要！
- 本機はサービスエンジニアにより設置作業を行います。その際、サービスエンジニアによる本機の使用や設置に関するご連絡がありますので、その内容をよくご理解いただいた上で、安全に本機を使用してください。



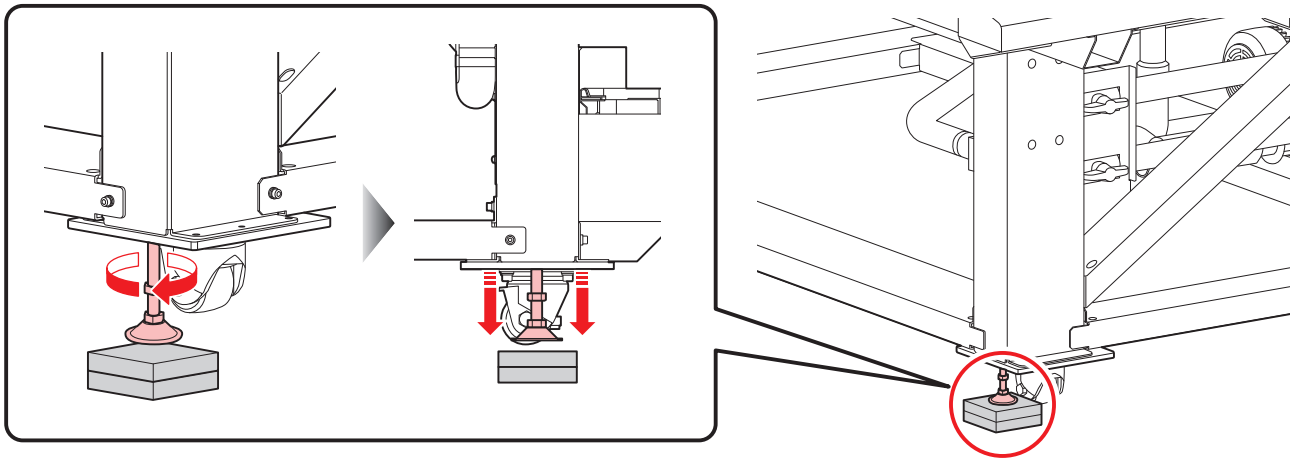
- お客様が通常、写真定着材を使用されている場合、写真定着材の蒸気が充満している部屋には本機を設置しないでください。写真定着材が充満した部屋に本機を設置すると、ヘッドに付着したインクが固まり、ヘッドクリーニングを何度も行っても改善しない画質不良や、ノズル詰まりの原因になります。
- 写真定着材の他にも、酸性蒸（酢酸や塩酸等）の発生している環境下に本機を放置しても同様の現象が発生します。
- 金属切削液や揮発性の高い物質（アミン類、アミン変性アルコール類）を含むものが充満した環境では、マシンを使用しないでください。また、そのような環境からインク、メンテナンスキット類、マシンを隔離してください。ノズル詰まりの原因になります。

本機の固定について

本機の脚には、本機を固定するためのレベルフットが付いています。

本機の電源を投入する前に、必ず、本機がレベルフットで固定されていることを確認してください。

レベルフットで固定されていない状態でプリントをすると、本機が動き出す場合があります。



- 本機の重量を支えるために、付属の樹脂製（グレー）の床板をレベルフットと床の間に敷いてください。

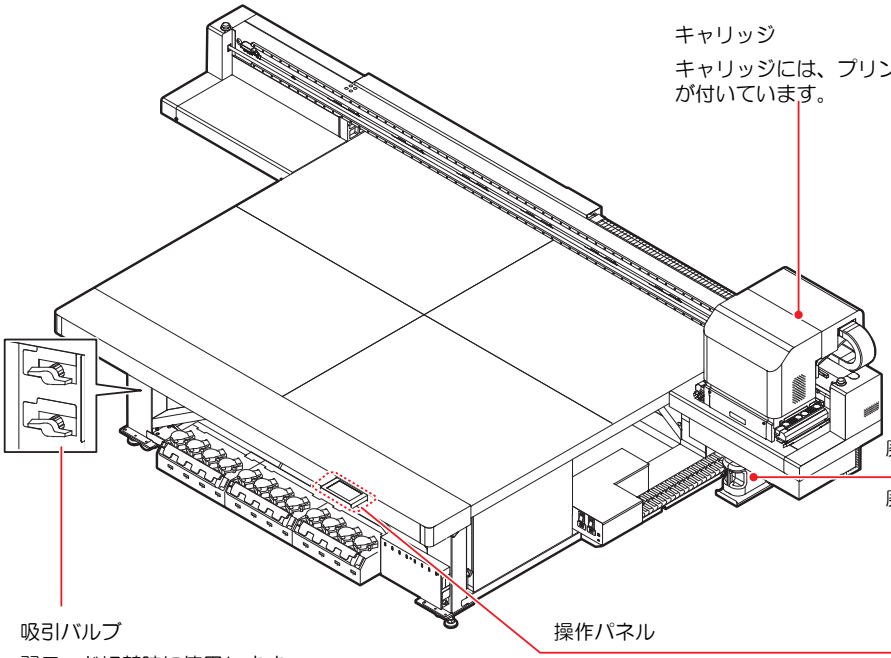
本機の移動

重要！

- 本機の移設の際は、弊社営業所または販売店までご連絡ください。
  お客様が本機の移設を行うと、故障や破損の原因になります。
  本機の移設は、必ず専門の担当者におまかせください。

1.3 各部の名称とはたらきについて

装置前面



キャリッジ

キャリッジには、プリント用のインクヘッドが付いています。

廃インクタンク

廃インクを溜めるタンクです。

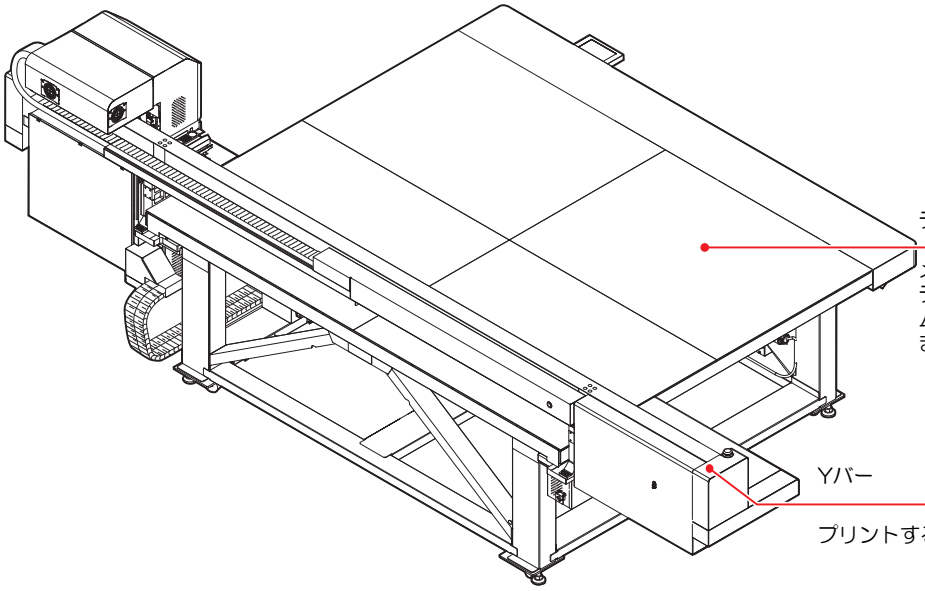
吸引バルブ

弱モード切替時に使用します。

操作パネル

本機に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。

装置背面/側面



テーブル

メディアをセットします。
テーブル上に吸着穴があり、バキュームをオンにすると、メディアを吸着します。

Yバー

プリントするとき、テーブルの上を移動します。

操作パネル

操作パネルは、プリント方法の設定、各種操作に使用します。

- 操作パネルに過度な荷重を加えないでください。耐荷重は8kgです。



№	項目	概要
1	プリンタ情報	アイコンにて現在のプリンタの状況表示します。 アイコンをタップすることで使用状況やメンテナンス履歴などを確認する画面を表示します。
2	インク情報	各スロットのインク残量を表示します。 タップすることで詳細情報画面を表示します。
3	アラーム情報	エラー発生状況を通知します。 アイコンをタップすることで発生エラーの一覧表示画面を表示します。
4	タブ領域	タップすることで該当する機能、設定画面を表示します。
5	ホーム	ホームメニューを表示します。ホームメニューではプリンタの基本的な操作に関する項目が表示されます。
6	メンテナンス	メンテナンスメニューを表示します。 クリーニング、キャリッジアウトなどマシンのメンテナンスに関わる機能を表示します。
7	設定	設定メニューを表示します。機能の設定やメンテナンス設定など各種設定項目を表示します。
8	バキューム	アイコンをタップすることでバキュームON/OFFを切り替え可能です。

プリンターステータスについて

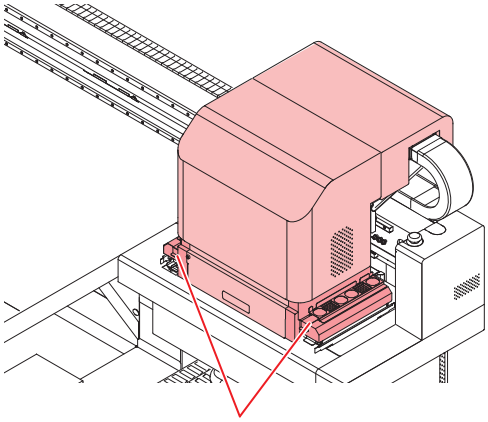
● アイコン一覧

アイコン	状態	概要
	インフォメーションあり	インフォメーションがある場合表示されます。
	一時停止	プリントを一時停止している状態です。
	プリント中	プリントが実行されている状態です。
	ワーニング発生中	ワーニングエラーが発生している状態です。
	メンテナンス中	クリーニング等のメンテナンス動作が実行されている状態です。
	エラー発生中	エラーによりプリントができない状態です。

キャリッジ

キャリッジには、プリント用のインクヘッドとUV LED装置が付いています。

- 点灯中のUV LEDから出る光を直接肉眼で見ないでください。
- 点灯中や消灯直後はUV LED装置に触らないでください。熱くなっているため大変危険です。



キャッピングステーション

- キャッピングステーション内をクリーニングする場合は、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。目にインクが入る危険があります。

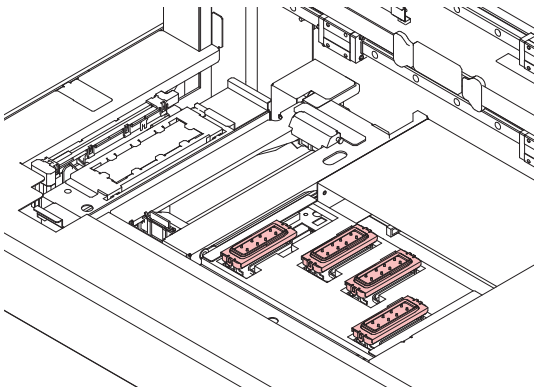
キャッピングステーションは、インクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパーなどで構成されています。

インクキャップは、インクヘッドのノズル乾きを防ぎます。

ワイパーは、ヘッドクリーニングに使用します。

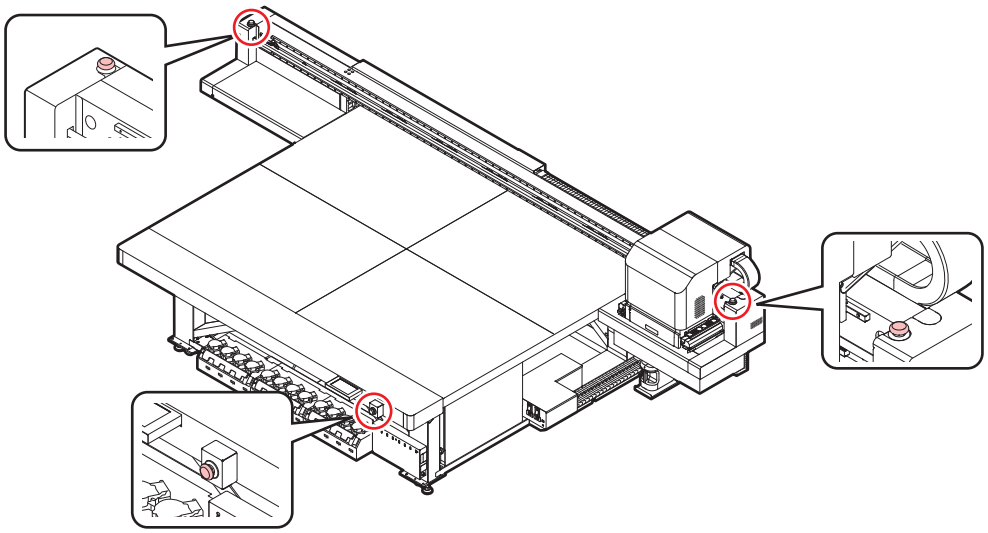
ワイパーは、消耗品です。ワイパーが変形したりメディアが汚れる場合は、新しいワイパーに交換してください。

「ワイパーを交換する」（P. 150）



停止スイッチ

安全上の理由で、本機を停止したいときに押します。
停止スイッチは、マグネットエマーが1個、Yバーの左端と右端に1箇所ずつあります。

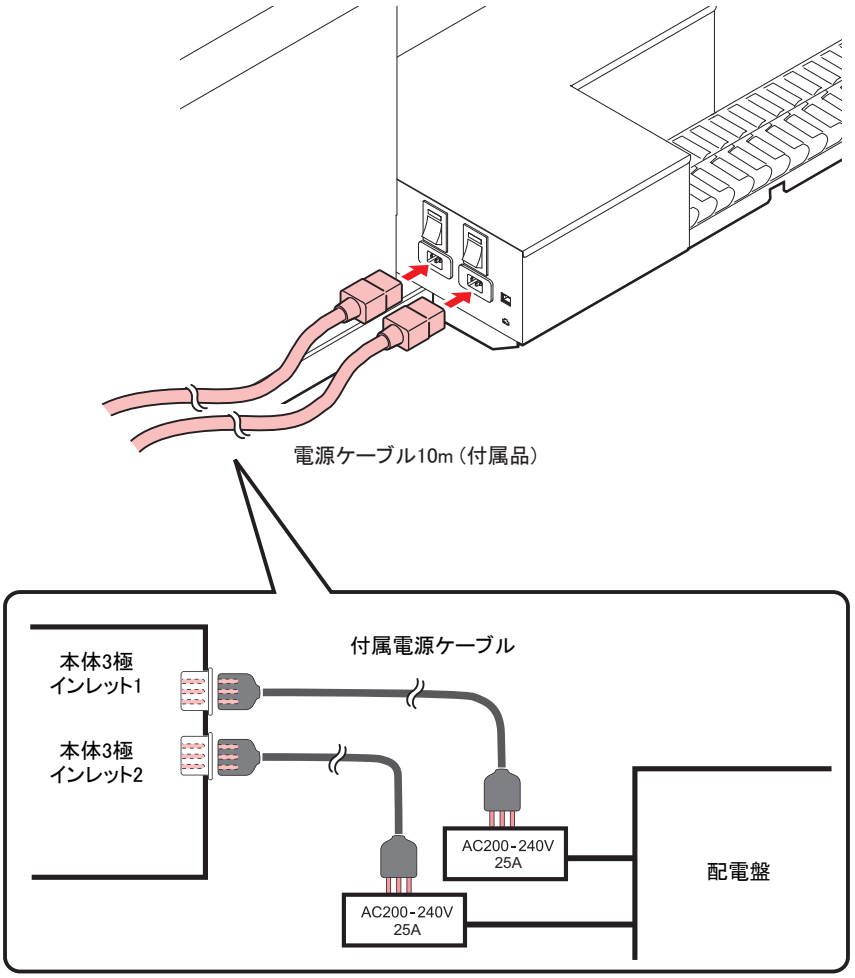


停止スイッチを押して停止をした場合は、以下の手順で解除してください。

(1) 異常原因を取り除く。
(2) 安全確認後、停止スイッチを回転させて解除する。
(3) [ENTER]キーを押す。

1.4 ケーブルを接続する

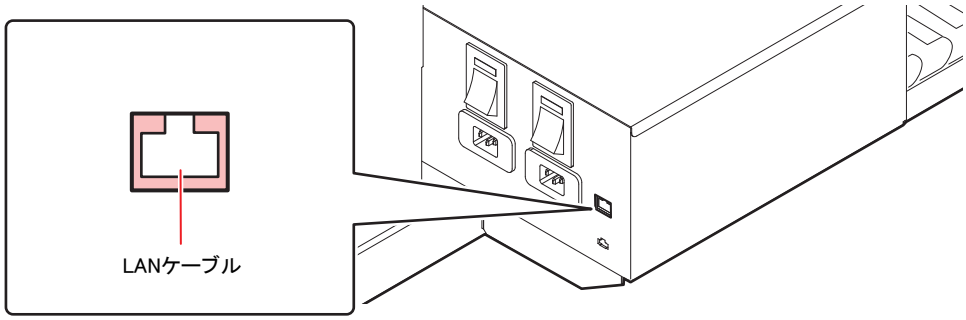
電源ケーブルを接続する



LANケーブルを接続する

LANケーブルを接続するときは、以下の注意事項を厳守してください。

重要! • カチッと音が出るまで確実に差し込んでください。
• データ転送中は、ケーブルの抜き差しをしないでください。



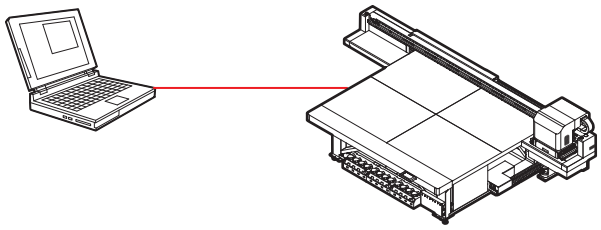
ネットワーク経由で印刷を行う場合

ネットワーク経由で印刷を行う場合、下記の環境でネットワークを構築する必要があります。
不適切な環境で構築を行うと、印刷が停止する原因となります。

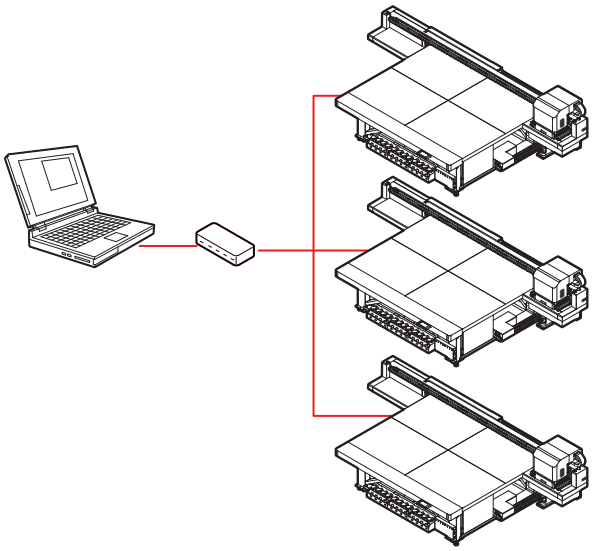
- カテゴリー6または、カテゴリー6AのLANケーブルを使用する。
- 1000BASE-T 対応のPC、スイッチングハブを使用する。

重要! • 印刷データを送信するPCとプリンタは同じネットワークとなるようにしてください。
• ルータを経由した接続はできません。

● プリンタと直接接続する場合



● スイッチングハブを経由して接続する場合



プリンタに接続したPC、機器が1000BASE-T以外の場合、印刷できません。接続後、以下を確認してください。

1. プリンタの画面表示を確認する。
   – ローカル画面、メディア検出画面から[ENTER] キーを数回押し、情報画面を表示する。
   – LANステータスの項目に「1000Mbps」と表示されていることを確認する。

1.5 インクボトルについて

使用可能なインクの種類

本機で使用できるインクは、以下となります。

4色モデル （ELS-120）	シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックを各３本ずつ使用
4色＋白＋クリア＋プライマーモデル （ELS-120）	シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックを各1本ずつ、ホワイトを4本、クリア、プライマーを各２本ずつ使用
6色＋蛍光ピンク＋蛍光イエロー＋白＋クリア＋プライマーモデル （ELS-120、EFS-150）	シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック・蛍光イエロー、蛍光ピンク、ライトシアン、ライトマゼンタを各1本ずつ、ホワイトを2本、クリア、プライマーを各1本ずつ使用

使用するインクタイプによって、使用可能なクリアインクが異なります。

インクタイプ	クリアインクのインクタイプ	蛍光イエロー、蛍光ピンクのインクタイプ
ELS-120	ELS-120	EFS-150

上記の組み合わせ以外は使用できませんので、ご注意ください。

インクボトルをセットする

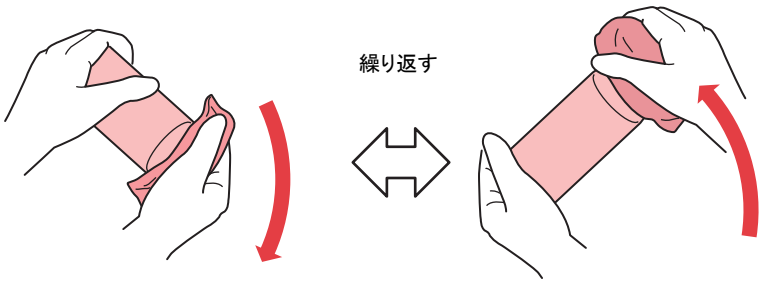
1 **インクボトルを取り出し、20 回以上ゆっくりと左右に振る。**

- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでインクボトルのフタをしめた状態で、ゆっくりとインクを流すように左右に20回以上振ります。

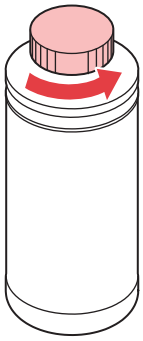
重要！

- フタがしっかりと閉まっていることを確認してから振ってください。
- 強く振りすぎるとインク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、インクボトルが縦になるまで傾けてください。

- 操作パネルを奥に押し込んだ状態で本作業を行ってください。作業時は、操作パネルおよびテーブルに頭部を接触させないよう注意してください。

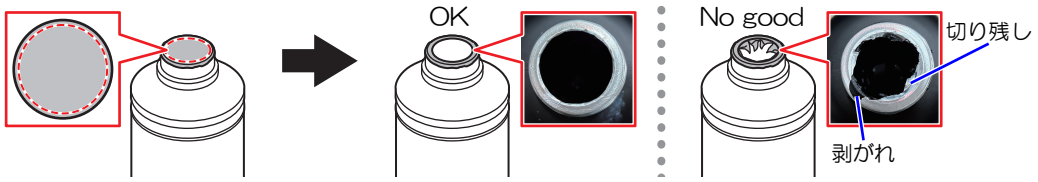


2 インクボトルのフタを外す。



重要! インクボトルの口元にシールが付いている場合

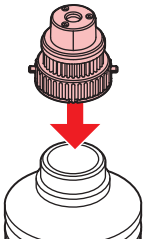
- カッターなどを使って、シールを丸く切り取ってください。切り残しがあると、インクが漏れる原因になります。

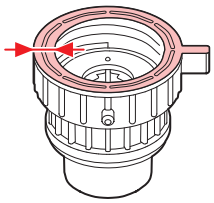


- インクボトルの口元やシールの貼り付け部を傷付けないでください。傷が付いた部分から、インクが漏れるおそれがあります。
- シールの破片をインクボトル内に落とさないように注意してください。シールの破片がボトル内に入ったまま使用すると、ボトルキャップに詰まってインクが供給できなくなるおそれがあります。

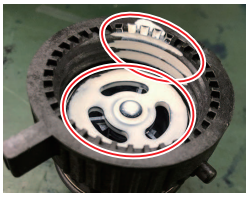
3 専用キャップをインクボトルにセットする。

- セットするインクの種類によって、使用する専用キャップが異なります。



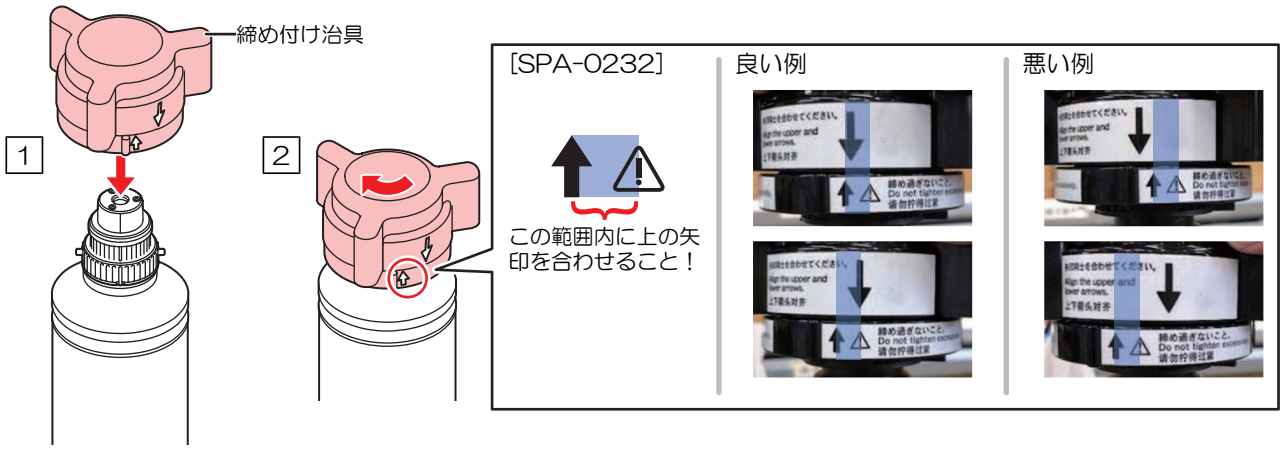
インクタイプ	キャップタイプ
• プライマーインク • ELS-120インク	【キャップB】 

- インクボトルやボトルキャップにインクやメンテナンス液が付着しているときは、インクを拭き取ってください。ボトルキャップが空回りしてインクが漏れる原因になります。

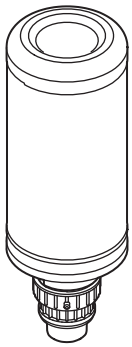
- ボトルキャップに紙タオルの欠片やホコリなどの異物が付着していないかどうかを確認してください。異物が付いたまま使い続けると、インク経路に異物が詰まってインクが漏れる原因になります。

4 締め付け治具を使って、専用キャップを締める。



- ボトルキャップを締めすぎないでください。破損したり、空回りしたり、インクが漏れたりするおそれがあります。上記の範囲を超えた場合は、一度ボトルキャップを緩めてから、やり直してください。
- ボトルキャップを取り付けたまま、インクボトルを長時間放置しないでください。インクが硬化してしまう原因になります。

5 ボトルを逆さにして、インクが漏れないか確認する。

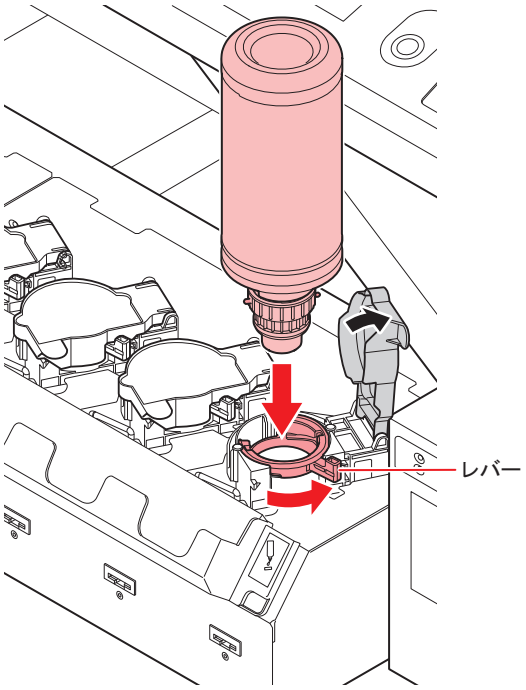


重要！
- インクボトルに専用キャップを取り付けたままで、光の当たる場所に長時間放置しないでください。ボトル内のインクが硬化する可能性があります。

6 タンクにインクボトルをセットする。

- タンク部のレバーを右端まで確実に回してから、インクボトルをセットしてください。

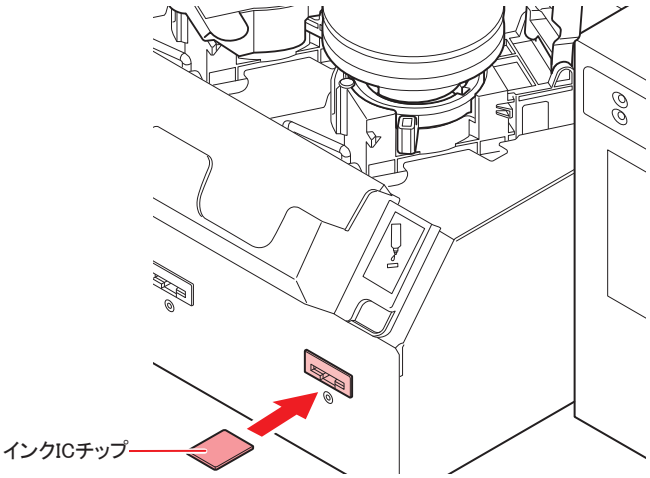
重要! • インクボトルをタンクにセットしたら、絶対にインクボトルを回さないでください。インク漏れの原因になります。



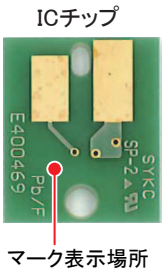
7 タンク部のレバーを右から左へ回す。

8 インクICチップを差し込む。

- インクICチップは金属が付いている方を左にして差し込んでください。間違えて差し込むと、故障やインクICチップ 破損の原因となります。
- インクICチップ の金属部分には触れないでください。静電気によるインクICチップ 破損や、汚れ・傷によるIC 読み取り不良の原因となります。
- インクボトルのセット順は「インクボトルのセット順」（P. 187）を参照してください。



重要！
- インクICチップには、インクカラーやインク残量・使用期限などの情報が書き込まれています。インクボトルをセットするときは、インクボトルと一緒に梱包されているインクICチップをインクカバーに付いているインクICチップ挿入口に差し込んでください。
- インクボトルと対になっていないインクICチップをセットすると、画質不良などの原因となります。
- インクICチップにはカラー情報を表すマークが貼られています。



インクカラー	表示マーク
ブラック	●（黒丸1つ）
シアン	●（青丸1つ）
マゼンタ	●（赤丸1つ）
イエロー	●（黄丸1つ）
ライトシアン	●●（青丸2つ）
ライトマゼンタ	●●（赤丸2つ）
ホワイト	○（白丸1つ）
クリアー	○○（白丸2つ）
プライマー	○○○（白丸3つ）
蛍光ピンク	●●（橙丸2つ）
蛍光イエロー	●●（黄丸2つ）

インクボトルを交換する

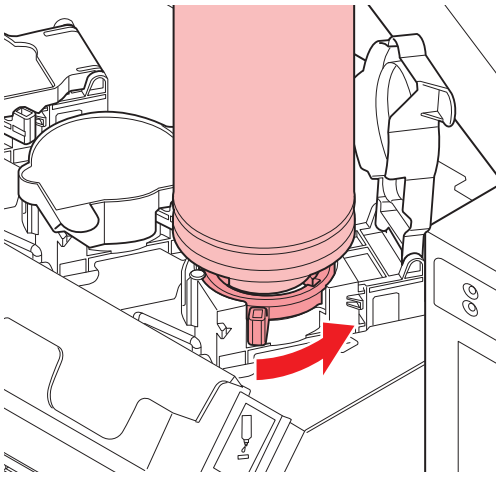
ディスプレイに[インク エンド]や[インク ニアエンド]などが表示されたときは、次のようにしてください。

- 操作パネルを奥に押し込んだ状態で本作業を行ってください。作業時は、操作パネルおよびテーブルに頭部を接触させないよう注意してください。

[インク エンド]が表示されたとき

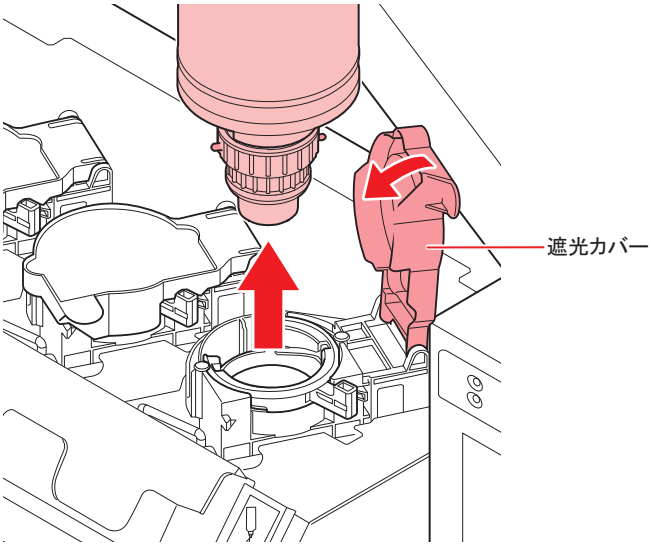
1 タンク部のレバーを左から右端まで回す。

重要! • インクボトルは絶対に回さないでください。インク漏れの原因になります。

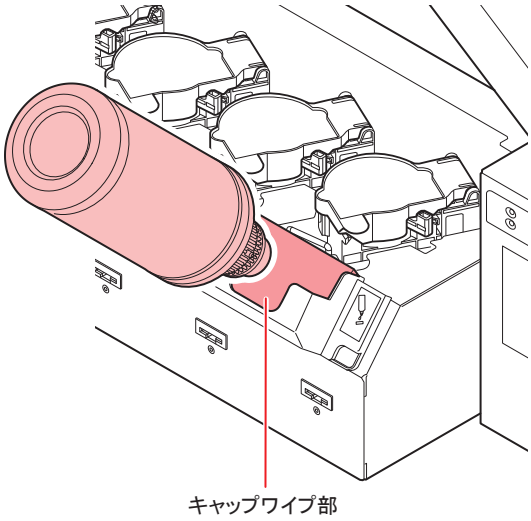


2 インクボトルを垂直に持ち上げる。

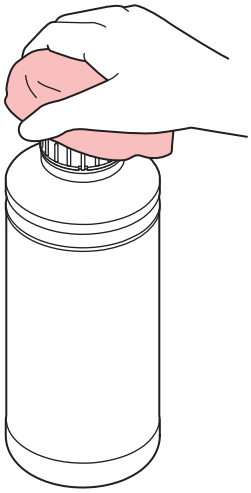
重要! • インクボトルをタンクから外したとき、遮光カバーが閉まっていることを確認してください。
• フタが閉まっていない場合は、手で閉めてください。遮光カバーが開いていると、インクが硬化する原因になります。



3 拭き取りフィルタでキャップ下面に付着したインクを拭き取る。



4 キャップを上にしてボトルを置き、キャップに付着したインクをキムワイプなどで拭き取る。



5 使用済みのインクボトルからキャップを取り外す。

- キャップが外しづらい場合は、締め付け治具を使って取り外してください。

6 新しいインクボトルをセットする。

- ☞「インクボトルをセットする」（P. 37）

重要！
- インクボトルに専用キャップを取り付けたままで、光の当たる場所に長時間放置しないでください。ボトル内のインクが硬化する可能性があります。

- ボトルをセットする前に、キャップ部に異物が付着していないか確認してください。紙片やホコリ等が付着していると、経路つまりの原因になることがあります。

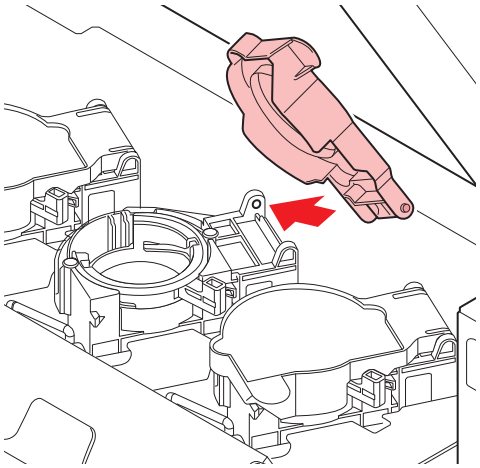
● [インク ニアエンド]が表示されたとき

インク残量が少なくなっています。続けてプリントをすることはできますが、プリント中にインクがなくなる恐れがあります。早めにインクボトルの交換をすることをお勧めします。

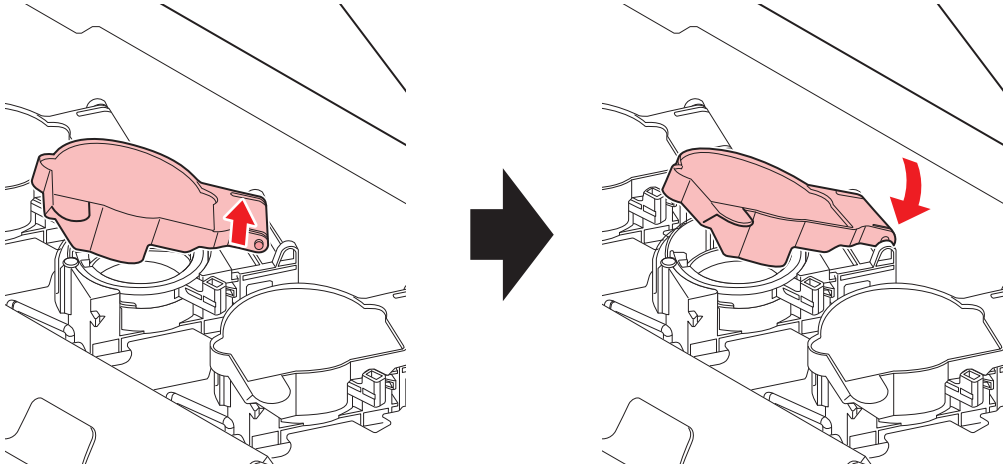
遮光カバーが外れてしまったときは

遮光カバーが外れると、タンク内部に光が当たり、インクが硬化する原因となります。
遮光カバーが外れたときは、次の手順で取り付けてください。

1 **遮光カバーの突起（片方）をタンクの穴に差し込む。**



2 **手順1で差し込んだ穴の方に押しながら、もう一方の突起を差し込む。**



インクの使用制限について

インクボトルにインクの消費有効期限が記載されています。
インクの消費有効期限を超えると、インクの吐出不良や色みに変化を生じるおそれがあります。
消費有効期限を超えてもプリントすることはできますが、新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ることをお勧めします。
例）消費有効期限の記載が、2020年4月の場合
5月：新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
6月：新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
7月：新しいインクに交換してください。まもなくプリント不可になります。

- ディスプレイにメッセージを表示してお知らせします。

インクボトルの保管について

次の事項に注意して保管してください。

- 直射日光があたらず、湿度の高くない場所に保管してください。
- インクボトルを落下させたりぶつけたりしないでください。
- インクICチップは、汚したり、静電気放電させないでください。
- インクボトルとインクICチップは必ず一緒に保管してください。



インクボトルとインクICチップ

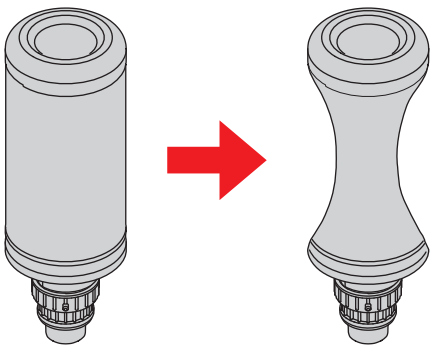
インクボトル取り扱い上のご注意

- 万一、インクが目に入った場合は、直ちに大量の清浄な流水で15 分以上洗い流し、まぶたの裏まで完全に洗い流してください。できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- インクボトルは1m以下の場所で保管してください。1m以上の高所で保管していると、インクボトルが落下した際にキャップが外れ、中のインクが飛散する恐れがあります。
- インクボトルは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 本機には専用のインクボトルをお使いください。本機は、専用のインクボトルを認識して動作します。インクボトル等の改造により故障した場合は、保証期間内であっても保証の対象外になります。
- インクボトルを寒い所から暖かい所に移した場合は、３時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- インクボトルは冷暗所で保存してください。
- 空になったインクボトルは、産業廃棄物の処理業者に処理を依頼してください。
- インクボトルは、開封してから3 ヶ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。

- インクボトルを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、ボトルからインクがもれることがあります。
- インクボトルのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。
- IC チップの基板接点部分は、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。

重要!

- インクボトルを本機にセットしている状態でも、図のようにボトルがへこむ場合がありますが、本機の使用については問題ありません。



1.6 メディアついて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

項目名	JFX220-2515
最大幅	2580mm
最大長	1940mm
最大プリント幅	2500mm
最小サイズ	200×200mm
厚さ	101.6mm (4inch.)以下
重量*1	平米あたり50kg以下 （集中荷重不可／治具重さ含む）

*1. $1m^2$あたり、50kg が目安です。

メディアの保管について

メディアは、ほこりが付きにくく直射日光が当たらない場所に保管してください。また湿度も嫌いますので高温多湿な場所での保管は避けてください。

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。

● メディアの伸縮

包装を開けて間もないシート状のメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。開封後、30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。

● メディアの反り

板状メディアは、平らなもの、プリント面を上にして下に反っているもの（中央が浮いているもの）をご使用ください。上に反っているメディアは、テーブルに吸着できない場合があります。反りやすいメディアは、一回り小さめの台やパレットの上に置くなど、下反りになるように保管してください。また、吸着エリアからはみ出しているメディアについて、反りが無いようご注意ください。

● メディアの吸着

メディアから印刷がはみ出すと、余分なインクやトナーが吸着穴に混入し、吸着テーブルの劣化を早める原因となります。印字がはみ出すおそれがある場合は、吸着穴を保護するなどの対策を行うことを推奨します。

メディアの通気性により吸着しやすいメディアとしにくいメディアがあります。通気性が高いメディアは吸引しにくい/できないことがありますので、印刷前に確認してください。

● その他の注意点

- コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合があります。
- 吸着しきれないカールしたメディアや、Y バー移動時にずれてしまうメディアは使用できません。テープ貼付などでメディアを固定してからご使用ください。
- ロジカルシークの設定を“OFF” にしても、反りや変形が生じるメディアは使用しないでください。

- テーブルは複数枚の板で構成されているため、メディアの厚みやコシによっては継ぎ目が印刷画像に反映されます。また、吸着穴も同様に印刷画像に影響を与えることがあります。事前にテストプリントを行い、問題のないことを確認してから、印刷を行ってください。
  （薄いメディアを使用の場合、バキュームの吸引を弱モードに切り替えることによって凹みを軽減させることができます。☞「メディアをセットする」（P. 63））

1.7 テーブルについて

マスキングレス性能

小さなメディア等吸着の際に、吸着不要エリア(余るエリア)を余計なマスキングせずに吸着することができる性能のことです。

マスキングレス性能の劣化に関して

- マスキングレス吸着テーブルは、吸着穴へのホコリ・チリ蓄積による劣化があります。
- 吸着穴にゴミが蓄積しやすい環境等は「マスキングレス性能」の劣化を早めてしまいます。(マスキングレスで吸引しにくくなる)
- マスキングレス性能が劣化した際には、吸着テーブルAssyを交換をすることができます。
- 長く使用するために、メディア交換毎に掃除機やエアダスターによるテーブル上の掃除を推奨します。
- 長期にわたって使用しない吸着穴は、劣化抑制を目的に事前にマスキングテープ等による保護を推奨します。
- 吸着テーブルエリア全体を使用するような印刷(使用)が最も長く使いやすい環境です。

1.8 治具の運用について

治具とは、メディアを正しい位置に固定するための道具です。治具を使うと、誰でも簡単に正確な位置へ印刷することができます。

治具使用時の利点

治具を使用することで、以下のような利点があります。

● 安定した印刷品質の維持

- メディアを正しい位置に固定できるため、印刷位置ズレを防止します。
- 適切なギャップを保ちやすく、インクミストや迷光の発生を抑制できます。（☞「用語の説明」（P. 49））

● 作業の効率化

- メディアのセットが容易になり、複数枚の連続印刷をスムーズに行えます。
- 作業者によるばらつきが少なく、安定した作業時間で印刷できます。

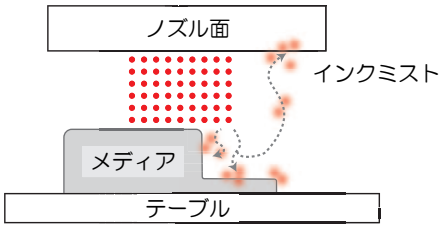
● トラブルの予防とメンテナンス負荷の低減

- ヘッド面へのインク付着や汚れの発生を抑え、ノズル詰まりを防止します。
- ノズル詰まり復旧のためのメンテナンスや清掃の頻度を低減し、機器の負担を軽減します。

用語の説明

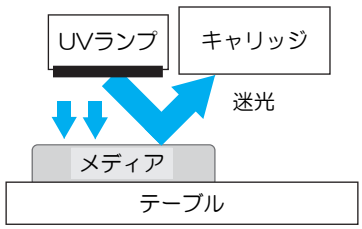
● インクミスト

印刷中にインクが霧状に広がる現象で、ヘッドとメディアの距離（ギャップ）が広がるほど、インクミストが空気中に舞いやすくなります。



● 迷光

本来メディア上のインクに当たるUV光が、反射・拡散してヘッド面など余計な部分に当たってしまう現象のことです。

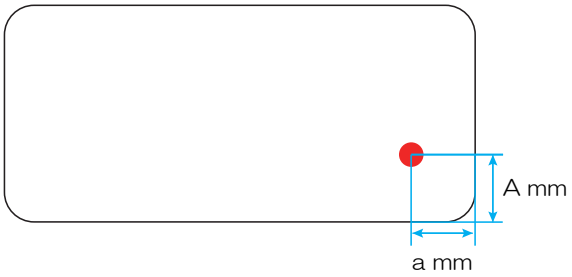


重要！ ・インクミストや迷光が発生すると、ノズル抜け等 吐出不良の原因になります。

治具製作の流れ

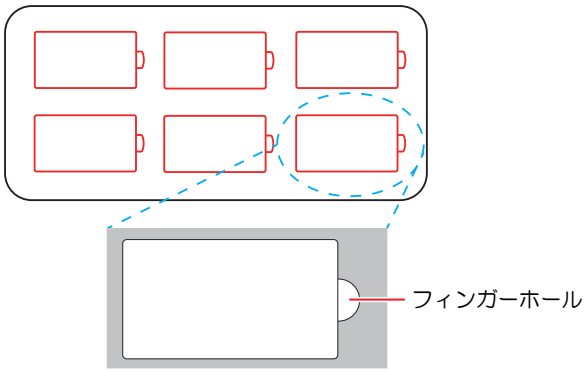
1 印刷領域、治具のサイズを確認する。

- 製品の推奨治具サイズ（☞ P. 53）を確認します。
- 印刷開始位置（作図原点）を決めます。



2 メディアの配置を決める（向き / 挿入方向 / 余白）。

- メディアの向き、挿入方向を決めます。
- メディア交換のしやすさを確認します。必要に応じて、指かけ用の開口部（フィンガーホール）を設けてください。
- 余白を決めます（端の余白、メディア間隔）。メディアの間隔が均等になるように配置します。

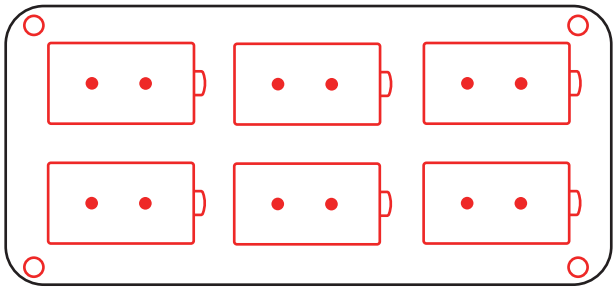


3 治具の素材を選ぶ。

- 反りにくい素材を使用してください（アルミ、アルミ複合版、ABS樹脂など）。
- UV光が反射しない色の素材を使用してください。
  推奨：黒色、マット調

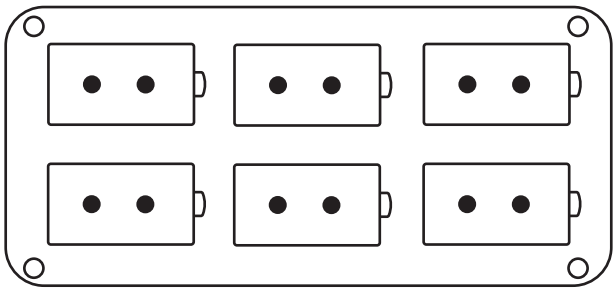
4 治具の設計をする（厚み / 重量 / 吸着穴 / 治具の固定）。

- 治具＋メディアの厚みが仕様範囲内（☞ P. 53）となるように設定します。
- 治具＋メディアの重量が仕様範囲内（☞ P. 53）か確認します。
- 吸着穴を設けてください。

レイアウト案		
素材	アルミ複合版, 黒マット加工	
厚み	10 mm	
重量	推定1.5 kg	

5 治具を製作する。

- 自作する場合：レイアウト案をもとに加工します。
- 外部へ依頼する場合：レイアウト案をもとに依頼します。
  - メディアの大きさ・形
  - メディアの配置方法（向き、挿入方法、余白など）
  - プリンター機種名と仕様（テーブルタップ位置、許容メディア重量）
  - 治具の詳細情報（素材・色・固定方法など）

レイアウト案		
素材	アルミ複合版, 黒マット加工	
厚み	10 mm	
重量	推定1.5 kg	

治具製作時の注意点

インクミストや迷光の発生を抑制するため、以下の点に注意して治具を製作してください。印刷品質の低下、インク硬化不良、動作不具合など、下記のような症状が発生するおそれがあります。
なお、メディアセット後の治具の重量・厚みは、使用するUVプリンターの仕様範囲内としてください。動作不具合やヘッド衝突により、マシン故障の原因となるおそれがあります。

- プリンターの作図範囲に収まるようにレイアウトしてください。
- メディアの間隔を均一にしてください。

発生する症状
• データの一部が欠ける • データの配置が難しくなる • 色ムラや硬化ムラが発生する

● 治具の素材

- 反りにくい素材を使用してください。アクリル板や木材等、反りやすい素材は使用しないでください。
  推奨：アルミ、アルミ複合版、ABS樹脂 など

発生する症状
• 印刷面に擦れが発生する • 印刷位置がずれる • ヘッドと衝突する

発生する症状
[障害物センサーがある場合] • センサーが反応してテーブルが下がり、インクミストや迷光が発生する
[メディアジャムセンサーがある場合] • センサーが反応し、印刷が停止する

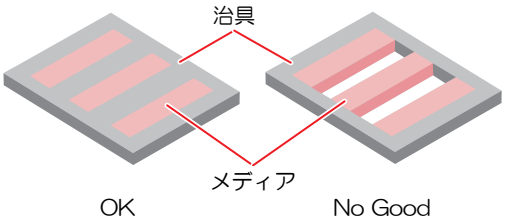
● 治具の色

• UV光が反射しない色を使用してください。白, 銀, 透明など、UV光が反射しやすい色は使用しないでください。
推奨：黒色・マット調

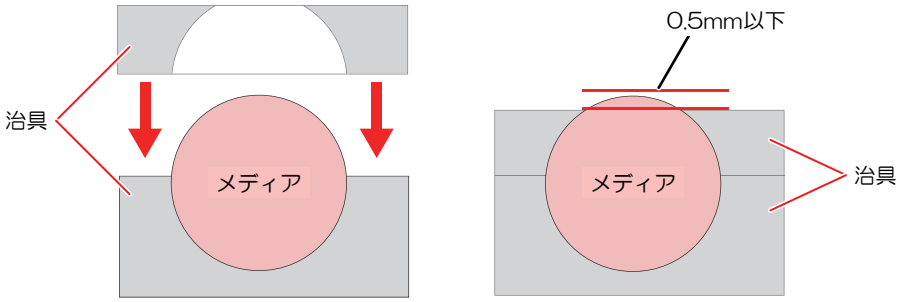
発生する症状
• 迷光や乱反射によりノズル面にUV光が当たり、ノズル不良が発生する

● 治具設計時

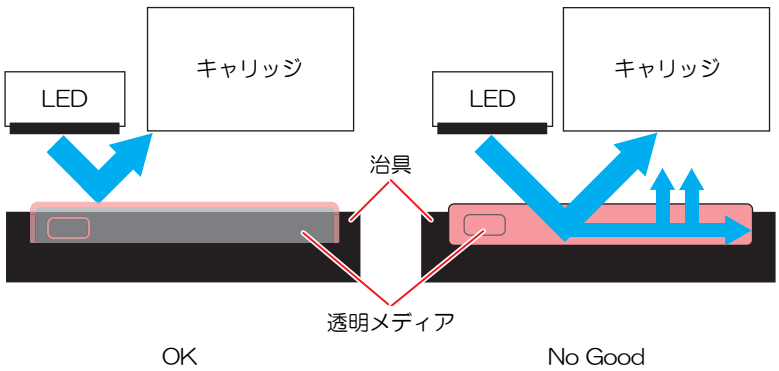
• メディアの余白は治具で埋めてください。



• メディアの凹凸が0.5mm以下になるように作成してください。



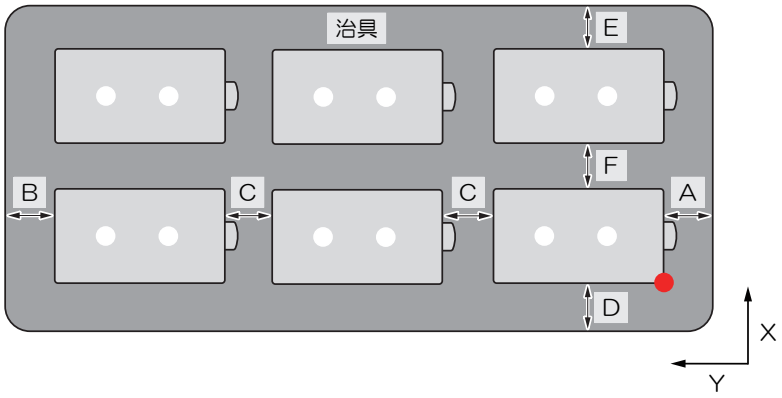
• 透明メディアに印刷する場合、治具とメディアの間に空洞（隙間）がないように製作してください。



発生する症状
• インクミストが発生する • UV光が透過し、迷光や乱反射によりノズル面にUV光が当たり、ノズル不良が発生する

推奨治具サイズ / 製品仕様-重量

［上から見た図］



● 推奨治具サイズ（フル幅印刷時[*1]）

		JFX200series, JFX220-2515,JFX500-2131, JFX600-2513, UJF-7151Plus / PlusII / PlusIIe, UJF-3042/6042MkII(e)	JFX600-2531
Y	A	60mm	50mm
	B		
	C	任意[*2]	
X	D	120mm	
	E		
	F	任意[*2]	

*1. 下記表参照

*2. メディア間を隙間なく治具で埋めること

● [*1] フル幅印刷時のセット可能治具サイズ

	Y		X	
	A	B	D	E
JFX200series	40mm	40mm	120mm	120mm
JFX220-2515	40mm	40mm	120mm	120mm
JFX500-2131	7.5mm	7.5mm	47mm	47mm
UJF-7151Plus / PlusII	49mm	49mm	53mm	19mm
UJF-3042 / 6042MkII (e)	32mm	32mm	22mm	22mm
JFX600-2513	40mm	40mm	50mm	120mm
JFX600-2531	40mm	40mm	20mm	120mm

● 製品仕様 - 重量

	重量
JFX200series	50kg / m^2以下 （集中荷重が無いこと）
JFX220-2515	
JFX500-2131	

	重量
JFX600	
UJF-7151Plus	10kg以下
UJF-7151PlusI (e)	30kg以下
UJF-3042MkII (e)	5kg以下
UJF-6042MkII (e)	8kg以下

1.9 作業環境などに関するご注意

印刷設定やメンテナンスを行う頻度については、印刷を行う作業環境や使用するメディアの条件などが大きく影響します。次の各項目を十分に理解して、本機をお使いください。

● ホコリやチリが多い環境の場合

- ホコリなどの量により、オートメンテナンスの設定を変更してください。

● メディアから繊維が飛び出しているなどの理由で、ヘッドギャップ値を大きく設定している場合

● ガラスや光沢金属など、UV光を反射しやすいメディアを使用している場合

- 飛散ミストが多い状態でUV光がノズルに暴露する場合があります。作図中のリフレッシュレベルを上げて、プリント中メンテのオートクリーニングを設定してください。☞「メンテナンス設定メニュー」（P. 90）
- 各種メンテナンスを行う頻度を増やしてください。

● 使用率の低いインク（プリントヘッド）がある場合

- 使用率の低いプリントヘッドは、他のプリントヘッドと比較してインクの吐出が不安定になる傾向があります。作図中のリフレッシュレベルを上げて、ヘッド使用率を一定以上にしてください。☞「メンテナンス設定メニュー」（P. 90）

● 静電気が帯電しやすいメディアに印刷する場合

● 湿度の低い環境で印刷する場合（冬期など）

- 加湿器を置くなどして、帯電対策を十分に行ってください。静電気によりミストやホコリが印刷エリアやヘッド周辺に集まりやすくなります。長時間の連続した印刷を行う場合は、プリント中メンテのオートクリーニングを設定してください。☞「メンテナンス設定メニュー」（P. 90）

● 凹凸の多いメディア（立体物）に印刷する場合

- メディアの端部が浮き上がる場合は、必要に応じてマスキングテープ等を使用し、印刷時のヘッドギャップが均一になるように固定してください。反射光によるヘッドの劣化を長期間放置すると、ヘッド交換を必要とする故障の原因となる場合があります。

第 2 章　基本的な使い方



この章では...

プリントするためのインク/メディアの準備や、プリントまでの手順や設定方法について説明します。

作業の流れ.....58
電源を入れる/切る.....59
　電源を入れる..... 59
　電源を切る..... 59
メディアをセットする.....61
　メディアの正しい載せ方..... 62
　メディアをセットする..... 63
メディアの厚みを登録する.....68
　メディアの厚みを手動で登録する..... 68
　メディアの厚みを自動測定する..... 69
ヘッドギャップを設定する.....71
　ヘッドキャップ値を登録する..... 71
　ヘッドギャップ値を確認する..... 73
テストプリントをする.....74
　作図不良の例.....74
　ヘッドの配列とテストパターンの関係.....75
　テストプリントを行う.....76
ヘッドクリーニングをする.....78
双方向プリントのドット位置を調整する.....79
　ドット位置を補正する.....79
データをプリントする.....81
　原点を変更する.....81
　プリントを開始する.....82
　プリントを一時停止する.....83
　プリントを中断する.....83
　Yバーを移動させる.....84

2.1 作業の流れ

1. 電源を入れる/切る

☞「電源を入れる/切る」（P. 59）

2. メディアをセットする

☞「メディアをセットする」（P. 61）

3. メディアの厚みを登録する

☞「メディアの厚みを登録する」（P. 68）

4. ヘッドギャップを設定する

☞「ヘッドギャップを設定する」（P. 71）

5. テストプリントをする

☞「テストプリントをする」（P. 74）

6. ヘッドクリーニングをする

☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）

7. 双方向プリントするときは、ドット位置を調整する

☞「ドット位置を補正する」（P. 79）

8. データをプリントする

☞「データをプリントする」（P. 81）

2.2 電源を入れる/切る

電源を入れる

プリンタの主電源スイッチを入れることでプリンタの初期化動作を行います。

- 通常、電源コンセントは差したままにしておいてください。電源コンセントを抜いたまま放置すると、ヘッドのノズルが目詰まりを起こす原因になります。症状によっては、復旧が困難になる場合があります。

電源を切る

1 プリンタの使用が終了したら、操作パネルのホーム画面で[電源オフ]をタップします。



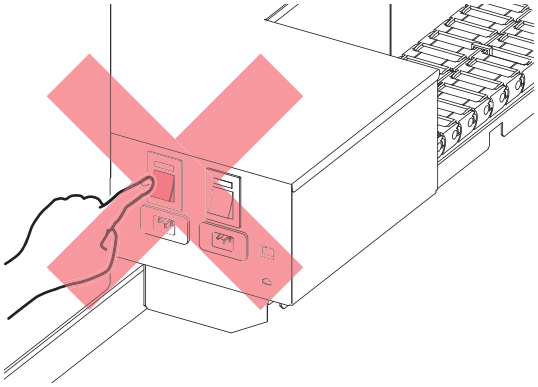
2 をタップします。



電源を切るときは、次のことを確認してください。

- コンピュータからデータを受信中ではないか、また、未出力のデータが残っていないか。
- ヘッドはキャッピングステーションに戻っているか。
- エラーは発生していないか。
☞「エラーメッセージ」（P. 172）

- 通常時は、本機の電源を切らないでください。電源を切っていると、オートメンテナンス機能（ノズル詰まり防止機能やインク排出経路の清掃機能など）が実行することができません。吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）の原因になります。
  異常を感じた等の理由で止むを得ず本機の電源を切る際は、必ず2つのスイッチ全てを切り供給電源遮断を行ってください。
  2つのスイッチすべてを切っていない場合、感電の危険があります。



電源を切るときのご注意

● 電源コンセントは抜かないでください。

電源コンセントを挿したままにしておくと、定期的に電源が入りノズル詰まり防止機能（フラッシング機能）および電源が入り圧力調整機能が働きます。

電源コンセントを抜いてしまうと、フラッシング等のオートメンテナンス機能が働かず、ノズル詰まりの原因となります。

● ヘッドの位置を確認してから電源を切ってください。

ヘッドがキャッピングステーションに戻っていない状態で電源を切ると、ヘッドが乾燥してノズル詰まりの原因となります。

このときは、再度、電源を入れ、ヘッドがキャッピングステーションに戻ったことを確認してから電源を切ってください。

● プリント中は電源を切らないでください。

ヘッドがキャッピングステーションに戻らないことがあります。

● 主電源をオフにしてから、ケーブルを抜いてください。

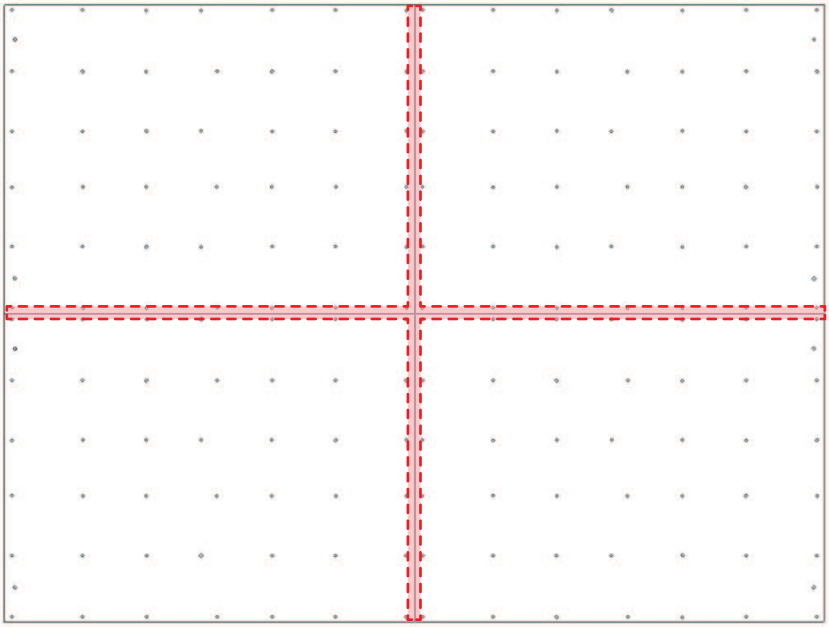
本機の移動や本機のエラー対処等で電源を切る場合、必ず、操作パネルにある電源ボタンを押しランプが消えていることを確認してから電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

2.3 メディアをセットする

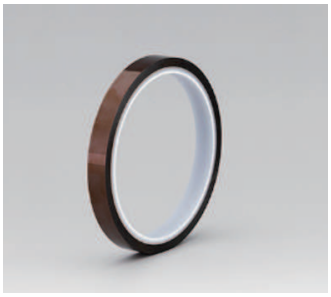
本機では、リーフメディアをご使用になれます。

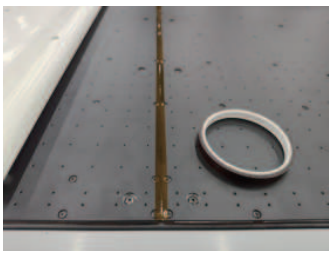
リーフメディア使用時、吸着パネルの継ぎ目付近ではメディアが浮く場合があります。メディアの浮きが発生する場合は、付属のカプトンテープを吸着パネル間の吸着穴がない部分に貼り付けてください。なお、カプトンテープ（品番：SP-01054）は消耗品として購入可能です。

【カプトンテープ貼付けエリア】

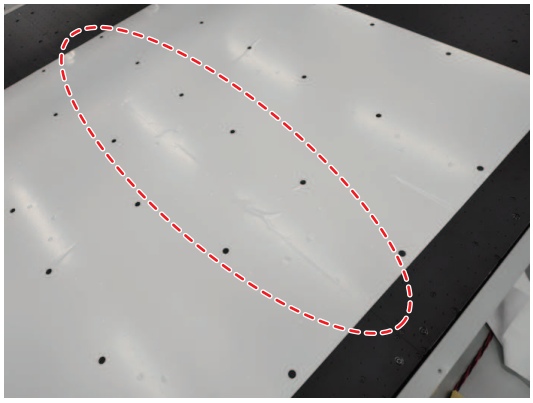


カプトンテープ
（品番：SP-01054）

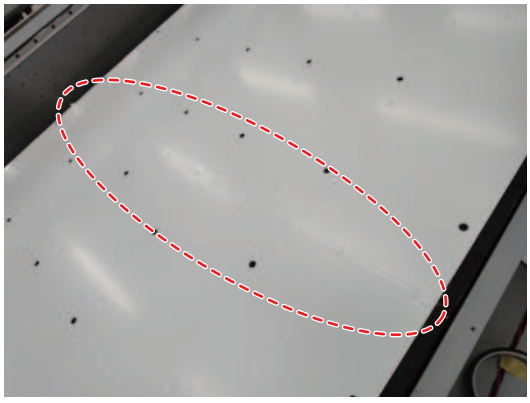




テープ貼付け前



テープ貼付け後



使用できるメディアについては、☞「使用可能メディアサイズ」（P. 46）を参照してください。

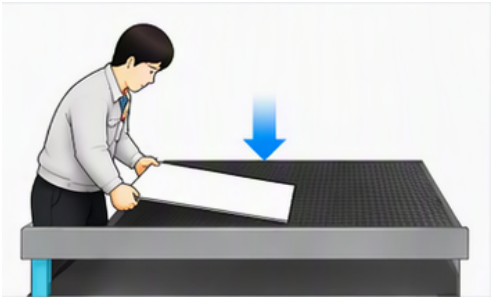
メディアの正しい載せ方

メディアはテーブル面の近くまで下げ、角を落とさず、面全体で静かに置いてください。

重要！
- 以下の方法を守り、メディアは必ず手で保持してゆっくり置いてください。
- テーブルに強い衝撃を与えた場合や印刷品質に変化が見られる場合は、販売店またはサービス担当者にご相談ください。

～5kg

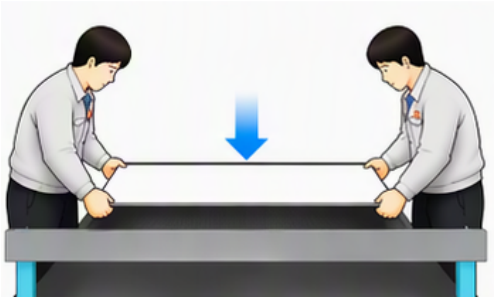
（例：一般的なボードメディア）



- 1人での作業が可能です。
- テーブル面の近くまで下げて置いてください。
- テーブル面にメディア辺から接するよう置いてください。

5～20kg

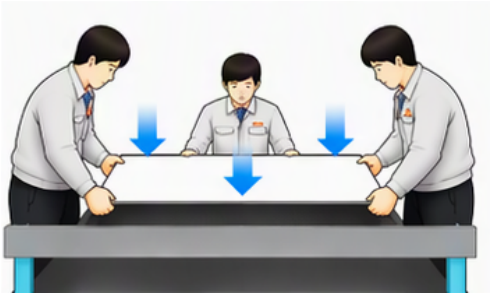
（例：アルミ複合板などの大盤ボードメディア）



- 必要に応じて複数人で作業してください。
- メディアをしっかり保持した状態で置いてください。
- テーブル面にメディア辺から接するよう置いてください。

20～30kg

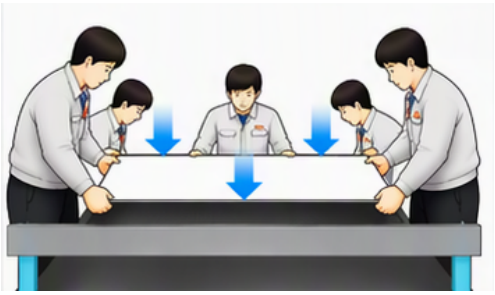
（例：大盤の樹脂板や厚みのある板材など比較的重いメディア）



- 必要に応じて複数人で作業してください。
- できるだけ水平を保って置いてください。
- テーブル面にメディア辺から接するよう置いてください。

30kg以上

（例：大盤ガラスなど非常に重いメディア）



- 必要に応じて複数人で作業してください。
- 台車や補助治具の使用も検討してください。
- できるだけ水平を保って置いてください。
- テーブル面にメディア辺から接するよう置いてください。

- 重いメディアほど、人数を増やし、声をかけ合って作業してください。
- 無理のない姿勢で、安定して保持できる状態で作業してください。
- メディアの大きさ・形状・持ちにくさを考慮し、安全に保持できる方法で行ってください。

● ゆっくり置く

メディアをテーブル面に接触する直前まで下げ、辺から置き、静かに載せる動作です。

1.テーブル面の近くまで下げる　2.辺で置く　3.静かに置く

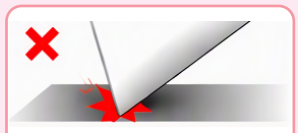


テーブル面との距離を30mm以下にする。（目安）

角ではなく、辺が先にテーブルへ接するように、水平に近づける。

全体がテーブルに接するよう、静かに手を離す。

● やってはいけない載せ方（NG例）



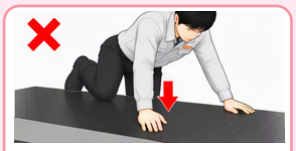
メディアを落とす
（テーブル面から離れた状態で手を離す）



角を先にテーブルに当てる
（角落とし）



工具・治具などを落とす



テーブルの上に乗る

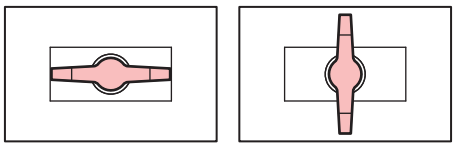
メディアをセットする

重要！
- 印刷がセットしたメディアをはみ出す可能性がある場合には吸着穴を保護してください。
- メディア外周部は、UV光による蓄熱やインク硬化(収縮)による反りが発生することがあります。補助的に粘着テープや固定治具を使って固定してください。

- メディアをセットする際は、操作パネルを奥まで押し込んだ状態で行ってください。操作パネルやテーブルにメディアをぶつけないようご注意ください。

1 セットするメディアの厚さに合わせて、テーブル正面の吸引バルブを切り替える。

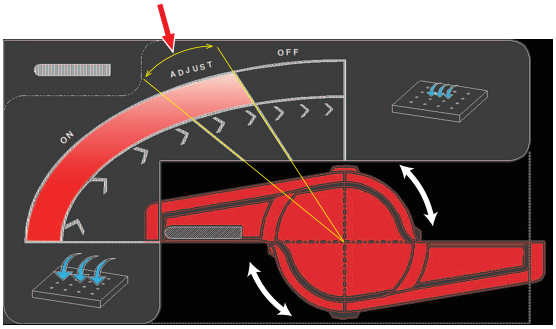
- バルブは、ハンドルを横にすると開き、縦にすると閉じます。



- 薄いメディアの場合、弱モードに切り替えて使用します。

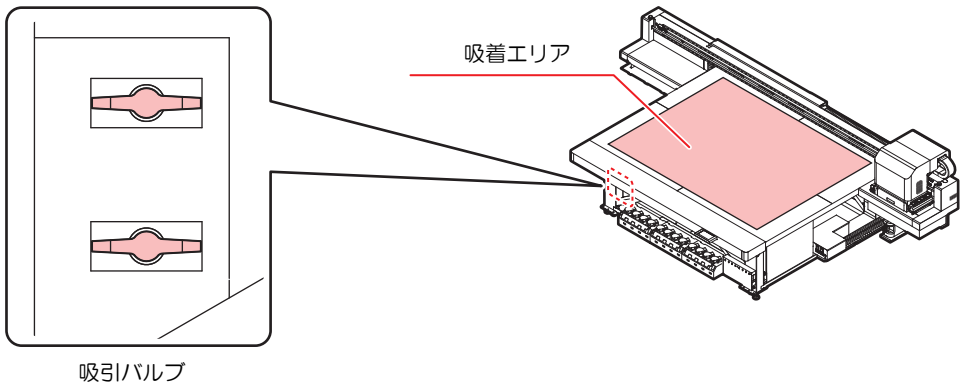
- 薄いメディアを使用する場合、吸引力が強いと吸引穴やテーブル表面の凹部形状がメディア表面に現れることがあります。このような場合は、吸引バルブを切り替えて吸引力を調整します。

この範囲内で調整できます。



2 操作パネルのバキュームアイコン☞「操作パネル」（P. 30）をタップ、またはフットペダルを押してVACUUMランプを点灯させ、メディアを吸着する。

- 吸着エリアについて、詳しくは☞「吸着エリアについて」（P. 64）をご参照ください。



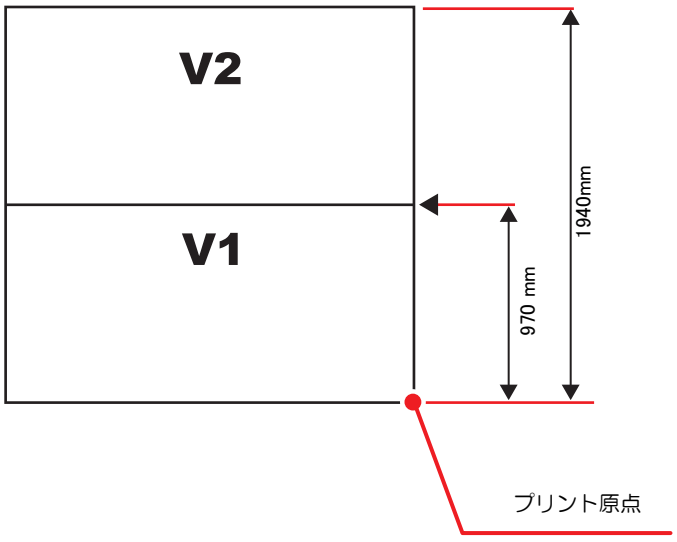
● メディアセット後は、以下の設定をしてください。

- ☞「メディアの厚みを登録する」（P. 68）
- ☞「ヘッドギャップを設定する」（P. 71）

- テーブルが変形するおそれがありますので、重いメディアをテーブルに落とさないでください。
  また、重さが一点に集中しないようにしてください（50kg/m^{2}まで）
  ☞「本体仕様」（P. 184）
  （重いメディアの使用頻度が多い場合には、オプションブロワの購入をお勧めします。吸着穴からエアを逆噴射させる機能がついており、作業補助として有効です。）

吸着エリアについて

吸着エリアは、下図のようになっています。



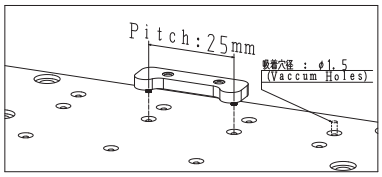
- 原点を変更したいときは、☞「原点を変更する」（P. 81）を参照してください。

メディアガイドについて

テーブルのフロントに4箇所、サイドに2箇所の自動昇降位置決めピンと、吸着穴に取付ける手動取付位置決めピン（標準8個付属)があります。メディアをまっすぐにセットするためのガイドとしてお使いください。

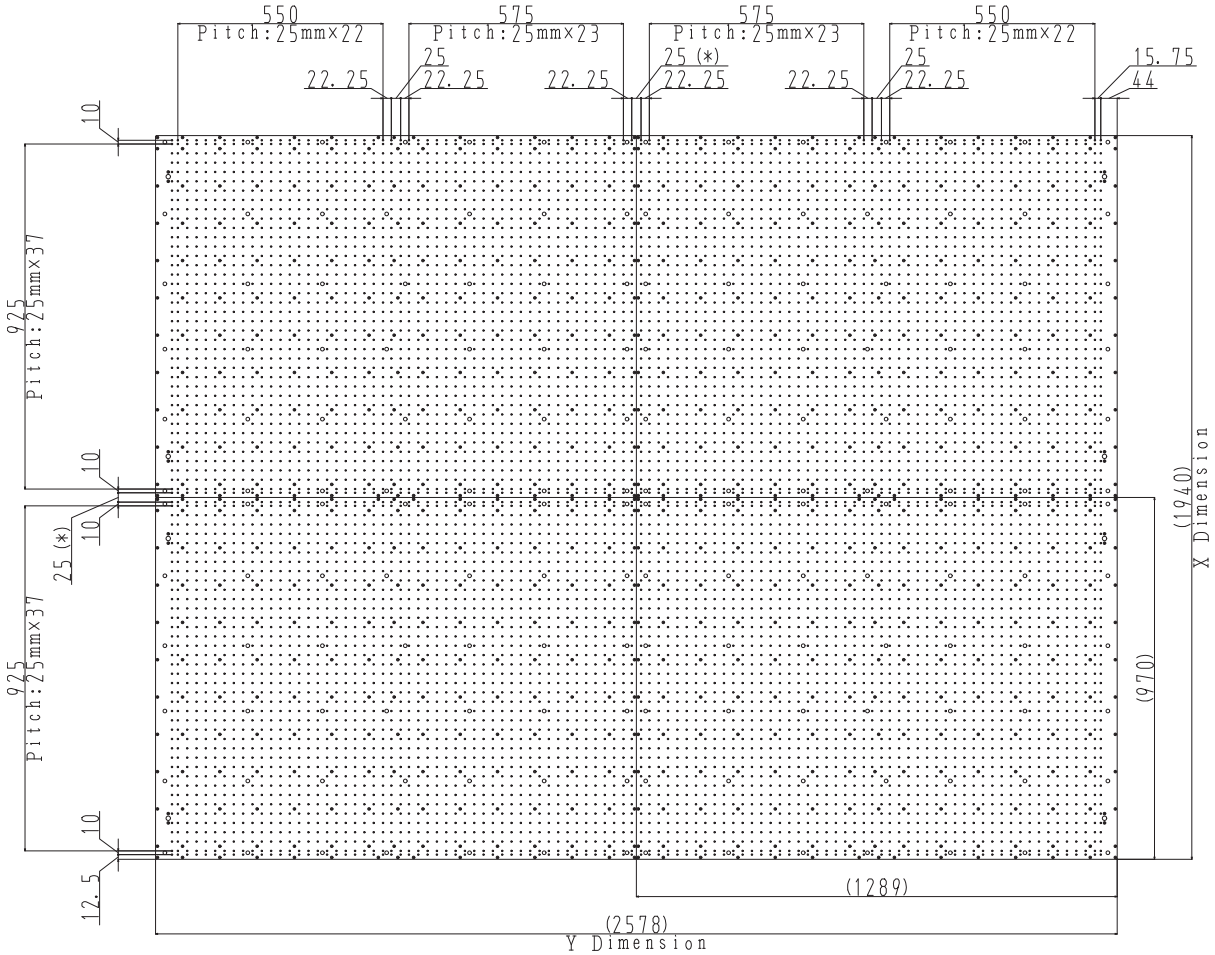
重要！ • 治具サイズは、テーブルよりはみ出さないようにしてください。

●付属品：位置決めﾋﾟﾝ220
(Accessories: Positioning Pin 220)

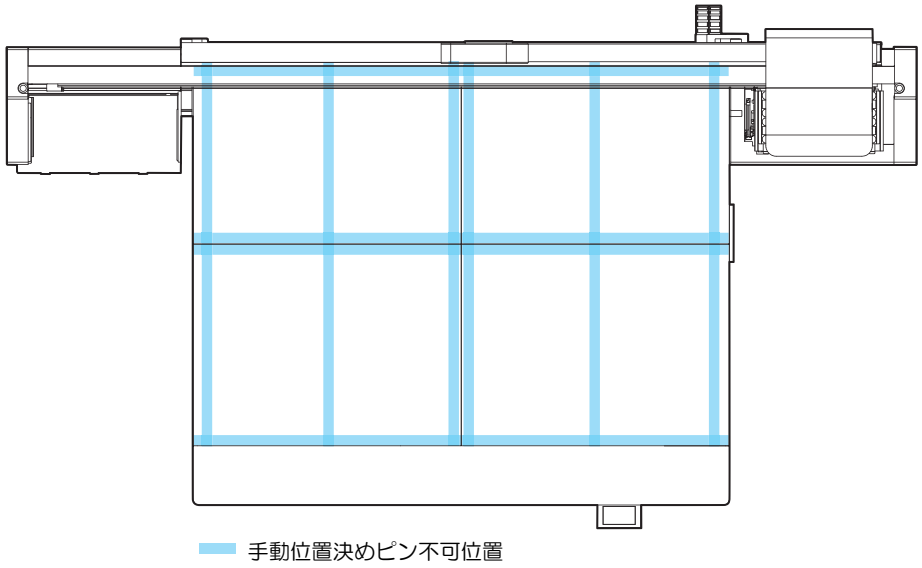


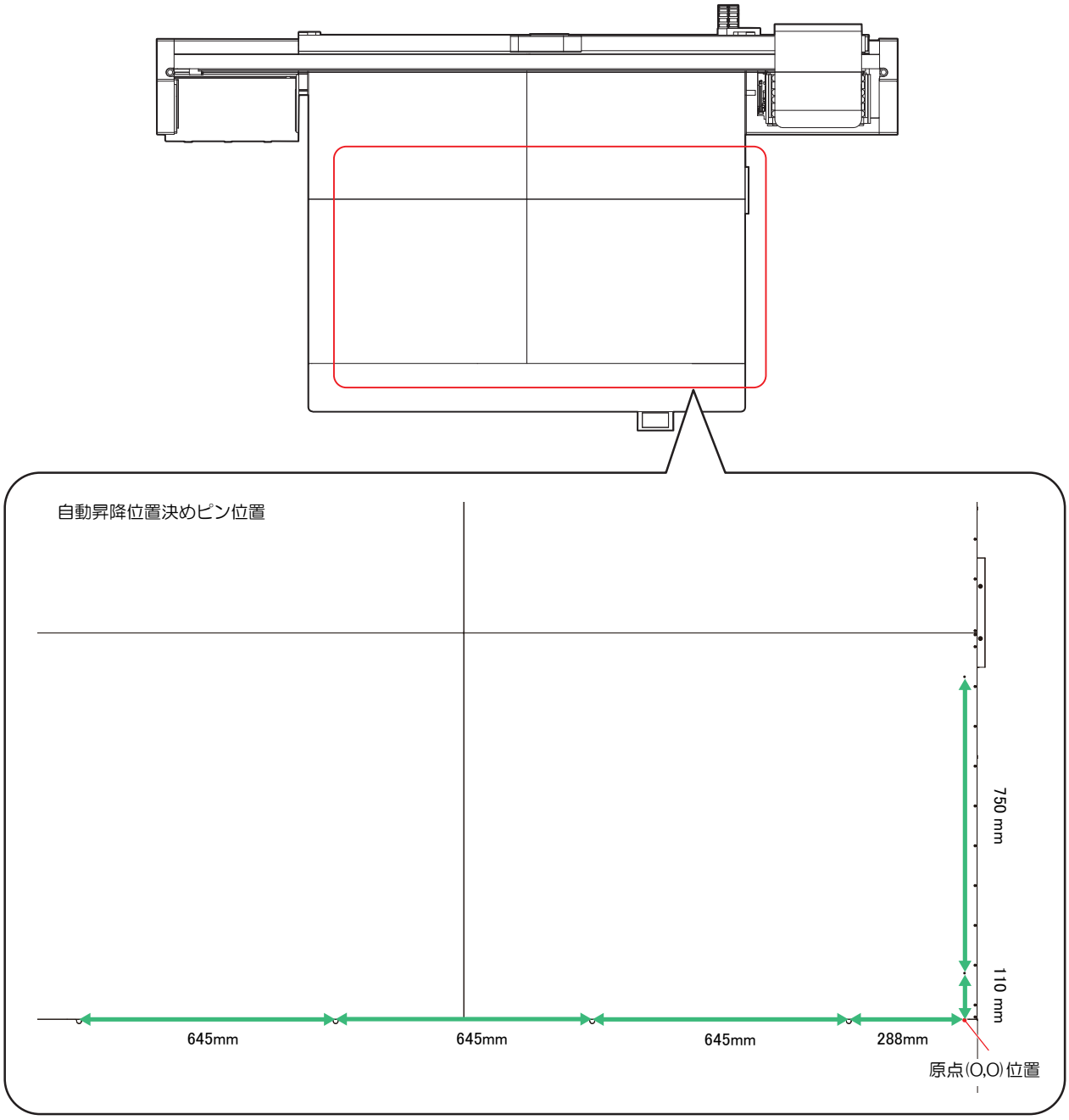
-注記-
● (*) の箇所では使用不可。

-Note-
●Items marked with (*) are not to be used.

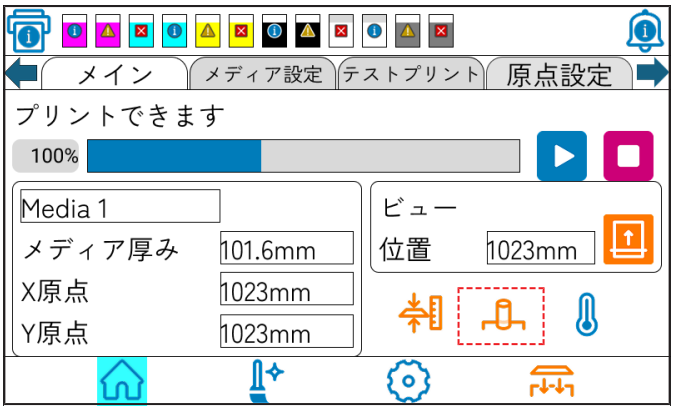


重要！
- 付属の位置決めピンの場合、メディアの厚みが5mm以下は使用できません。
- 厚みが5mm以下のメディアにプリントする場合は、テーブル上に位置決めピンが取り外されていることを確認してください。





ホーム画面の[メイン]で をタップすることで操作できます。☞「操作パネル」（P. 30）



- メディア種によっては自動昇降位置決めピンが戻りづらい場合があります。（例：重いメディア、滑りづらいメディア）自動昇降位置決めピンが戻っていない場合、印刷が開始されません。ピンを軽く押して戻してください。

2.4 メディアの厚みを登録する

セットするメディアの厚みを登録します。

登録方法には、次の2種類があります。

- 厚みを手動で登録する方法
- 厚みを自動測定する方法

メディアの厚みを手動で登録する

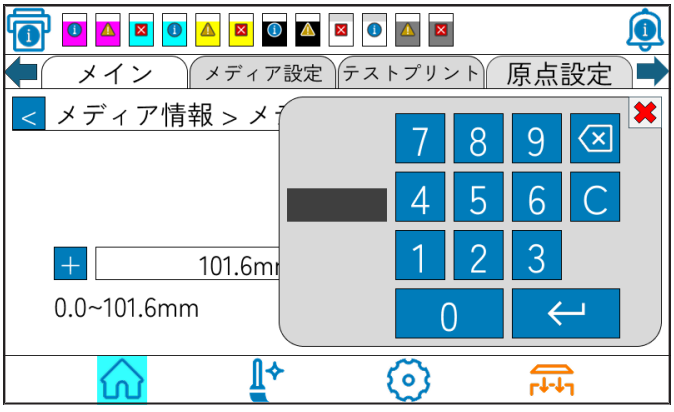
1 ホーム画面の[メイン]で、メディアを選択し、 をタップする。
または、[メディア設定]>[メディア情報]をタップする。



2 [メディア厚み]をタップする。



3 + - をタップ、または数値を入力する。



4 をタップする。

メディアの厚みを自動測定する

1 メディアをセットする。

- 必ずプリント範囲にメディアをセットしてください。メディアをセットしないで自動測定を行うと、ヘッドが破損する場合があります。

2 ホームの[メイン]で、メディアを選択し、 をタップする。
または、[メディア設定]>[メディア情報]をタップする。



3 [メディア厚み]をタップする。



4 をタップする。

- キャリッジが移動します。



5 以下の画面が表示されたら をタップする。



- 自動でメディアの厚みを測定します。

重要! • 自動測定の誤差は、±0.1mmです。

6 をタップする。



2.5 ヘッドギャップを設定する

ヘッドギャップ（メディアからヘッドノズル面までの高さ）を設定します。

プリント時やメンテナンス機能などでヘッドがテーブル上へ移動する動作が行われる際に、設定されているヘッドギャップ位置に移動します。

ヘッドギャップの上限は、メディア厚により変化します。

設定値 : [1.2 mm～ 20.0 mm] （0.1 mm単位/初期値:1.5 mm）

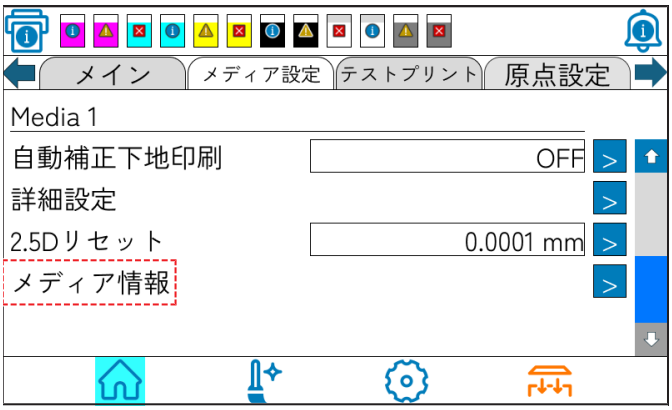
ヘッドキャップ値を登録する

現在設定されているヘッドギャップ値を登録したいときは、次の操作をしてください。

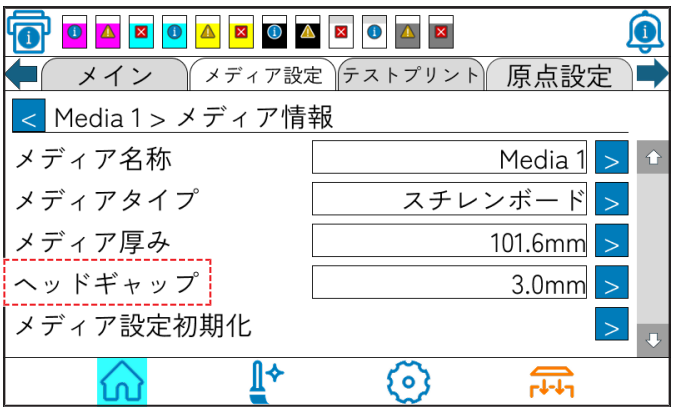
1 ホーム画面の[メディア設定]をタップする。



2 [メディア情報]をタップする。

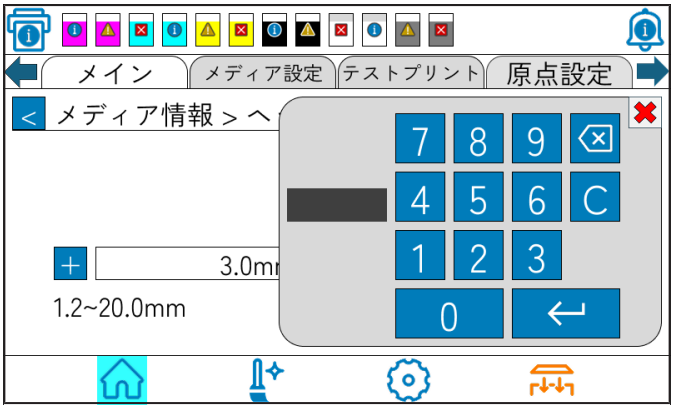


3 [ヘッドギャップ]をタップする。



4 ヘッドギャップ値を入力する。

- 設定値：1.2～3.0mm



- ヘッドギャップ値に適正な値が設定されていないと、プリント中、メディアに大きなインク滴が落ちるなど、プリント品質に影響が出ることがあります。

5 をタップする。

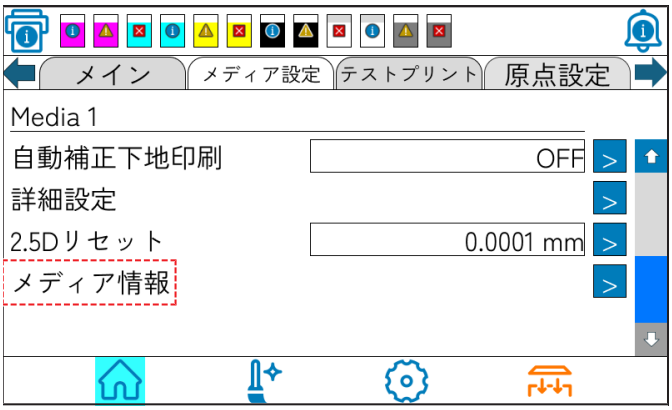
ヘッドギャップ値を確認する

1 ホーム画面の[メディア設定]をタップする。



2 [メディア情報]をタップする。

- ヘッドギャップ値が表示されます。

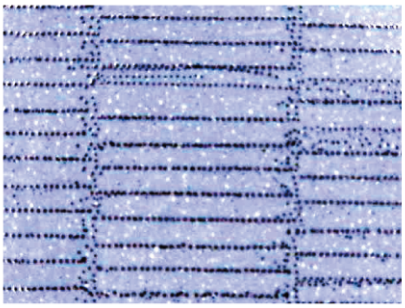


2.6 テストプリントをする

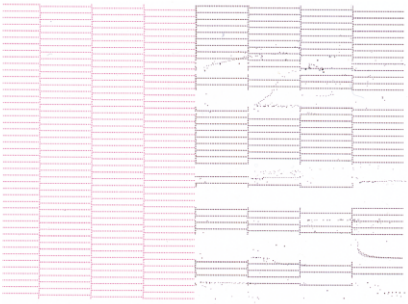
テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

作図不良の例

ホコリなどを原因として発生するヘッド（ノズル）の吐出不良が、作図に及ぼす代表的な例を示します。
このような状態で使用しないように、出力前や出力中に定期的にノズルの状態を確認してください。
ノズルの状態は、本機の「テストプリント」で確認できます。



飛行曲がり



ノズル抜け



ボタ落ち

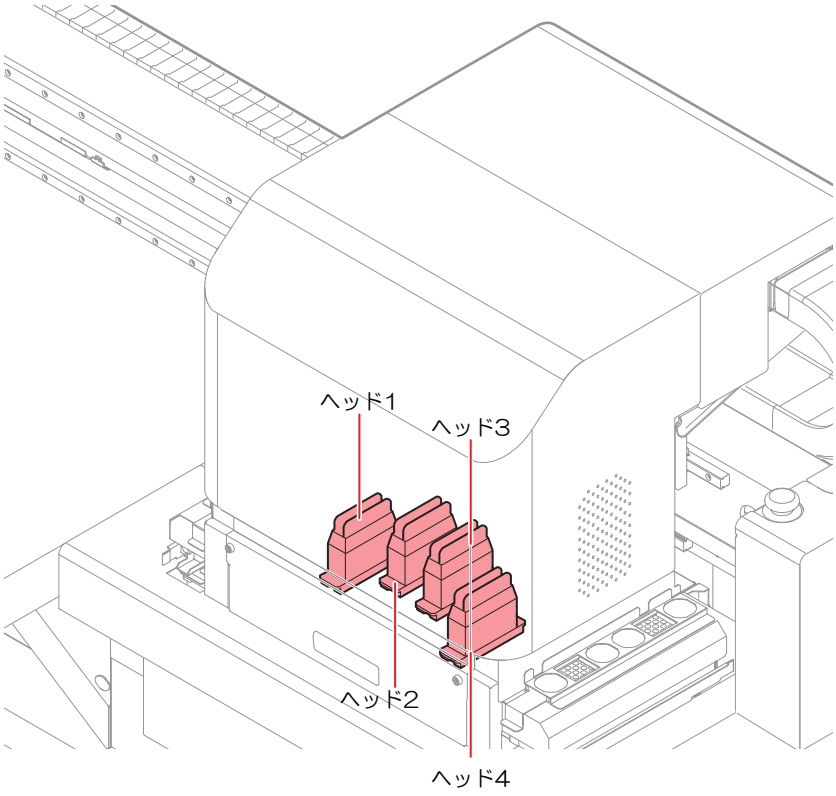


しぶき

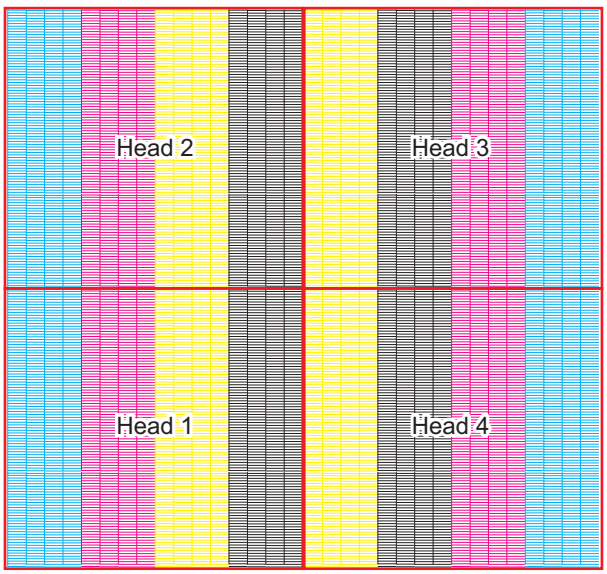
- プリントヘッドを良好な状態に保つために、オートメンテナンスはデフォルト値（推奨値）が設定されています。設定値を変更[*1]すると、吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）のリスクが高まる可能性があります。（*1：特にメンテナンス頻度を減らす変更）
  ただし、推奨値で本機を使用しても吐出不良が発生する場合は、メンテナンス頻度を増やすなどの設定変更をお試しください。

ヘッドの配列とテストパターンの関係

ヘッドの配列とプリントしたテストパターンのプリント位置は、下図の通りです。



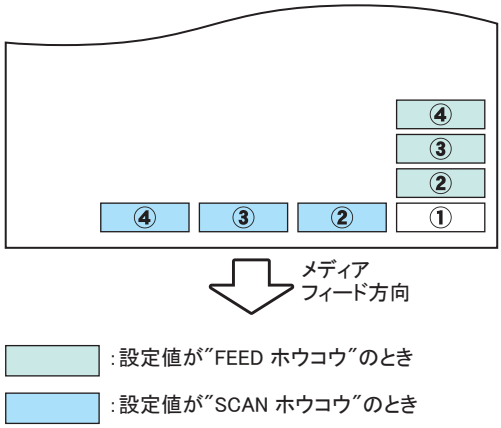
4色の場合



テストプリントを行う

テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

また、テストプリントを繰り返し実行するときのために、プリントするテストパターンの配置方向を次の2種類から選ぶことができます。使い方に合わせて選んでください。



テストプリントの前に確認してください。

- メディアをセットしているか？
  ☞「メディアをセットする」（P. 63）
- 原点位置をセットしているか？
  ☞「原点を変更する」（P. 81）
- ヘッドギャップを調整しているか？
  ☞「ヘッドギャップを設定する」（P. 71）

1 ホーム画面の[テストプリント]をタップする。



2 方向を選択する。

3 をタップする。

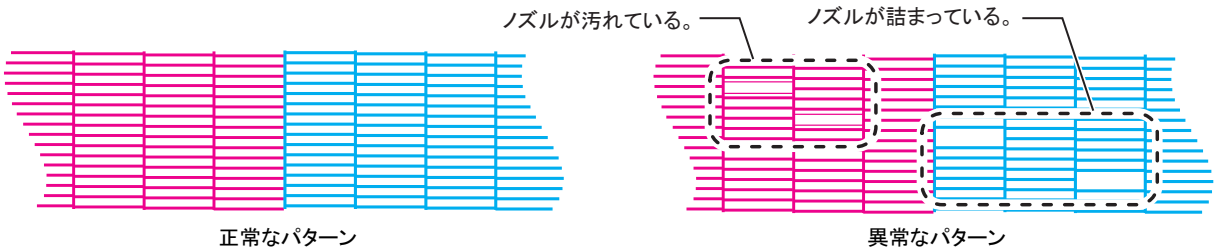
- テストプリントを開始します。

4 クリーニングが完了したらをタップする。

- 手順1の画面に戻ります。

5 印刷結果を確認する。

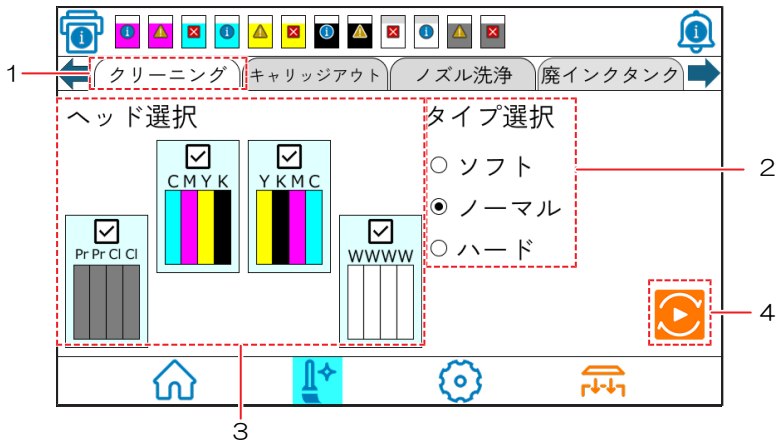
- 正常な場合は、操作を終了します。
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。
  ☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）



2.7 ヘッドクリーニングをする

プリントしたテストパターンの結果を確認して、症状に合わせたクリーニングを行います。
ヘッドクリーニングには、3 種類あります。パターンプリントの結果によって使い分けてください。

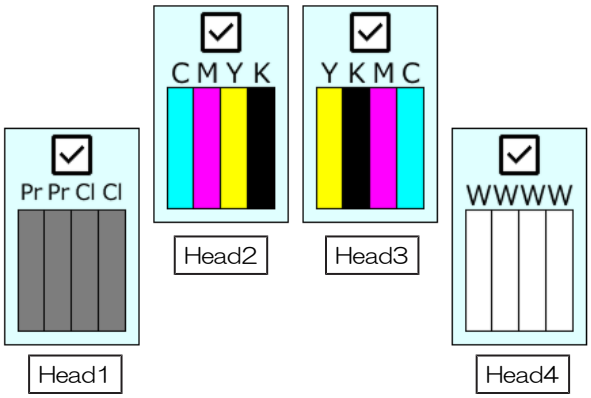
1 メンテナンス画面の[クリーニング]をタップする。



2 クリーニングタイプを選ぶ。

- ソフト ：
  線の曲がり、抜けがある時
- ノーマル ：
  線の抜けがある時、混色している時
- ハード ：
  ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

3 クリーニングするヘッドを選ぶ。



4  をタップする。

5 再度テストプリントを実行し、印刷結果を確認する。

- 印刷結果が正常になるまで、クリーニングとテストプリントを繰り返してください。

● ヘッドクリーニングを実行しても画質品質が改良されない場合

- ワイパーとインクキャップのクリーニングを行う。
  ☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113）
- ノズルリカバリの設定を行う。
  ☞「ノズル詰まりが復旧しない場合」（P. 128）

2.8 双方向プリントのドット位置を調整する

印刷条件（メディアの厚み/ヘッドの高さなど）を変えたときは、次の操作をして双方向（Bi）プリント時のインクの落下位置を補正し、適正な印刷結果を得られるようにしてください。

ドット位置を補正する

1 メディアをセットし、プリント原点を設定する。

- ☞「メディアをセットする」（P. 63）

2 ホーム画面の[メディア設定]をタップする。



3 [ドット位置補正]をタップする。

4  をタップして、解像度を選ぶ。



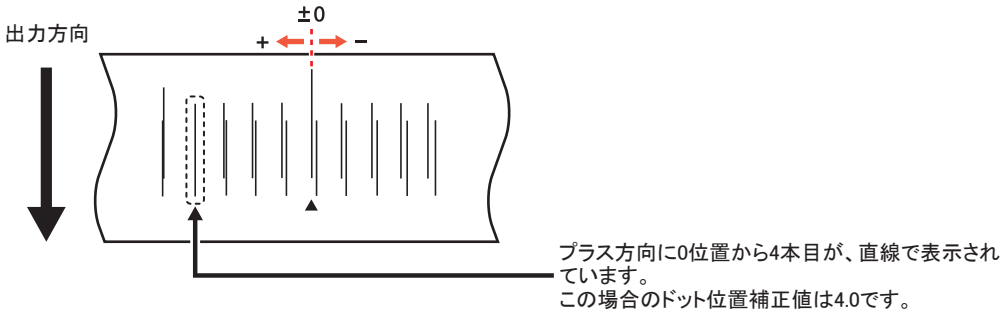
- すべての解像度において補正を行ってください。

5  をタップする。

- テストパターンをプリントします。（プリント順にパターン1,2,3... と呼ぶ）

6 をタップして、パターン1～のドット位置を補正する。

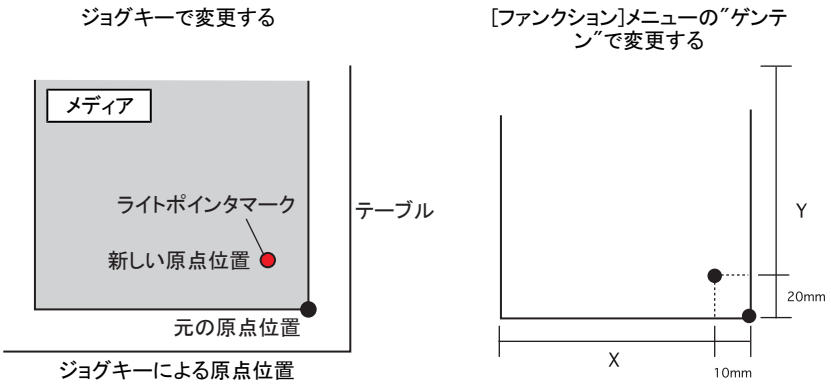
- 補正値：-40.0～40.0
- テストパターンを確認し、往路と復路が1本の直線になっている位置が補正値となります。
- 補正値が-40.0～40.0の間にない場合は、ヘッドの高さを調整後、手順2から操作をし直してください。



2.9 データをプリントする

原点を変更する

お買い上げ時に設定されている原点の位置を変更することができます。
変更方法には次の2つがあります。



1 ホーム画面の[原点設定]をタップする。



2 ライトポインタマークを移動させる。

3 プリント原点を設定したら、をタップする。

- 原点が変更されます。

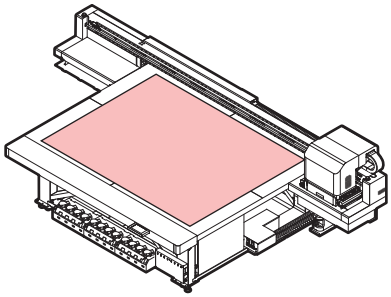
プリントを開始する

1 メディアをセットする。

- ☞「メディアをセットする」（P. 63）

(1) メディアのサイズに合わせて、吸引バルブを開閉する。

(2) 操作パネルのバキュームアイコン☞「操作パネル」（P. 30）をタップして、VACUUM ランプを点灯させ、メディアを吸着させる。

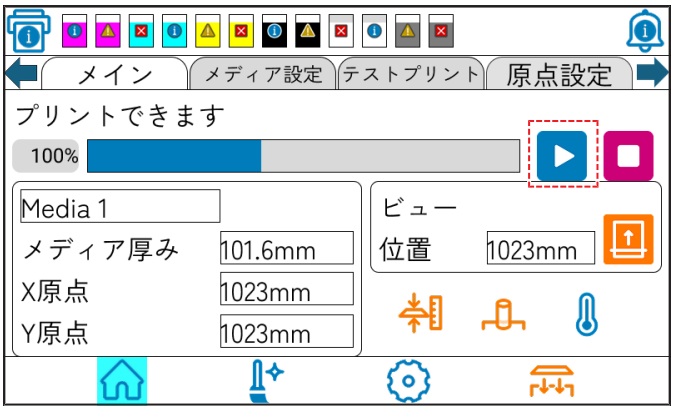


2 コンピュータからプリントするデータを送信する。

- 印刷条件を表示します。
- データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

3 ▶をタップする。

- プリントが開始します。



4 プリント終了後、メディアを取り外す。

(1) Y バーをテーブルの外に退避させる。
☞「Yバーを移動させる」（P. 84）

(2) 操作パネルのバキュームアイコン☞「操作パネル」（P. 30）をタップして、吸着をオフ にする。

(3) メディアを取り除く。

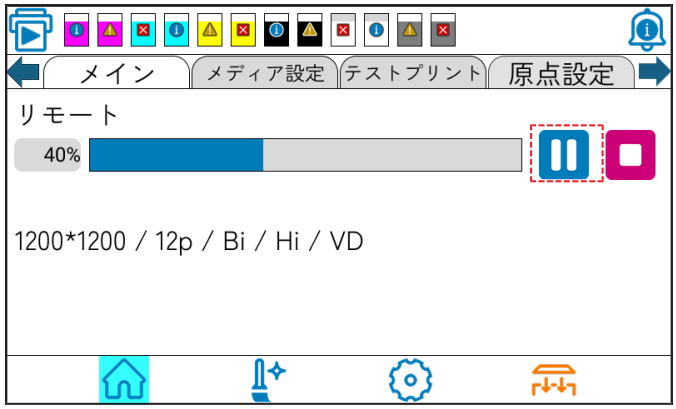
重要！ • プリント中にUV LEDによる熱で、メディアが浮き上がり、プリントが中断される場合があります。
新しいメディアをセットし直し、プリントを開始してください。

プリントを一時停止する

プリントを途中で一時停止したい場合、次の操作をしてください。

1 プリント中にをタップする。

- プリント動作を一時停止します。



プリントを中断する

プリントを途中で止める場合、次の操作をしてください。

1 プリント中にをタップする。

- プリント動作を中止します。



2 以下の画面が表示されます。中断する場合はをタップする。



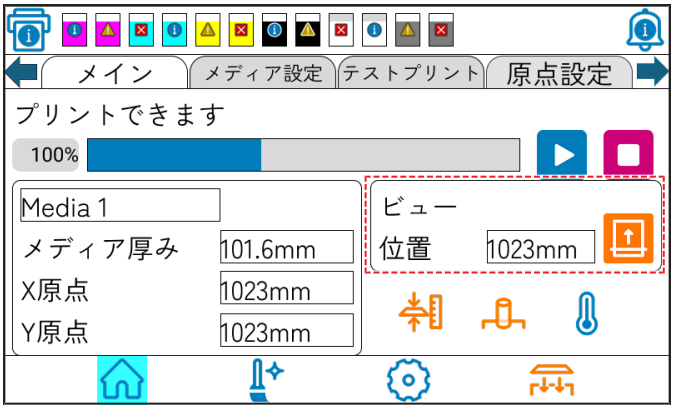


・ をタップすると、プリントは中断されません。

Yバーを移動させる

印刷結果を確認したいときなどに、Yバーを移動させることができます。
あらかじめ、Yバーの退避位置（ビュー位置）を設定してください。

1 **ホーム画面の[メイン]でビュー位置を入力する。**



2 **をタップする。**

・ Yバーが移動します。

第 3 章　各種設定



この章では...

本機の各種設定方法について説明しています。

メディア設定メニュー.....86
　ワークチェンジの設定 88
メンテナンスメニュー.....89
メンテナンス設定メニュー 90
　ノズルチェックとは..... 91
機能設定メニュー.....92
環境設定メニュー.....93
　時刻の設定 94
　単位の設定 95
　キーブザーの設定 97
　言語の設定 98
　ネットワークの設定.....99
　外部停止I/Fについて 100

3.1 メディア設定メニュー

本機の設定と接続しているコンピューターの設定、どちらを優先させるかどうかを決めることができます。各メニューを"ホスト"に設定すると、コンピューターの設定が優先されます。本機の設定を優先させたいときは、"ホスト"以外に設定してください。



• RIP用ソフトウェアの指定方法は、RIP用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

● メニュー 一覧

項目			設定値		内容
			*1	*2	
ドット位置補正			-	-	双方向プリントのドット着弾位置を補正します。☞「ドット位置を補正する」（P. 79）
	（解像度）		*	-	補正したい解像度を選択します。 “全て”を選択すると、すべての解像度の補正パターンをプリントします。 * 選択できる解像度は、機種によって異なります。
	（補正値）		-40.0 ~ 0 ~ 40.0	-	パターンを確認して補正値を入力します。
MAPS			-	-	MAPS：Mimaki Advanced Pass System パスの境界を分散させて、パス間の送り縞を目立ちにくくさせる機能です。 MAPSを変更すると、色の変化がみられることがあります。また、画像によっては効果が得られないことがあります。
	モード		AUTO / MANUAL	-	通常は“AUTO”で使用してください。“MANUAL”に設定すると、以下の項目が表示されます。
		速度	50 ~ 100 %	-	速度を下げると、縞が目立ちにくくなります。ただし、プリント速度が遅くなります。
		スムージングレベル（カラー）	0 ~ 100 %	-	スムージングレベルを上げると、縞が目立ちにくくなります。カラーと特色（白）、それぞれ設定してください。
		スムージングレベル（特色）			
ワークチェンジ			-	-	
	動作		ON / OFF	-	プリント終了時の動作を設定をします。 • ON：リモート印刷後にワークチェンジを実行する。Yバーをビュー位置に移動します。 • OFF：リモート印刷後にワークチェンジを実行しない。
	吸着ファン		ON / OFF	-	ワークチェンジ時にバキュームを自動的にOFFするか設定します。 • ON：ワークチェンジ時にバキュームを自動的にOFFします。OFF：ワークチェンジ時にバキュームを自動的にOFFしません。
インクヒーター			-	-	
	スタンバイ移行		ON / OFF		インクヒーターをスタンバイ温度にて維持するか設定します。

項目		設定値 *1	設定値 *2	内容
				• ON：[移行時間]の設定時間経過後、スタンバイ温度へ遷移します。 • OFF：スタンバイ温度へ遷移せず、インクヒーターをOFFします。
	移行時間	0min ~ 60min		本設定の時間経過後スタンバイ温度へ移行します。
UV設定		-	-	
	モード	ON / OFF / 印刷なし	ON	UV-LEDライトを照射するかどうかを設定します。 • ON：ライトを照射します。 • OFF：ライトを照射しません。 • 印刷なし：プリントせずに、ライトを照射します（通常は使用しません）。
	光量調整	-50 ~ 0 ~ +50 %	-	あらかじめ設定されているUV-LEDライトの光量を変更することができます。プリントしたあとに、性能（ベタつき、臭気など）を確認してください。 • マイナス方向：硬化を弱くしたいとき。 • プラス方向：硬化を強くしたいとき。
詳細設定		-	-	各種機能を設定します。
重ね塗り		ホスト,1～9	1	各種機能を設定します。
イオナイザー		ON / OFF	-	イオナイザー（オプション）を使用するときに設定します。メディアを除電しながらプリントします。プリントしていないときは、除電針は通電されていません。 • ON:イオナイザーを照射する • OFF：イオナイザーを照射しない
メディア情報		-	-	メディアの情報を入力します。
	メディア名称	-	-	
	メディアタイプ	-	-	使用するメディアタイプを選択します。選択できるメディアタイプは機種によって異なります。
	メディア厚み	0～50～101.6mm	-	メディア厚みを設定します。
	ヘッドギャップ	1.2～1.5～3.0mm		ヘッドギャップを設定します。
	メディア設定初期化	-	-	メディア設定を初期化します。

*1. お買い上げ時は下線の値に設定されています。

*2. RIP用 ソフトウェア（ ホスト） から設定できない、もしくは本機を優先設定しているときに使用される値です。

ワークチェンジの設定

オンライン作図を終了したとき、ローカルに戻るかリモートのままとするかを設定します。

1 **ホーム画面の[メディア設定]をタップする。**



2 **[ワークチェンジ]をタップする。**

3 **[動作]の設定値を選ぶ。**

- OFF:
  オンライン作図後、リモート状態を保持（次の作図データを受信している場合は、重ね書きされます。）
- ON:
  オンライン作図後Y バーが退避し、ローカルに戻ります。

- Yバーが退避する位置は、ビュー位置を設定するで設定した位置になります。

3.2 メンテナンスメニュー

メンテナンスにお使いいただくメニューです。そのほかにクリーニングやノズル洗浄をしてもノズル詰まりが直らないときに使用するノズルリカバリー機能を設定することができます。

● メニュー 一覧

項目	設定値*1	内容
クリーニング	-	ヘッドクリーニングには、いくつかのタイプがあります。テストプリントの結果によって使い分けてください。☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）
キャリッジアウト	-	キャリッジを移動させて、ステーションやプリントヘッド周辺のメンテナンスをします。
テーブル右端まで移動	-	キャップやワイパー、NCUなどステーション周辺を清掃します。 キャップゴムの清掃 ☞「NCUの清掃」（P. 118）
メンテナンススペースまで移動	-	プリントヘッド周辺を清掃します。 ☞「ヘッド周辺のメンテナンス」（P. 122） ☞「ヘッドノズル面のメンテナンス」（P. 126）
ノズル洗浄	1 ~ 99 min	プリントヘッドのノズル面をメンテナンス液で浸して、吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）を復旧します。☞「ヘッドノズルの洗浄」（P. 129）
廃インクタンク	-	廃インクタンクの使用カウントを初期化、もしくは補正します。☞「廃インクの廃棄」（P. 153）
廃インク量リセット	-	廃インクタンクの使用カウントを初期化します。廃インクタンクを交換する
廃インク量補正	-	廃インクタンクの使用カウントを補正します。メッセージ“廃インクタンク確認”が表示されたら
タンク容量	-	廃インクタンクの容量を表示しています。
保管洗浄	1 ~ 99 min	本機を長期間使わないときに実施します。ノズル洗浄と排路洗浄をして、本機を快適な状態に保ちます。
ポンプチューブ洗浄	-	吸引ポンプチューブ（キャップ下）を洗浄します。☞「インク排出路の洗浄」（P. 120）
イオナイザー除電		
圧力調整		
サブタンク	-	
空気抜き	-	インク経路内に混入したエアーを排出します。
パーツ交換	-	
ワイパー交換	-	ワイパーを交換するときに使用します。ワイパー交換をすると、本機で管理しているワイパー使用回数が初期化されます。☞「ワイパーを交換する」（P. 150）
フラッシングフィルター交換	-	

*1. お買い上げ時は下線の値に設定されています。

3.3 メンテナンス設定メニュー

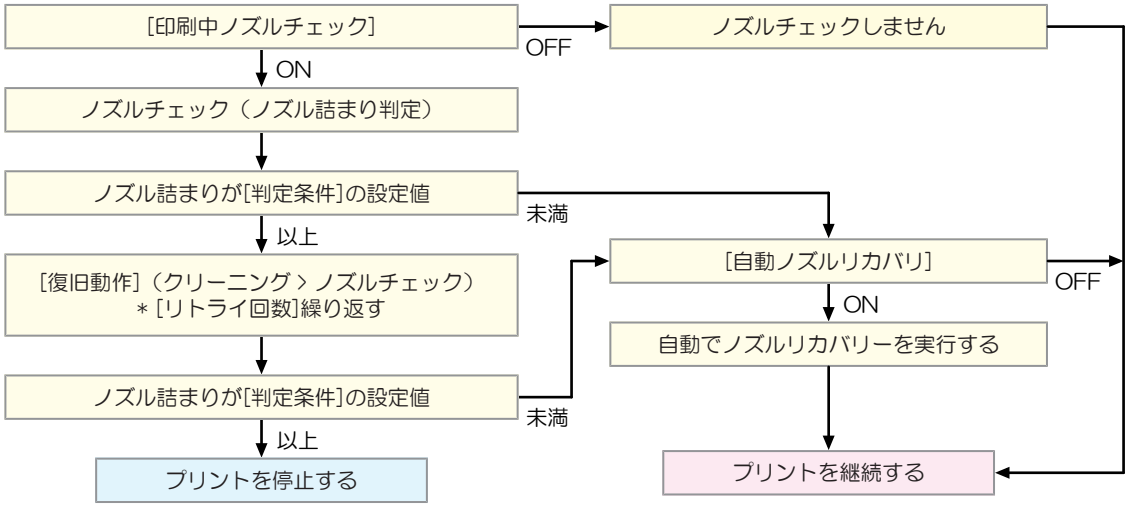
● メニュー 一覧

項目	設定値[*1]	内容
ノズルリカバリ	-	ノズル洗浄などメンテナンスしても吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）が直らない場合、他のノズルを使ってプリントさせることができます。
パターン印刷	-	パターンをプリントして、ノズルの状態を確認、登録します。☞「ノズルリカバリを登録する」（P. 141）
登録	-	パターンをプリントせずに、ノズルを登録します。☞「ノズルリカバリを登録する」（P. 141）
リセット	-	設定した内容を初期化します。
テストプリント	ON / OFF	テストプリントにノズルリカバリーをしてプリントをするかどうかを設定します。
ノズルチェック	-	☞「ノズルチェックとは」（P. 91）
印刷中チェック	ON / OFF	プリントが開始される前に、自動でノズル詰まり検出動作を実行します。
自動ノズルリカバリ	ON / OFF	"ノズル詰まり"と判定された場合、自動でノズルリカバリーを実行します。手動で設定したいときは、以下を参照してください。☞「ノズルリカバリを登録する」（P. 141）
判定条件	OFF / 1 ~ 64 ノズル	”ノズル詰まり"と判定するノズル数を設定します。1 ノズル列あたり16ノズルまで設定することができます。 連続プリント実行中に ”ノズル詰まり”と判定された場合、次のプリントは開始されません。
オートメンテナンス	-	各種メンテナンスを自動で実行するように設定できます。各メンテナンスを実行する間隔を設定してください。 • ワーニングメッセージ“廃インクタンク交換”が表示されていると、オートメンテナンス機能が実行できません。☞「廃インクの廃棄」（P. 153）
リフレッシュ	0.5 / 1.0 h	リフレッシュ（プリントヘッドのノズルから、少量のインクを吐出）する間隔を設定します。
クリーニング間隔	1 ~ 48 h	プリントヘッドをクリーニングする間隔を設定します。ノズル詰まりを防止する効果があります。
タイプ	ノーマル / ソフト / ハード	ヘッドクリーニングをするときのクリーニングタイプを設定します。
プリント中メンテ	-	プリントの途中に自動実行するメンテナンスを設定します。
リフレッシュ	弱 / 標準 / 強	プリント実行中のリフレッシュ（フラッシング）タイプを選択します。
オートクリーニング	-	設定値を超えたファイルがプリント終了したあとに、ヘッドクリーニングをさせる条件を設定します。
設定	ファイル / 距離 / 時間 / OFF	ヘッドクリーニングをさせる条件を設定します。
間隔	-	ヘッドクリーニングをさせる間隔を設定します。
（ファイル）	1 ~ 1,000	設定したファイル数を超えるとクリーニングを実行します。
タイプ	ノーマル / ソフト / ハード	ヘッドクリーニングをするときのクリーニングタイプを設定します。

項目			設定値[*1]	内容
		LDモード レベル	標準 / 強 / 弱	LDモードプリント実行中のクリーニング実行間隔のレベルを設定します。
		ノズルチェック	ON / OFF	ヘッドクリーニングが終了したあとに、ノズルチェックをさせるかどうかを設定します。

ノズルチェックとは

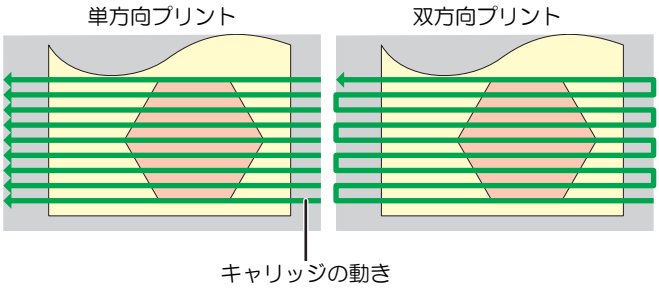
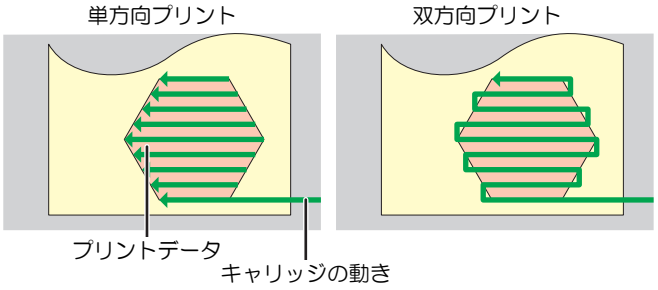
プリントが開始される前に、ノズル詰まりがあるかどうかをチェックします。ノズル詰まりがあった場合、自動でメンテナンス機能を実行させるかどうかを設定します。



3.4 機能設定メニュー

本機を快適にお使いいただくために各種オペレーションを設定することができます。

● メニュー 一覧

項目	設定値*1	内容
ロジカルシーク	ホスト / OFF / ON	キャリッジの可動範囲を設定します。 • OFF：マシンサイズ領域  • ON：プリントデータ領域 
ロケートピン設定		
バキューム連動	OFF/ ON	バキュームをONした際に、ロケートピンを自動でOFF（降下状態）にします。
ワークチェンジ連動	OFF / ON	ワークチェンジ動作終了時に、ロケートピンを自動でON（上昇状態）にします。

*1. お買い上げ時は下線の値に設定されています。

3.5 環境設定メニュー

本機を快適にお使いいただくために各種オペレーションを設定することができます。

● メニュー 一覧

項目		設定値*1	内容
LANGUAGE		English / 日本語 / 中文 / Turkce / Português / Español / Italiano / Korean	表示言語を設定します。
時刻設定		-20 ~ 0 ~ +4 h	現在の日付と時刻を設定します。（日本時間基準） • -20 ~ +4 時間の間で設定できます。
キーブザー		ON / OFF	キーを押したときのブザー音を設定します。 • “OFF”に設定しても、エラー / 警告 / 動作完了等のブザー音を消すことはできません。
単位表示設定		-	表示単位を設定します。
	温度	°C / °F	温度の表示単位（摂氏/華氏）を設定します。
	長さ	mm / inch	長さ、面積の表示単位を設定します。 • “inch”に設定しても、"mm"単位で表示している項目もあります。
ネットワーク		-	ネットワークのアドレスを設定します。設定を有効にするには、本機の再起動が必要です。
	MACアドレス確認	-	本機が使用中のMACアドレスが表示されます。
	DHCP	ON / OFF	"ON"の場合、DHCPサーバーより与えられたIPアドレスが使用されます。
	AutoIP	ON / OFF	"ON"の場合、AutoIPプロトコルにより使用するIPアドレスが決定されます。ただし、DHCPが”ON”の場合は、DHCPが優先されます。
	IPアドレス	-	本機が使用するIPアドレスを設定します。 • [DHCP]、[AutoIP] が両方とも"OFF"の場合に設定することができます。
	デフォルト ゲートウェイ	-	本機が使用するデフォルトゲートウェイを設定します。 • [DHCP]、[AutoIP] が両方とも"OFF"の場合に設定することができます。
	DNS アドレス	-	本機が使用するDNSサーバーのアドレスを設定します。 • [DHCP]、[AutoIP] が両方とも"OFF"の場合に設定することができます。
	サブネット マスク	-	本機が使用するサブネットマスクの桁数を設定します。 • [DHCP]、[AutoIP] が両方とも"OFF"の場合に設定することができます。
マシンリセット		-	設定した内容を初期化します。

*1. お買い上げ時は下線の値に設定されています。

時刻の設定

お使いの国に合わせた時刻（時差）に設定することができます。

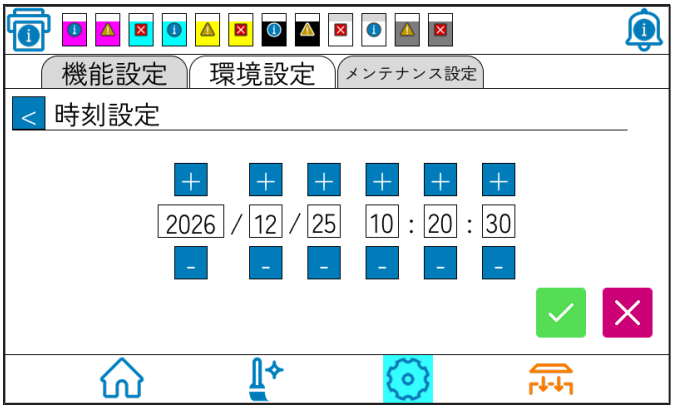
1 **設定画面の[環境設定]をタップする。**



2 **時刻設定をタップする。**



3 **時刻を入力する。**



- -20～+4時間の間で、設定できます。

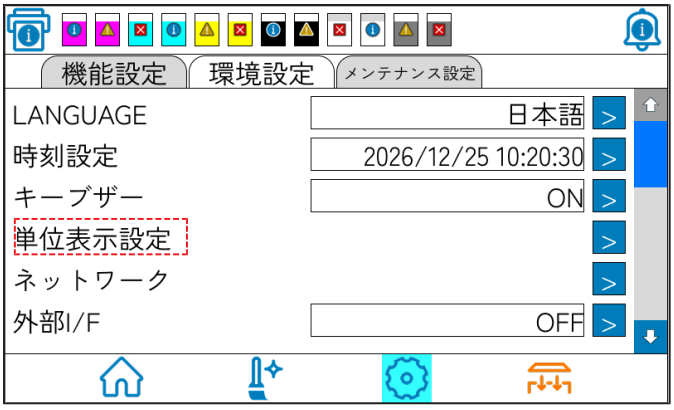
単位の設定

本機で使用する単位を設定します。

1 設定画面の[環境設定]をタップする。



2 [単位表示設定]をタップする。



3 長さの単位を選ぶ。

- 設定値：mm/inch



4 温度の単位を選ぶ。

- 設定値：°C/°F



キーブザーの設定

キーを押したときのブザー音を消すことができます。

1 **設定画面の[環境設定]をタップする。**



2 **[キーブザー]をタップする。**



3 **"ON"または"OFF"を選ぶ。**



- 設定を"OFF"にしても、エラー/ 警告/ 動作完了などのブザー音を消すことはできません。

言語の設定

表示言語を変更します。

1 **設定画面の[環境設定]をタップする。**



2 **[LANGUAGE]をタップする。**



3 **▼をタップする。**

- プルダウンメニューが表示されます。



4 言語を選ぶ。

- 設定値:日本語/English



ネットワークの設定

1 設定画面の[環境設定]をタップする。



2 [ネットワーク]をタップする。



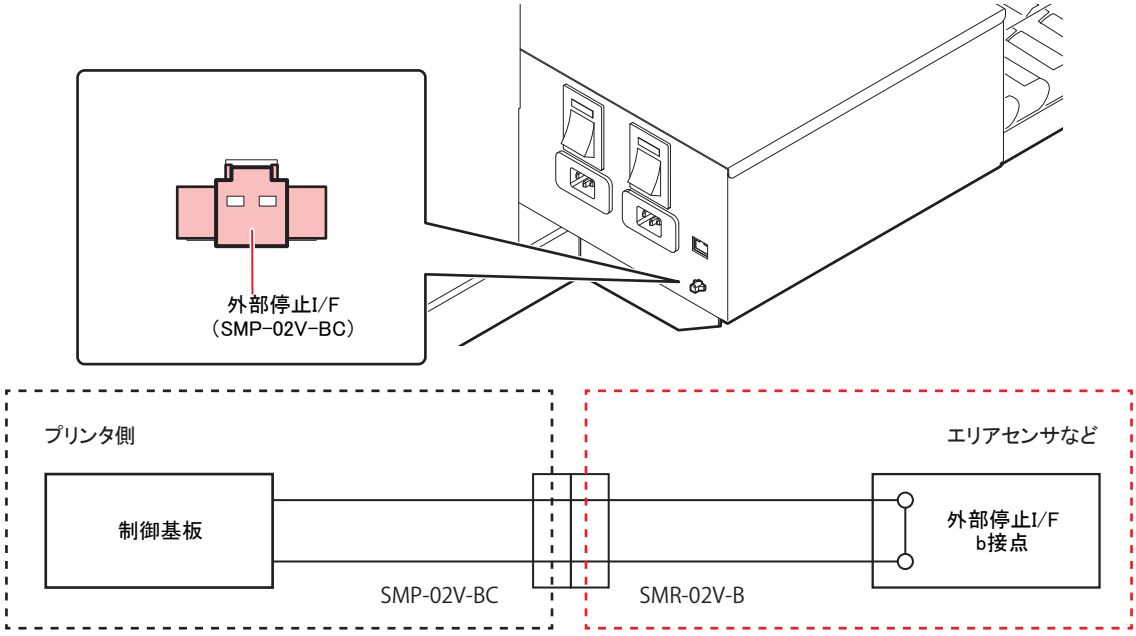
- 現在、本機で使用中のIPアドレスが表示されます。



- DHCP=OFFかつAutoIP=OFFの場合のみIPアドレス設定が可能です。

外部停止I/Fについて

本機では下図I/F（SMP-02V-BC）に外部停止I/Fを接続することができます。



重要！
- 接続コネクタ（SMR-02V-B）をご用意ください。
  外部停止I/F仕様：b接点（ノーマリークローズ）

- 外部停止I/Fの電源など、センサライン以外は絶対に接続しないでください。

外部停止I/Fの設定

外部停止I/Fに停止センサーを接続した場合の動作を設定します。

1 **設定画面の[環境設定]をタップする。**



2 **[外部1/F]をタップする。**



3 **"ON"または"OFF"を選ぶ。**

- ON：外部停止I/Fを使用する。
- OFF：外部停止I/Fを使用しない。





- リモート状態で外部停止I/Fが変化した場合は、“ショウガイブツセンサー”ワーニングを表示してローカルモードに移行します。
- 障害物を感知した状態では、ワーニングを表示してリモート状態には切り替わりません。
- 内蔵パターン（ノズルチェック、ドット位置補正など）の印刷動作は外部停止I/Fの状態にかかわらず動作を継続します。
- ローカル状態では、外部停止I/Fの検出は常に"OFF"になります。
- お使いになるセンサがI/Fに適合するか分からない場合は、弊社サポートまでご相談ください。

第 4 章　メンテナンス



この章では...

日常行っていただくお手入れ方法やインクカートリッジのメンテナンスなど、本機を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ 104
お手入れのご注意 104
メンテナンス液について..... 104
お手入れを行うタイミング 105
外装のお手入れ 106
テーブルのお手入れ..... 106
MBISのお手入れ 107
LMガイドの清掃..... 109
イオナイザーのお手入れ..... 109
ミストフィルターの清掃..... 109
UV LEDフィルターの清掃 111
キャッピングステーションのメンテナンス ..113
ワイパーとキャップの清掃 113
NCUの清掃..... 118
ステーション周辺の清掃..... 119
インク排出路の洗浄..... 120
ヘッド周辺のメンテナンス 122
UV LEDユニットの清掃 124
DASセンサー、測距センサーの清掃 125
ヘッドノズル面のメンテナンス 126
ノズル詰まりが復旧しない場合 128
サブタンクからヘッドまでのインク充填を行う 128
ヘッドノズルの洗浄.....129
ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時) 131
空気抜きを行う.....135
ノズルリカバリー機能 139
オートメンテナンス機能.....147
リフレッシュ間隔を設定する 147
クリーニング間隔を設定する 148
消耗品の交換.....150
ワイパーを交換する.....150
キャリッジフィルターの交換 152
廃インクの廃棄.....153
インクボトルキャップの交換 156
ミストフィルターの交換 157
UV LEDフィルターの交換 159
UV LEDガラスの交換 160
フラッシングフィルターについて 162
フラッシングフィルターを交換する 162

4.1 日常のお手入れ

本機の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

お手入れのご注意

本機のお手入れをするとき、次の各事項にご注意ください。



- UV LED装置は非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、UV LED装置消灯後、十分温度が下がってから行ってください。やけどのおそれがあります。



- 電源ボタンをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因となります。
- 長期間使用しない場合は、必ず電源ケーブルをコンセントから抜き、セットしてあるメディアを取り除いてください。





- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。



- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。
- メンテナンス用洗浄液やインクが、カバーに付着しないように注意してください。カバーの表面が変質、変形します。
- UVインク（紫外線硬化インク）は、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面およびヘッド周辺やキャップ、ワイパーなどへは、水またはアルコールを付着させないようご注意ください。



- 本機やインクボトルの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。



- 本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。

メンテナンス液について

メンテナンス液は、お使いになるインクに対応したものをお使いください。

インクの種類	対応するメンテナンス液
UVインク	• F-200/LF-200 メンテナンス液（品番：SPC-0568） • F-200/LF-200 メンテナンス液キット（品番：SPC-0569）

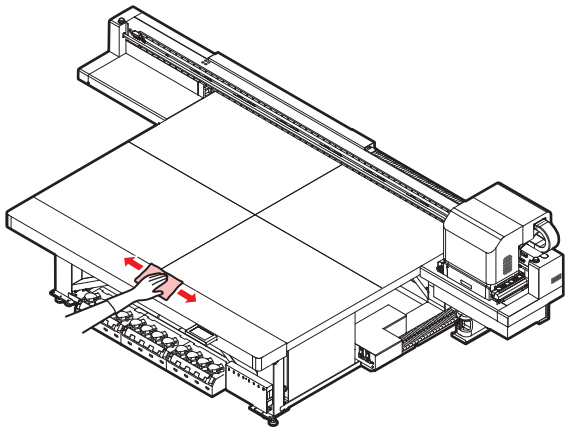
お手入れを行うタイミング

お手入れを行うタイミング	お手入れ項目（参照ページ）
毎日（1日の作業終了後）	☞「ヘッド周辺のメンテナンス」（P. 122）
	☞「ヘッドノズル面のメンテナンス」（P. 126）
	☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113）
	☞「NCUの清掃」（P. 118）
1週間に2回	☞「ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)」（P. 131） (PR-200Ver.2の場合)
1週間に1回（週末の作業後）	☞「外装のお手入れ」（P. 106）
	☞「テーブルのお手入れ」（P. 106）
	☞「インク排出路の洗浄」（P. 120）
	☞「廃インクの廃棄」（P. 153）
	☞「ステーション周辺の清掃」（P. 119）
1~2週間に1回程度	☞「キャリッジフィルターの交換」（P. 152）
	☞「MBISのお手入れ」（P. 107）
1ヶ月に1回	☞「ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)」（P. 131）(PR-200Ver.3の場合)
	☞「ミストフィルターの清掃」（P. 109）
	☞「UV LEDフィルターの清掃」（P. 111）
エラーが表示された場合	☞「ワイパーを交換する」（P. 150）
必要に応じて行うお手入れ	☞「UV LEDユニットの清掃」（P. 124）
	☞「イオナイザーのお手入れ」（P. 109）
	☞「インクボトルキャップの交換」（P. 156）

お手入れに必要な道具	
F-200/LF-200 メンテナンス洗浄液（品番：SPC-0568）	PR-200 メンテナンス洗浄液（品番：C-ML013-Z-B2-1-KW） *PR-200インク使用時
綿棒	ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）
柔らかい布	手袋

外装のお手入れ

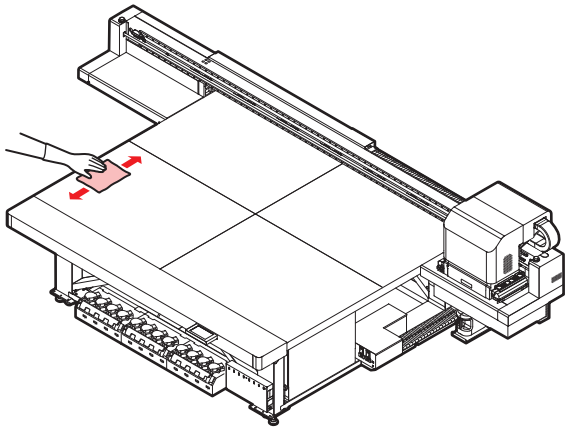
使用環境により、本体の外装には塵や砂埃が付着することがあります。ヘッド移動部へのホコリの進入を防ぐために、柔らかい布に水を含ませ、固く絞ってからふき取ってください。



テーブルのお手入れ

- 主電源を切って電源ケーブルを抜いてからメンテナンスをしてください。

汚れたまま使い続けると、固まったインクや付着したホコリがヘッドノズル面をこすり付け、吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）の原因になります。また、メディアを正常に吸着できなくなる恐れがあります。



- テーブル清掃に、アセトン等の有機溶剤を直接使用しないでください。テーブル表面の塗装が剥がれる恐れがあります。
  エタノールを染み込ませたペーパータオルによる清掃は可能です。

- 本機の内部に液体が入らないように注意してください。本機の故障や感電、もしくは火災につながるおそれがあります。

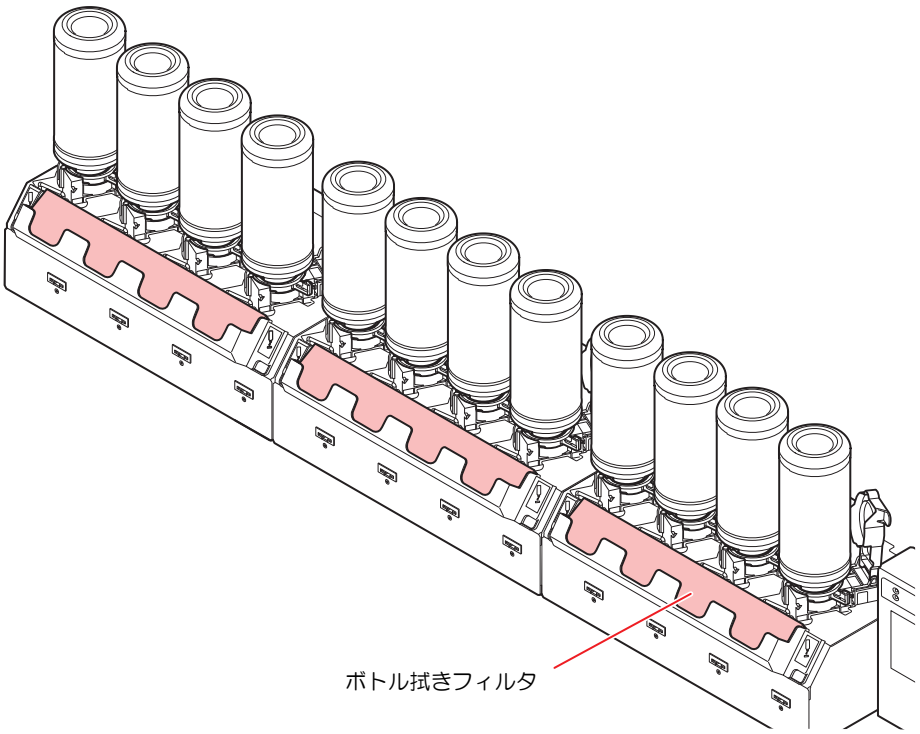
- どうしてもIPAやエタノールを使用してテーブル面に付着したインクや色移りを清掃したい場合は、柔らかい布または、ペーパタオル等に有機溶剤を少量含ませてからふき取ってください。この時、テーブル内部に有機溶剤が絶対に染み込まないよう注意してください。
- やわらかい毛のハケや乾いた布、ペーパータオルなどで、ゴミやインク固形物などをこまめに除去してください。
- 汚れが目立つときは、柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を含ませて、固く絞ってからふき取ってください。
- テーブル周囲の溝やネジ穴などは、特に汚れがたまりやすいため、こまめに清掃をしてください。
- 板面に硬化してしまったインクを、ヘラ等を使って除去することも可能ですが、板面をキズ付けないよう十分注意してください。

MBISのお手入れ

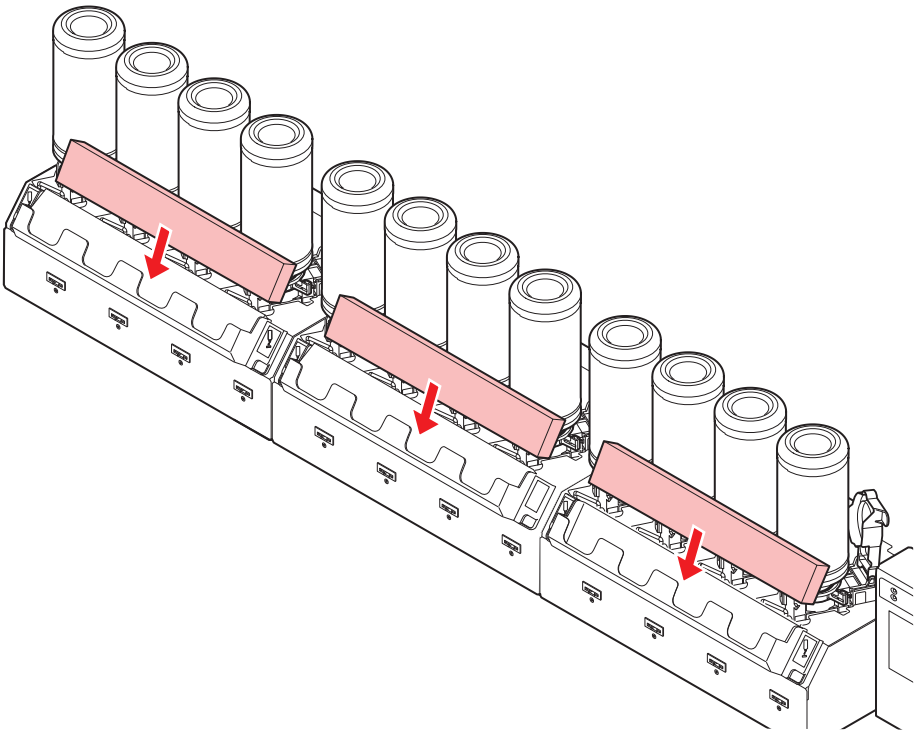
ボトル拭き取りフィルタ（品番：SPC-0820）の汚れが気になるときに交換してください。

- 操作パネルを奥に押し込んだ状態で本作業を行ってください。作業時は、操作パネルおよびテーブルに頭部を接触させないよう注意してください。

1 ボトル拭き取りフィルタを取り出す。



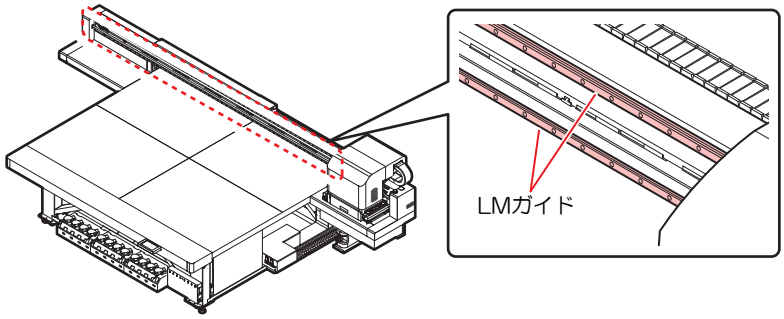
2 新しいボトル拭き取りフィルタ（品番：**SPC-0820**）を取り付ける。



LMガイドの清掃

LMガイドが汚れたときは、柔らかい乾いた布で拭き取ってください。

重要！ • エタノールで拭かないでください。



イオナイザーのお手入れ

イオナイザー（オプション）の取扱説明書に従って、メンテナンスを行ってください。

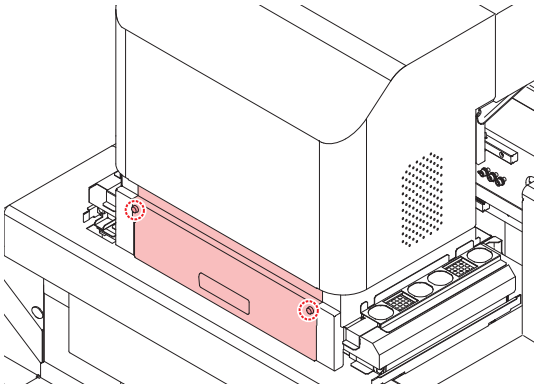
ミストフィルターの清掃

ミストフィルターの状態を確認して、汚れが激しいときは交換してください。

重要！ • ミストフィルターは、プリントヘッドからインク滴を吐出する際に発生するミストを吸収する部品です。汚れた状態で使用を続けると、成果物を汚染する原因となります。フィルターは1か月に1回を目安に清掃してください。

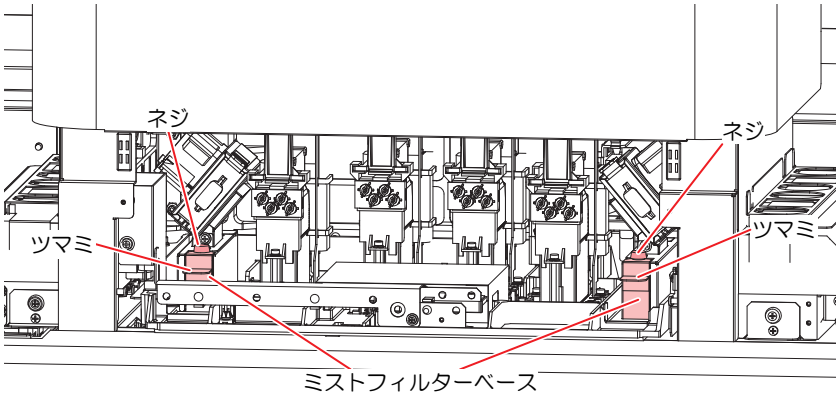
1 キャリッジカバーDCを取り外す。

• ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。

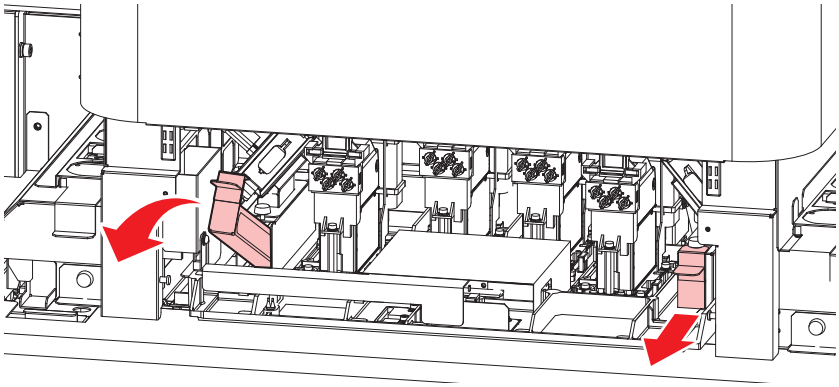


2 固定ネジを緩めミストフィルターベースを引き抜く。

- ツマミを手前に引いて外します。



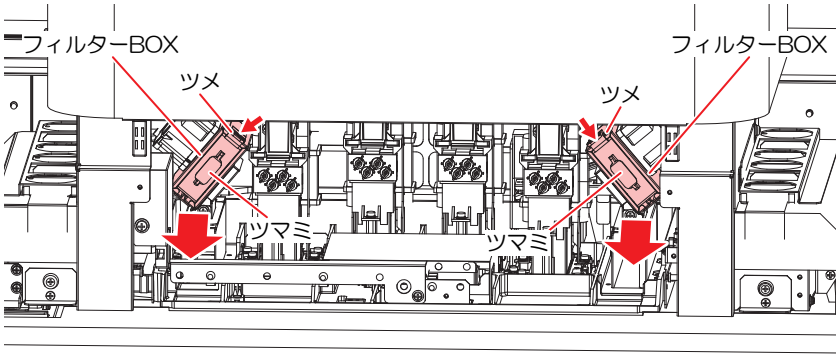
- 左側は上にあげながら引き抜きます。



3 フィルターBOXを引き抜く。

- 爪を押しながら矢印の方向にスライドさせて外します。

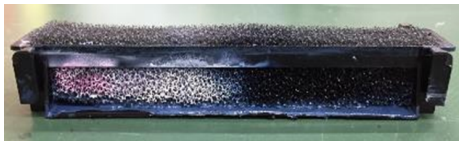
- 爪のある方向に持ち上げながら、爪を外すと簡単に外れます。



4 フィルターを清掃する。

- フィルターを外して、紙タオルなどで押さえて汚れを落とします。
- フィルターケースに付着した汚れを拭き取ります。

- フィルターについたインクが液状化するなど、汚れが激しい場合は、フィルターを交換してください。
☞「ミストフィルターの交換」（P. 157）



5 ミストフィルターを差し込む。

6 手順2で外した固定ネジを締める。

7 フィルターBOXを差し込む。

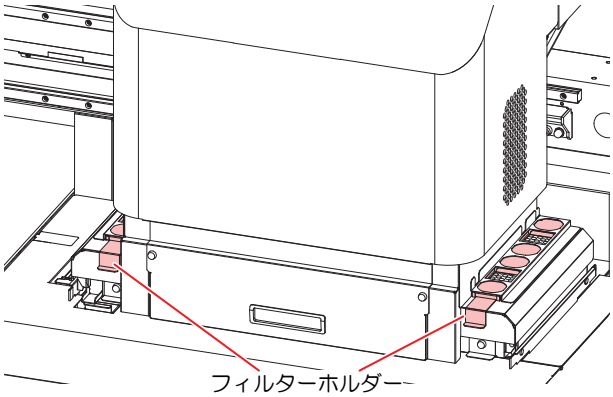
- カチッと音がするまで挿し込んで、ツメが固定されたことを確認してください。

8 キャリッジカバーDCを閉じる。

UV LEDフィルターの清掃

UV LEDフィルタの状態を確認して、汚れが激しいときは交換してください。

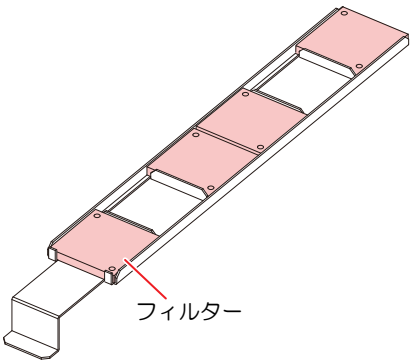
1 フィルターホルダーを引き抜く。



2 フィルターを清掃する。

- フィルターを外して紙タオルなどで押さえて汚れを落とします。

- フィルターの汚れが激しい場合は交換して下さい。☞「UV LEDフィルターの交換」（P. 159）



3 フィルターホルダーを元に戻す。



- 奥まで挿し込み、マグネットにより固定されていることを確認してください。

4.2 キャッピングステーションのメンテナンス

キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパーなどのメンテナンスをします。（ステーションメンテナンス）

インクキャップやワイパーは、それぞれ次のような働きをしています。

- ワイパー：
  ヘッドのノズルに付着したインクを拭き取る
- インクキャップ：
  ヘッドのノズルが乾燥により、目詰まりするのを防止する

本機を使用していると、インクやホコリなどでワイパーやインクキャップが汚れてきます。

ヘッドクリーニングを実行☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）しても、ノズル抜けが解消されない場合は、 メンテナンス用洗浄液とクリーンスティックを使用して清掃を行います。

メンテナンスに必要な道具	• F-200/LF-200 メンテナンス用洗浄液（品番：SPC-0568）	• 保護メガネ
	• ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）	• 手袋




- キャッピングステーションのメンテナンスを行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



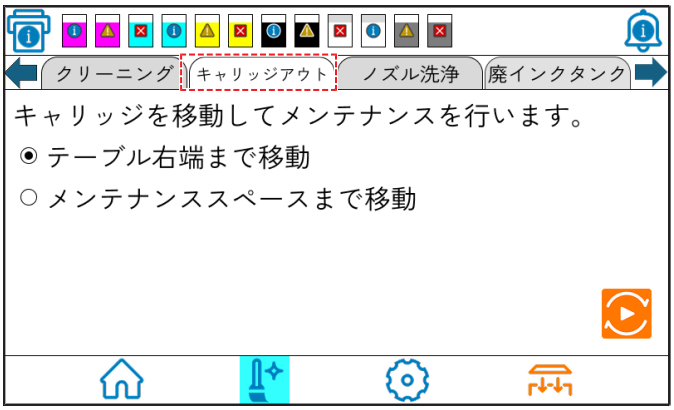
- キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジを移動させたいときは、[MAINT.]キーを押し、キャリッジアウトを実行してください。
  ☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113）(手順1 ～ 2)
- キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパーは、必ず毎日メンテナンスをおこなってください。汚れたままにした場合、ノズル面に汚れが付着したり、ノズルにゴミや凝固インクをこすりつけ、吐出不良が発生する恐れがあります。

ワイパーとキャップの清掃

重要！

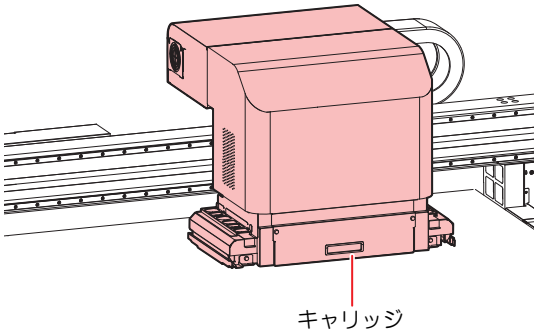
- 1日の作業終了後（プリンタの使用頻度により異なります）、ワイパーと周辺の清掃をしてください。
- ワイパーの汚れ、曲がりがひどい場合は、新しいワイパーと交換してください。
  ☞「ワイパーを交換する」（P. 150）
- 清掃の際は、クリーンスティックの繊維が残らないように注意してください。繊維が残っていると、プリント不良の原因になります。

1 メンテナンス画面の[キャリッジアウト]をタップする。



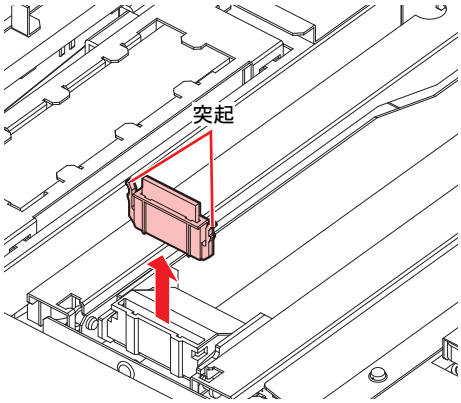
2 [テーブル右端まで移動]を選び  をタップする。

- キャリッジがテーブル上に移動します。



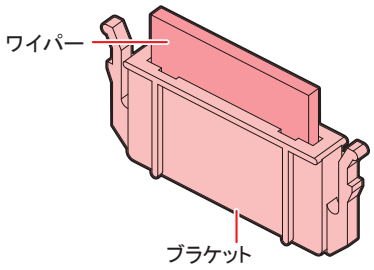
3 ワイパーを取り出す。

- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。

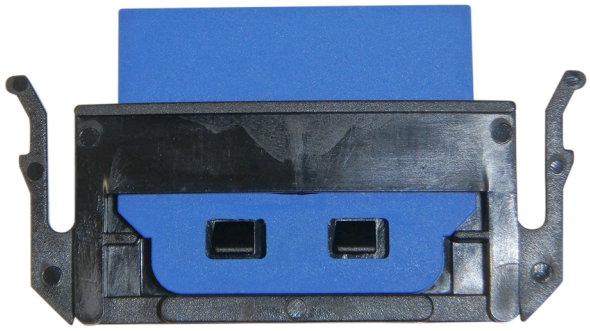


4 ワイパーとブラケットを清掃する。

- ワイパーとブラケットに付着したインクを、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



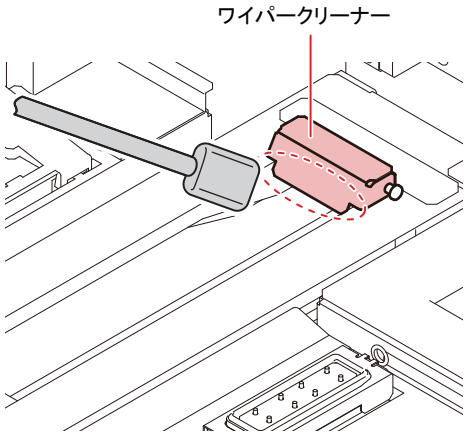
重要！
- 写真のような状態になるまで、清掃してください。



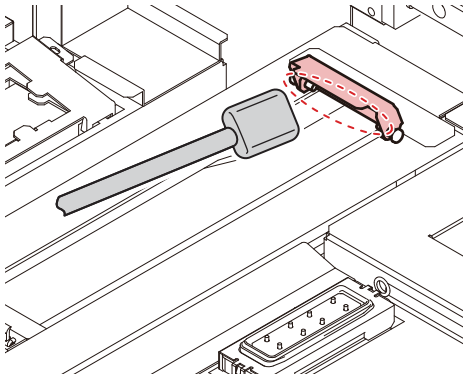
- 清掃後はワイパーとブラケットが水平になっていることを確認してください。

5 ワイパークリーナーを清掃する。

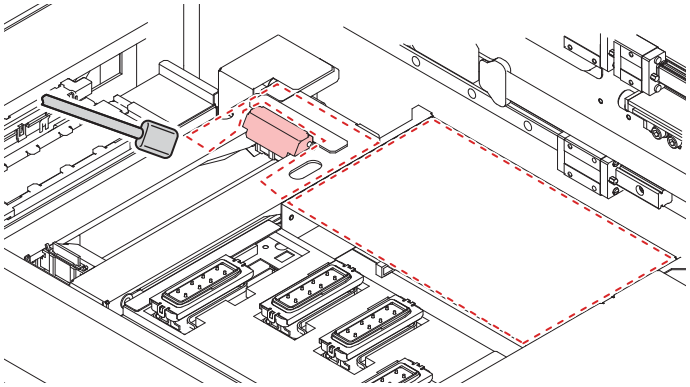
- ワイパークリーナーの先端をクリーンスティックで拭き取ります。



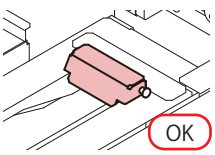
- ワイパークリーナーを上へ持ち上げて、内部に付着したインクをクリーンスティックで清掃します。

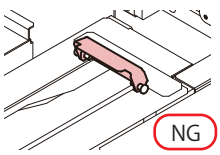


- ワイパークリーナーの周辺とシャッターカバーを清掃します。



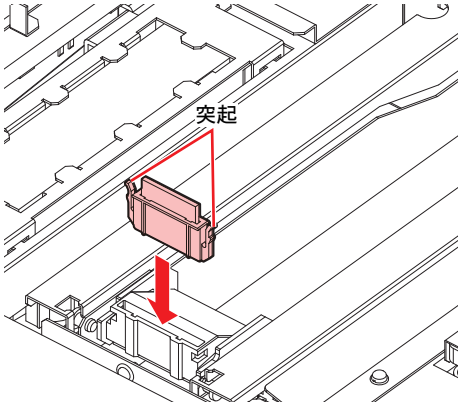
- ワイパークリーナーはブラケットから取り外さないでください。
- ワイパークリーナーのワイパーは、表面のみ清掃します。(裏面は清掃の必要はありません)
- ワイパークリーナー清掃後は、クリーナーが上を向いていないことを確認してください。





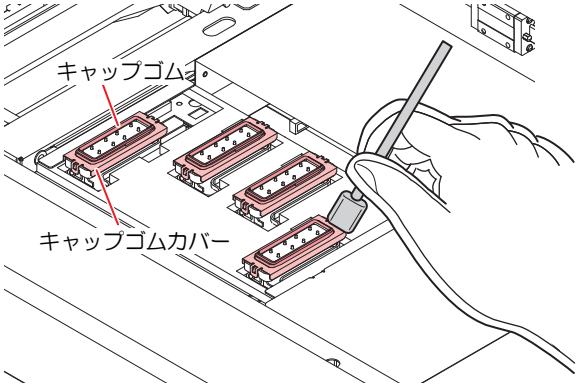
6 ワイパーを元の位置に戻す。

- ワイパーの両端を持って差し込みます。



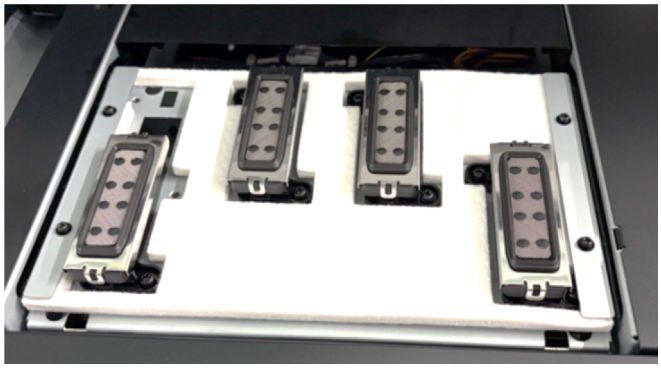
7 キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する。

- キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
  メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



重要!

- 写真のような状態になるまで、清掃してください。



- 清掃後は、キャップゴムやキャップ内メッシュが外れていないことを確認してください。

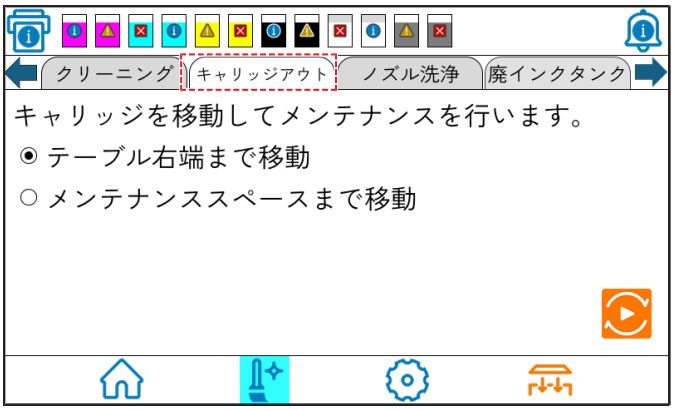
8 清掃が終了したら、[ワイパー清掃][キャップ清掃]の[実施]にチェックを入れ、をタップする。

- キャリッジが元の位置に戻ります。

NCUの清掃

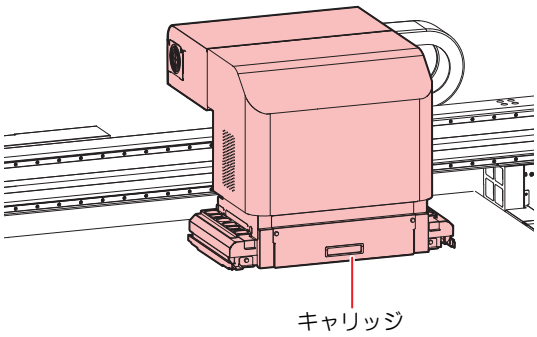
NCUにはインクやホコリが付着します。
インクやホコリが付着していると、正常な動作ができなくなる場合があります。

1 メンテナンス画面の[キャリッジアウト]をタップする。



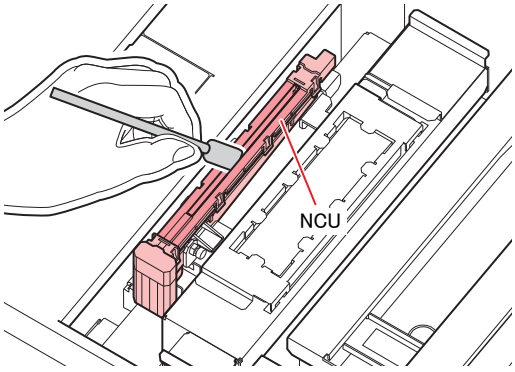
2 [テーブル右端まで移動]を選び  をタップする。

- キャリッジがテーブル上に移動します。



3 NCUに付着したインクやホコリを拭き取る。

- メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティック（SPC-0421）で、表面と内側を拭き取ります。
- メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



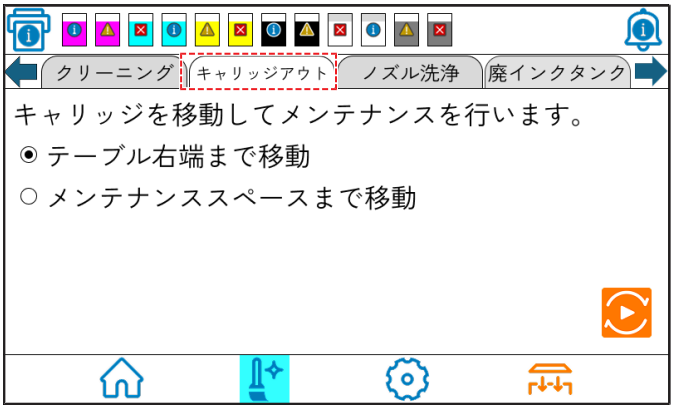
4 清掃が終了したら、  をタップする。

ステーション周辺の清掃

画質や本機の状態を良好に保つため、こまめに清掃されることをお勧めします。

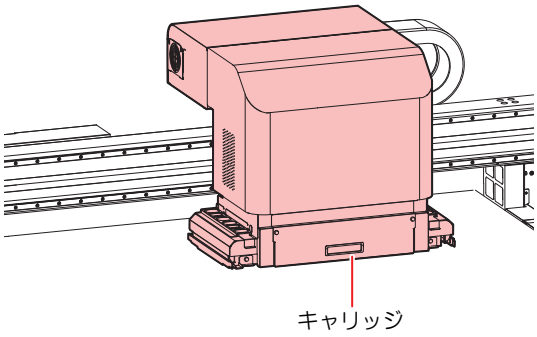
重要！
- 週に1回程度（プリンタの使用頻度により異なります）、ステーション周辺の清掃をしてください。
- 廃インクトレーに残っているインクがUV光により硬化すると、フラッシング時に吐出したインクが廃インクボトルに移動できなくなります。廃インクトレーはこまめに清掃されることをお勧めします。

1 メンテナンス画面の[キャリッジアウト]をタップする。



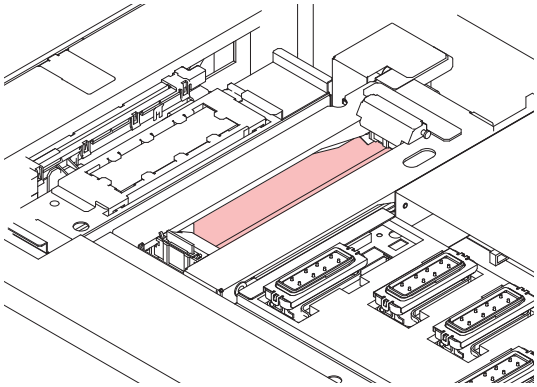
2 [テーブル右端まで移動]を選び  をタップする。

- キャリッジがテーブル上に移動します。
- 廃インクトレーを清掃してください。



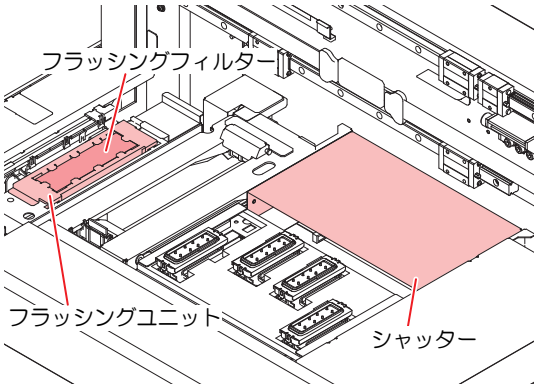
3 ウエスなどを使って、廃インクトレー周辺に付着したインクを拭き取る。

- 下図のピンク色の部分を清掃してください。
- インクが固着して拭き取れない場合は、へらなどを使ってこそぎ落としてください。



4 フラッシングユニットやシャッター部に付着したインクを拭き取る。

- クリーンスティックにメンテナンス用洗浄液を含ませ、付着したインクを拭き取ります。メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



重要!
- フラッシングフィルターの表面が毛羽立っている場合は、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ってください。
- 汚れがひどいときや、硬化してしまった場合は、フラッシングフィルターを交換してください。「フラッシングフィルターについて」（P. 162）

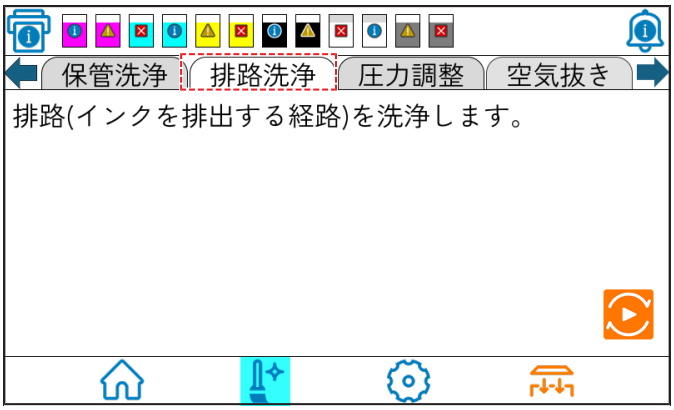
5 清掃が終了したら、をタップする。

- キャリッジが元の位置に戻ります。

インク排出路の洗浄

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にインク排出路の洗浄をしてください。

1 メンテナンス画面の[排路洗浄]をタップする。

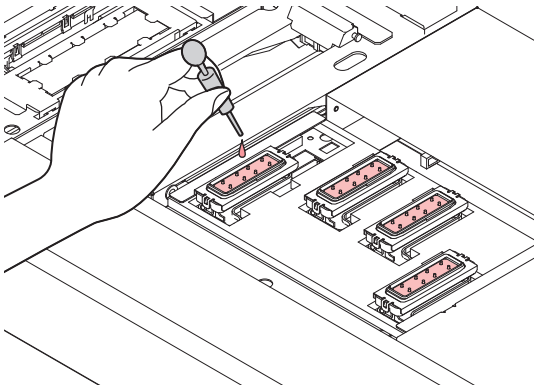


2 をタップする。

- キャリッジがテーブル上に移動します。

3 スポイトにメンテナンス用洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす。

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



4 をタップする。

- 30秒間空吸引を実行した後、キャリッジが戻り、手順1の表示に戻ります。

4.3 ヘッド周辺のメンテナンス

ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れの際には十分な注意が必要です。

スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがありますので、クリーンスティックなどでこすり落としてください。その際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

清掃に必要な道具	• ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）	• 保護メガネ	• 手袋

- インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

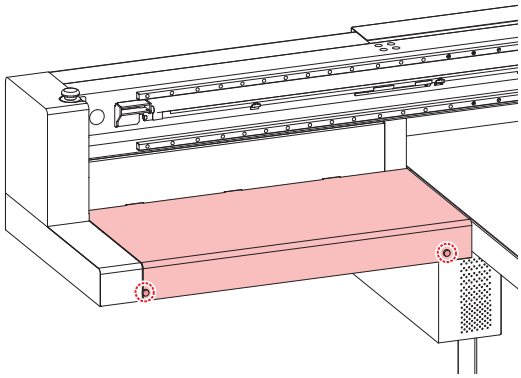
- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。

- キャリッジ下面がインクやホコリの付着により汚れないように、必ず毎日清掃をおこなってください。汚れたままの状態にしておくと、ヘッドクリーニング時のワイプ動作でノズルにゴミや凝固インクをこすり付けてしまう恐れがあります。
- キャリッジ下面を清掃する場合、ノズル面をこすらないよう、十分に注意してメンテナンスをおこなってください。

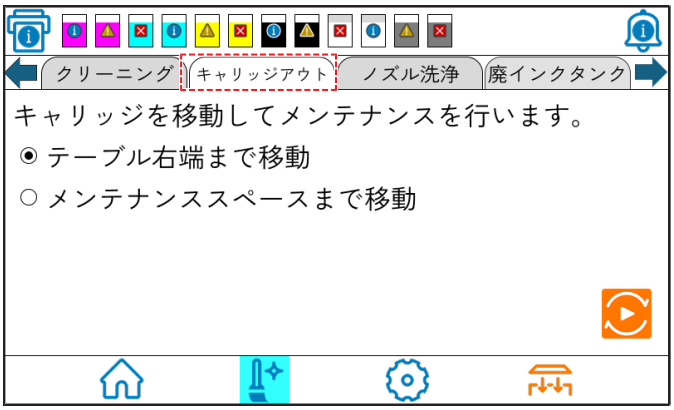
1 ヘッドクリーニング[ノーマル]を実施する。☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）

2 Yバー左側のカバーを外す。

- 化粧ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。



3 メンテナンス画面の[キャリッジアウト]をタップする。

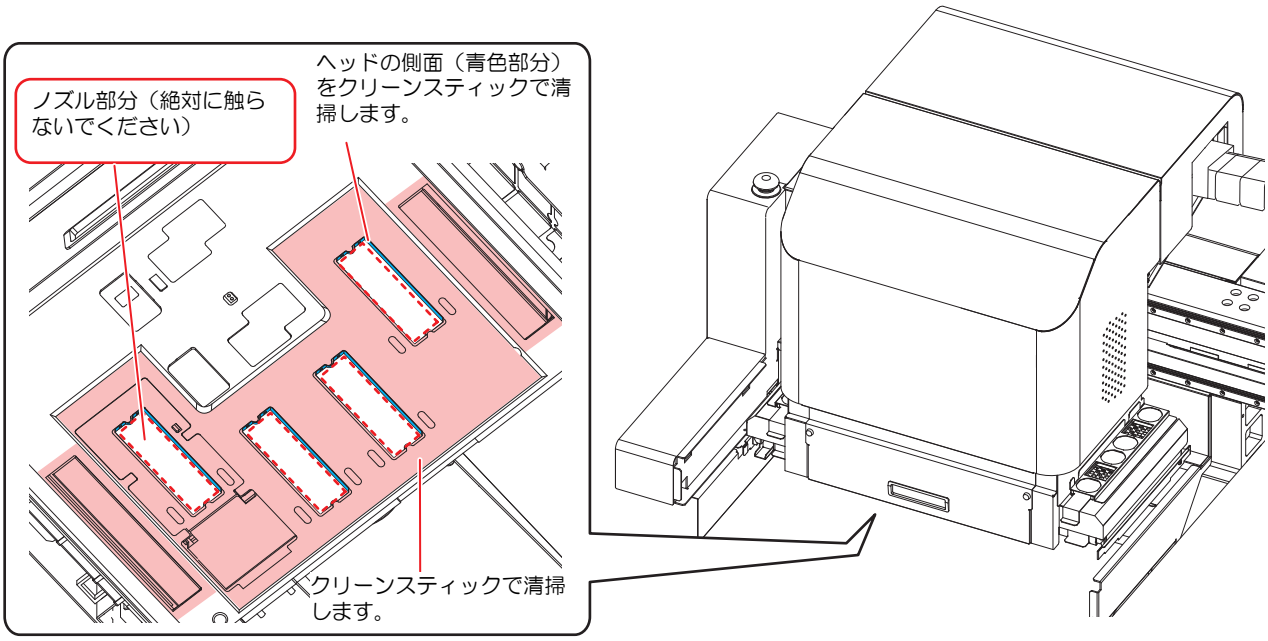


4 [メンテナンススペースまで移動]を選択する。

- キャリッジが、本機の左端まで移動します。

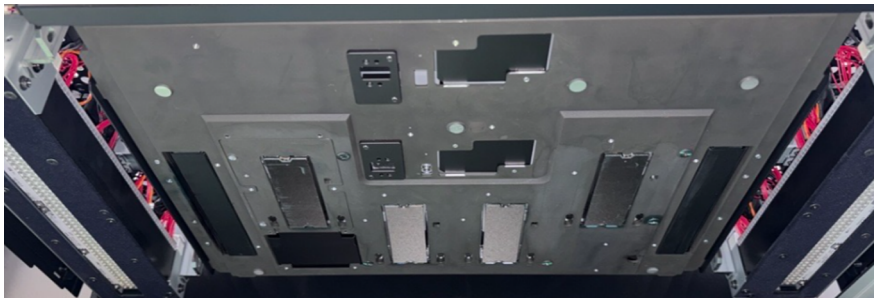
5 ヘッドの側面やキャリッジ下面などに付着したインクをクリーンスティックで拭き取る。

- ノズル部分は、絶対にこすらないでください。



重要！

- 写真のような状態になるまで、清掃してください。
- ノズル面にキャップゴムの形が付いている場合、ノズル面も清掃してください。
- メンテナンス途中で席を離れる場合、[ENTER]キーを押して清掃を終了してください。そのまま放置すると、外光の影響でインクが硬化し、ノズル詰まり等の弊害を及ぼす恐れがあります。



UV LEDユニットの清掃

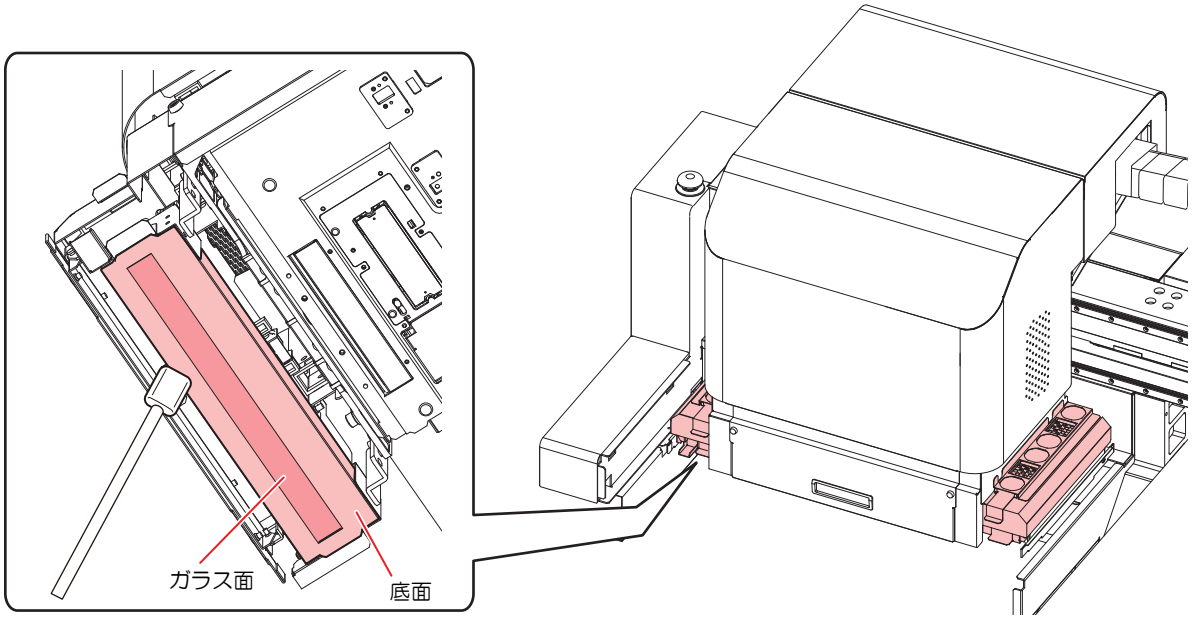
UV LEDユニットの底面やガラス面に付着したインクやホコリなどを定期的に清掃してください。

重要！
- UV LEDの清掃時には、ユニット下面の照射部を傷つけないように注意して、丁寧に清掃してください。照射部に一定以上の汚れや遮光物があると、インクの硬化不良によるバンディングが発生する原因になります。

- UV LEDユニットのみ清掃したい場合は、ヘッド周辺のメンテナンス手順１～3を実施してキャリッジを移動させてから清掃してください。

1 UV LEDユニットを清掃する。

- メンテナンス液を含ませたクリーンスティックで、付着したインクやホコリを拭き取ります。メンテナンス液が残らないように拭き取ってください。



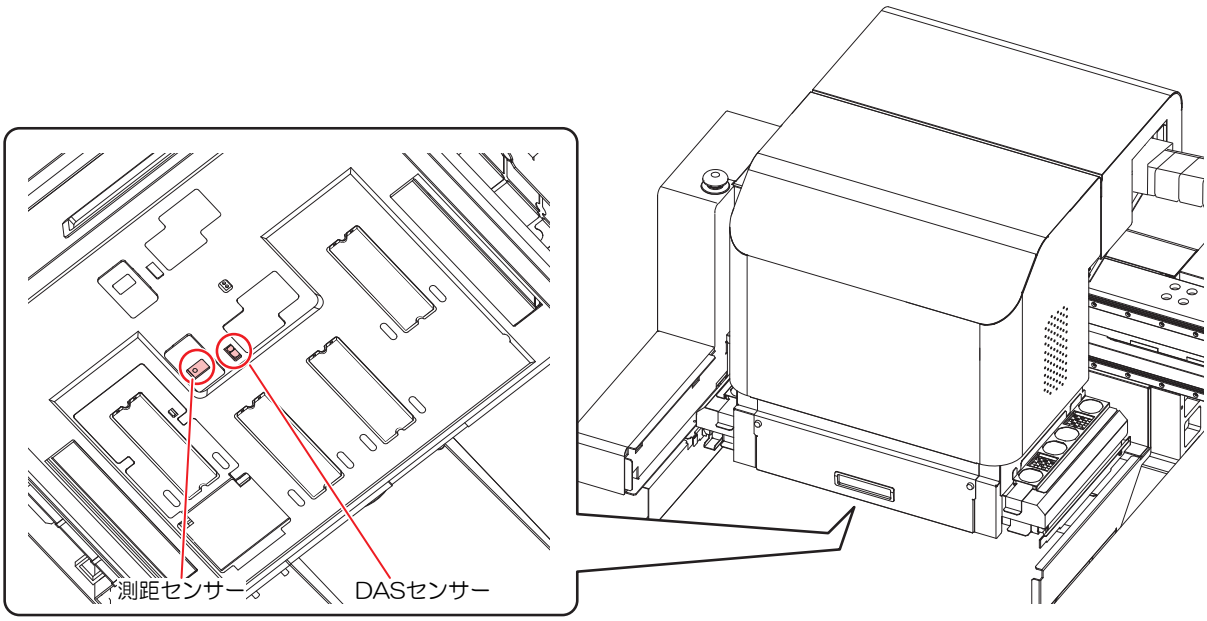
- UV-LEDガラスをクリーンスティックで強くこすらないでください。UV-LEDガラスが破損するおそれがあります。

DASセンサー、測距センサーの清掃

キャリッジ底面に、DASセンサー、測距センサーが付いています。センサーにホコリやゴミがたまると、センサーの機能が実行できないおそれがあります。
クリーンスティックや柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

- DASセンサー、測距センサーのみ清掃したい場合は、ヘッド周辺のメンテナンス手順１～3を実施してキャリッジを移動させてから清掃してください。

1 **DASセンサー、測距センサーの汚れを拭き取る。**



- 汚れが目立つときは、柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を含ませて、固く絞ってからふき取ってください。

4.4 ヘッドノズル面のメンテナンス

吐出の抜けや曲がりの予防としてヘッドノズル面をメンテナンス液11、またはメンテナンス液15で清掃してください。

- ヘッドノズル面の清掃は、メンテナンス液11、メンテナンス液15以外は使用しないでください。本機の故障や吐出不良の原因になります。

- プリントヘッドは非常に繊細なメカニズムを採用しております。お手入れの際には十分に注意してください。

清掃に必要な道具	• ヘッド周辺用クリーンスティック（品番：SPC-0527）	• メンテナンス液11 • メンテナンス液15

- インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

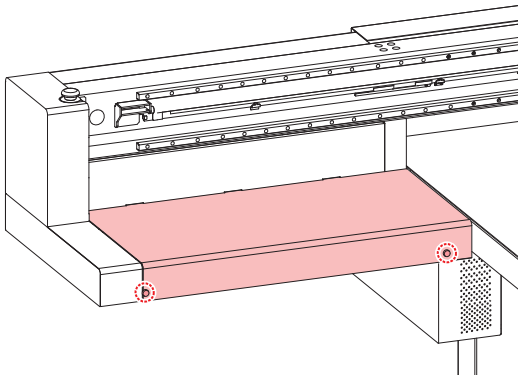
- インク、メンテナンス用洗浄液を取り扱う場合は、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入るおそれがあります。

1 **ヘッドクリーニング[ノーマル]を実施する。**☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）

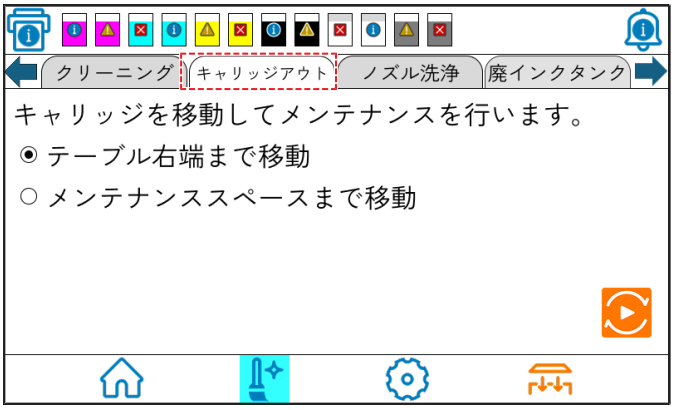
- ノズル面にインクの付着がないように、メンテナンス前にクリーニングを実施してください。

2 **Yバー左側のカバーを外す。**

- 化粧ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。



3 **メンテナンス画面で、[キャリッジアウト]をタップする。**



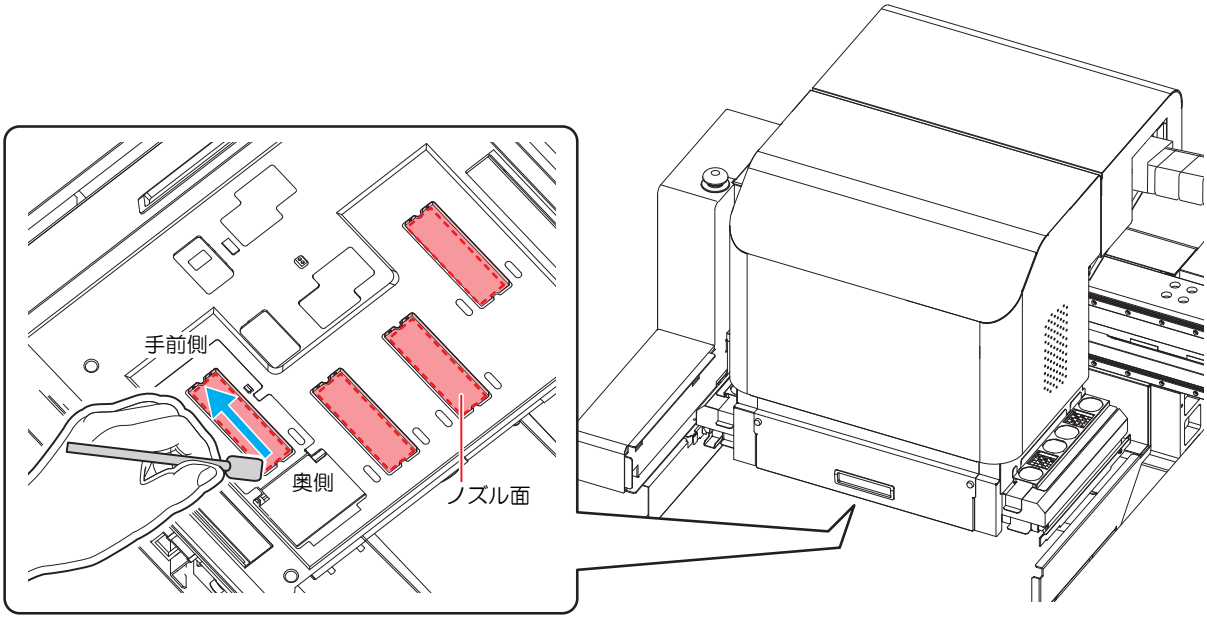
4 [メンテナンススペースまで移動]を選択する。

- キャリッジが、本機の左端まで移動します。

5 クリーンスティックにメンテナンス液を染み込ませる。

6 プリントヘッドノズル面を清掃する。

- ヘッドの奥側から手前に向けて、クリーンスティックでヘッドノズル面を清掃してください。



- 必ずクリーンスティックで清掃してください。
- ノズル面をこすったり、スポンジ部を指で強く押さえつけたりしないでください。ノズル面が傷つき、吐出不良の原因になります。
- 一度使用したクリーンスティックは再利用しないでください。ノズル詰まりの原因になります。

7 清掃が終了したら、[ノズル周辺清掃]の[実施]にチェックを入れ、✓をタップする。

- キャリッジが元の位置に戻ります。



8 ヘッドクリーニング[ノーマル]を実施する。☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）

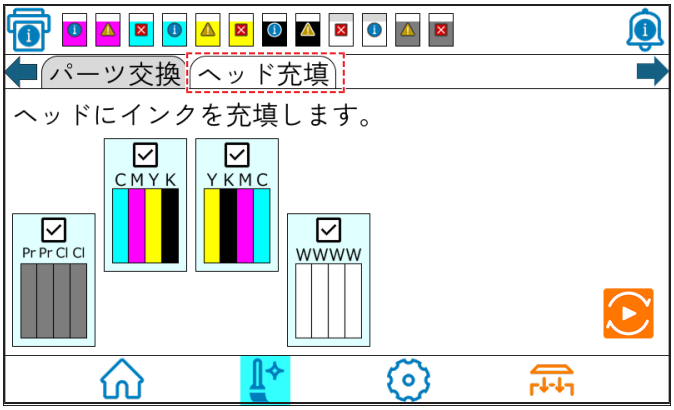
4.5 ノズル詰まりが復旧しない場合

ヘッドクリーニング☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）をしても、ノズル詰まりが改善しない場合、次の機能を実行してください。

ワイパーとキャップの清掃	• ワイパーとキャップを清掃します。 ☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113）
ヘッドノズル面のメンテナンス	• ヘッドノズル面を清掃します。 ☞「ヘッドノズル面のメンテナンス」（P. 126）
ヘッド充填	• ヘッドにインクを充填します。 ☞「サブタンクからヘッドまでのインク充填を行う」（P. 128）
ノズル洗浄	• ヘッドノズルを洗浄します。 ☞「ヘッドノズルの洗浄」（P. 129）
空気抜き	• ヘッド内のインクや混入してしまった空気を抜きます。 ☞「空気抜きを行う」（P. 135）
ノズルリカバリ	• ノズル抜けが直らないとき、かわりのノズルでプリントします。 ☞「ノズルリカバリー機能」（P. 139）

サブタンクからヘッドまでのインク充填を行う

1 メンテナンス画面の[ヘッド 充填]をタップする。



2 をタップする。

- キャリッジが移動し、充填が開始します。

ヘッドノズルの洗浄

インクの凝固によるインク詰まりを防止するため、ヘッドノズルの洗浄を行います。

事前に確認してください	[インク エンド]は表示していませんか？ • 洗浄動作の際に、インクの吸引を行います。このとき、インクエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。 • インクエンドを検出していない、新品のインクボトルに交換してください。

1 メンテナンス画面の[ノズルの洗浄]をタップする。



2 をタップする。

• キャリッジが移動します。

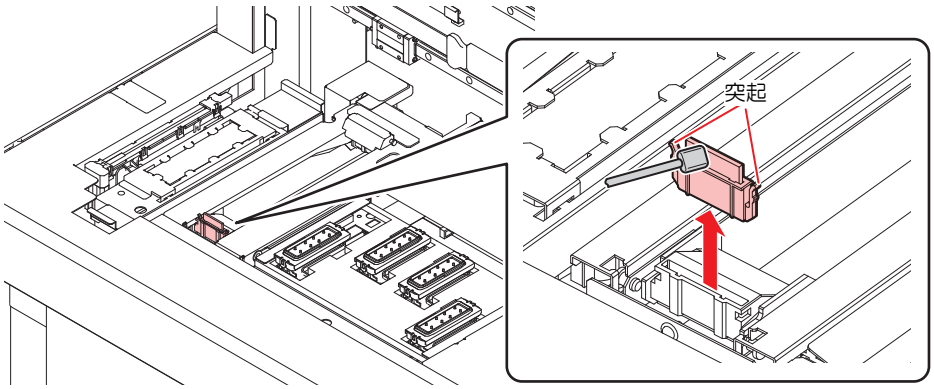
3 ワイパーとブラケットを清掃する。

(1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く。

(2) クリーンスティックにメンテナンス用洗浄液を含ませて清掃する。

• メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。

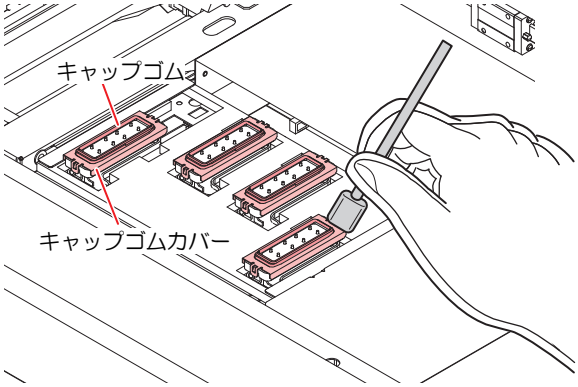
(3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む。



4 清掃が終了したら、をタップする。

5 キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する。

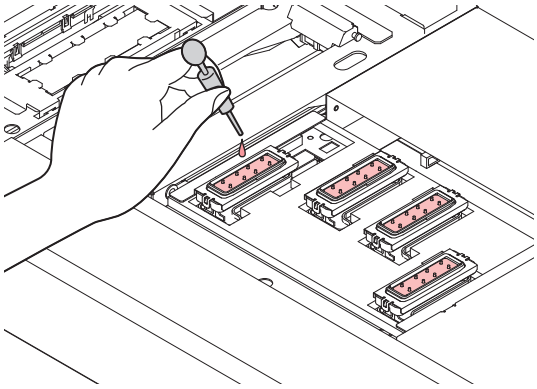
- キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス用洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- このとき、自動的に排出路が洗浄されます。



6 清掃が終了したら、をタップする。

7 スポイトにメンテナンス用洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす。

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



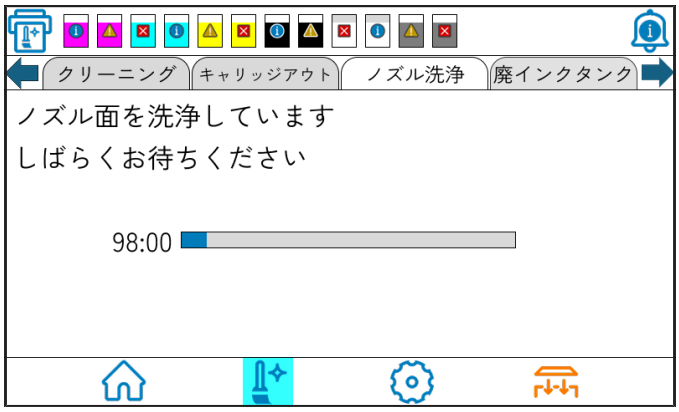
8 終了したら、をタップする。

9 放置時間を入力します。

- ML007洗浄液をお使いの場合：推奨時間は1分
- ML016洗浄液をお使いの場合：推奨時間はノズル状態に応じて10分
- PR-200洗浄液をお使いの場合：推奨時間は1分

10 をタップする。

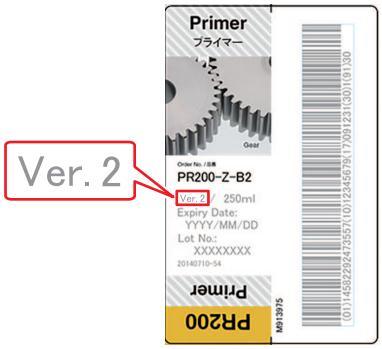
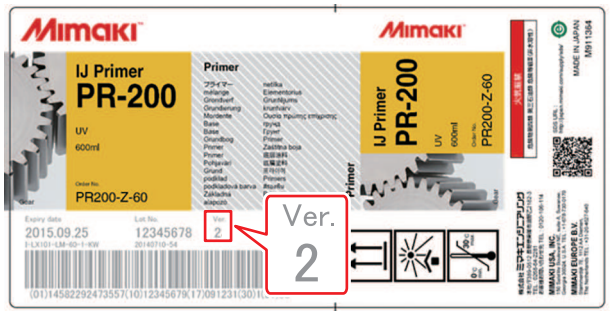
- キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- キャップに洗浄液を放置している間、以下の画面を表示します。



重要! • この洗浄を何回か実行してもノズル抜けが解消されない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

ヘッドノズルの洗浄(PR-200インク使用時)

PR-200 を搭載している機種は、ノズル詰まりが発生することがあります。PR-200インクカートリッジ・パック・ボトルのラベルに表記されているVer.を確認し、 Ver.2の場合は1 週間に 2 回、Ver.3の場合は月1回の頻度でノズルを洗浄してください。

ラベル　Ver. 表記位置	
220mL カートリッジ	250mL ボトル
	
600mL パック	1L ボトル
	

必要なメンテナンス液	• F-200/LF-200メンテナンス液 (SPC-0568)	• PR-200メンテナンス液 (C-ML013-Z-B2-1-KW)

1 メンテナンス画面の[ノズルの洗浄]をタップする。



2  をタップする。

- キャリッジが移動します。

重要! • ワイパーのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギヘ):ENT] が表示されます。手順4の作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。クリーニングが終了する前に[ENTER]キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

3 ワイパーとブラケットを清掃する。

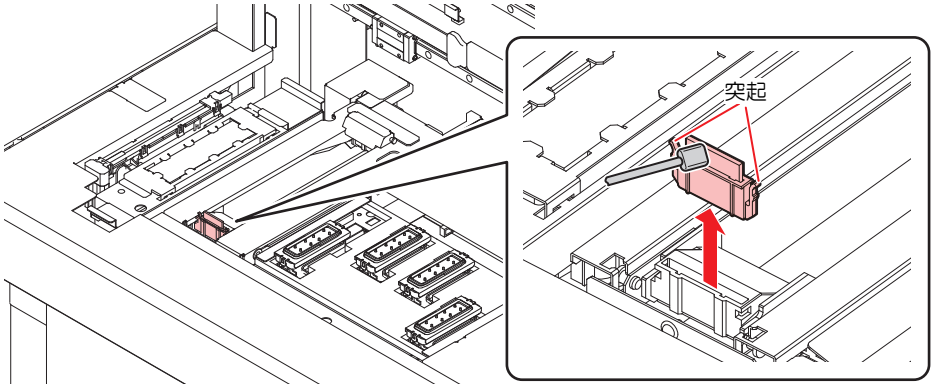
(1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く。

(2) クリーンスティックにF-200/LF-200メンテナンス液(SPC-0568) を含ませて清掃する。

- F-200/LF-200メンテナンス用洗浄液は、残らないように拭き取ってください。

(3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む。

重要! • ワイパー、ブラケット、キャップゴム、キャップゴムカバーの清掃には必ずF-200/LF-200メンテナンス液を使い、PR-200メンテナンス液(C-ML013-Z-B2-1-KW)は使用しないようにしてください。

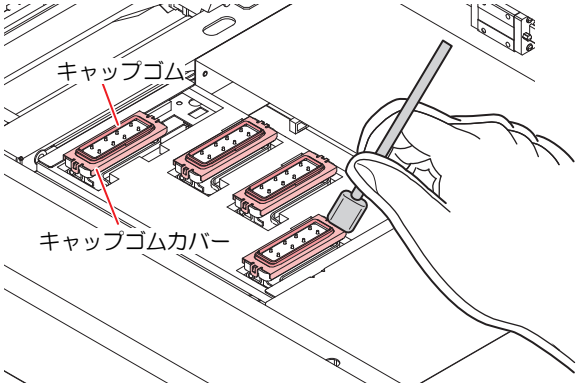


重要! • キャップのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギヘ):ENT] が表示されます。手順6の作業が完了してから[ENTER]キーを押してください。クリーニングが終了する前に[ENTER]キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

4 清掃が終了したら、 をタップする。

5 キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する。

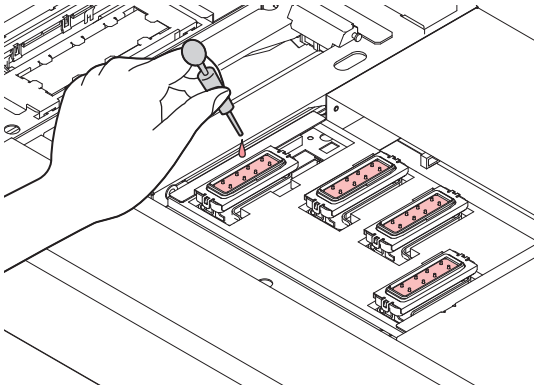
- キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、F-200/LF-200メンテナンス液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。F-200/LF-200メンテナンス液は、残らないように拭き取ってください。
- このとき、自動的に排出路が洗浄されます。



6 清掃が終了したら、をタップする。

7 スポイトにPR-200メンテナンス液(C-ML013-Z-B2-1-KW)をとり、PR-200搭載ヘッドのキャップにのみ一杯に満たす。

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



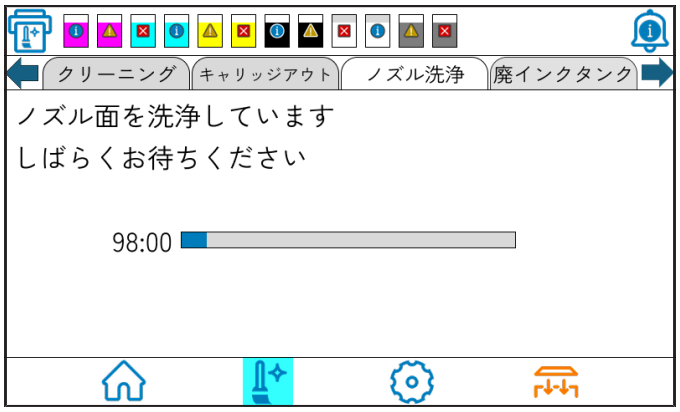
8 メンテナンス液を満たしたら、をタップする。

9 放置時間を入力します。

- 推奨時間は1分です。

10  をタップする。

- キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- キャップに洗浄液を放置している間、下記の画面を表示します。



- 放置時間が過ぎると、手順2の表示に戻ります。

11 PR-200搭載ヘッドに、ヘッドクリーニング(ハード)を1回実施する。

(1) メンテナンスメニューの[クリーニング]をタップする。

(2) タイプ選択で[ハード]を選ぶ。

(3) ヘッド選択で、ヘッド3のみを選び、をタップする。

12 テストプリントをして、ノズルの状態を確認する。

- ノズル抜けが見られる場合は、再度ノズルクリーニング(ハード)を実行し、ノズルの状態を確認してください。

重要！
- この洗浄を3回繰り返してもノズル抜けが解消されない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

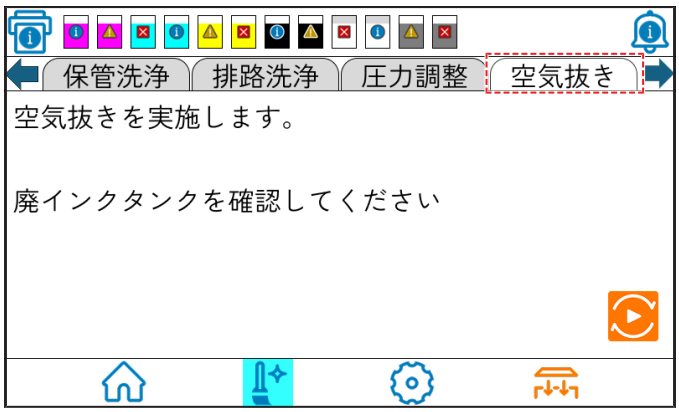
空気抜きを行う

ヘッド内でインクが混色してしまった場合や空気の混入によるノズル抜けが発生した場合は、ヘッド内のインクや混入してしまった空気をポートから押し出してください。

- ノズル抜けを未然に防ぎ、快適にご使用いただくため、1ヶ月に1回程度のエア抜き実施を推奨します。

1 メンテナンス画面の[空気抜き]をタップする。

- 以下の画面が表示されます。廃インクタンクを確認してください。

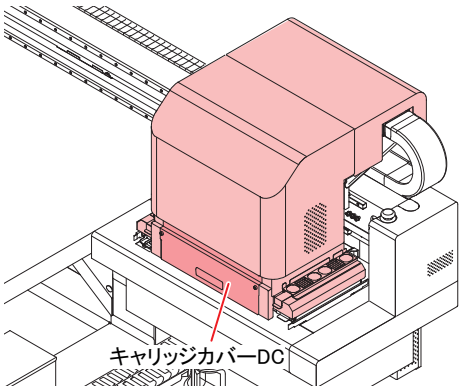


2 をタップする。

3 ヘッドを選ぶ。

- Yバーが一番手前まで移動してから、キャリッジがワイパー上に移動します。

4 キャリッジカバーDCを開ける。

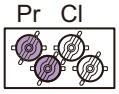
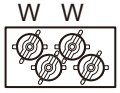
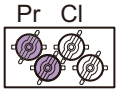
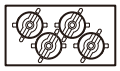


重要! ・ 取り外したカバーは作業終了後、速やかに取り付けてください。長時間放置すると、紫外線によるインクへの影響が出る可能性があります。

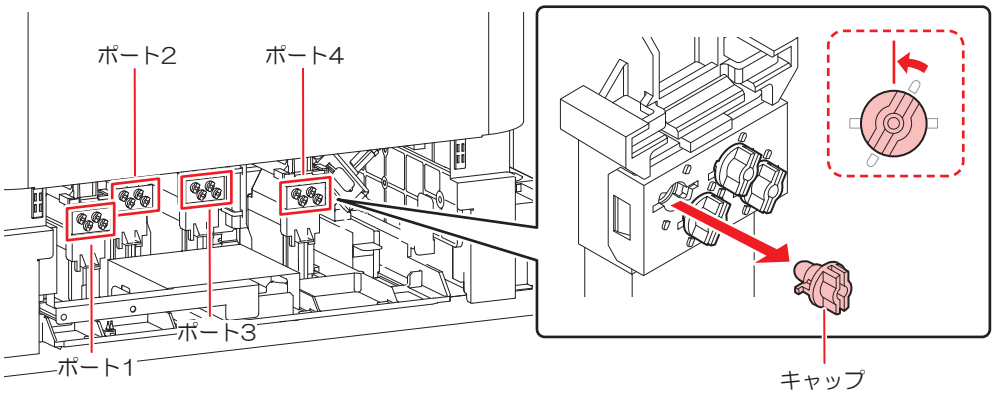
5 対象となるポートのキャップを外す。

- ポートのレイアウトは下図の通りです。

	ヘッド1	ヘッド2	ヘッド3	ヘッド4
4色	C Y M K	C Y M K	Y M K C	Y M K C

4色+W+Pr+Cl	Pr Cl  Pr Cl	C Y  M K	Y M  K C	W W  W W
6色+Fp+Fy+W+Cl+Pr	Pr Cl  Pr Cl	C Y  M K	Fy Lm  Fp Lc	W W  W W

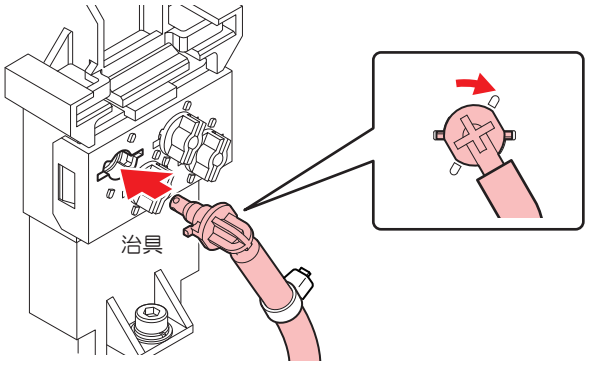
- キャップは反時計方向へ30° 程回してから外してください。
- 外したキャップにはインクが付着しています。周囲を汚さないよう、ペーパータオルなどの上に仮置きしてください。
- 空気抜きはヘッドごとに行います。ヘッド1の空気抜きを行う際は、ヘッド2、ヘッド3、ヘッド4のキャップを外さないでください。



- キャップを外しても、内部の機構によりインクがあふれ出すことはありません。

6 本体付属の空気抜き治具（SP-01046）をポートに接続する。

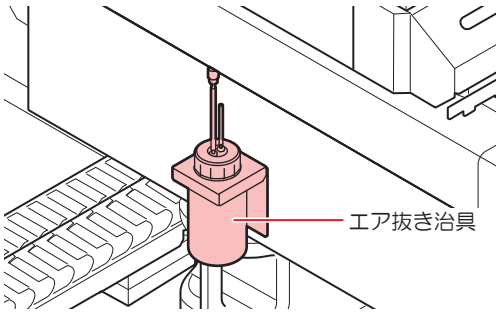
- 治具の接続はキャップ同様、先端をポートに押し込み、時計方向へ30° 回転させてください。



治具を空気抜きポートに差し込み、固定する

- 空気抜きは、同一ヘッドの2ポート同時に行えます。

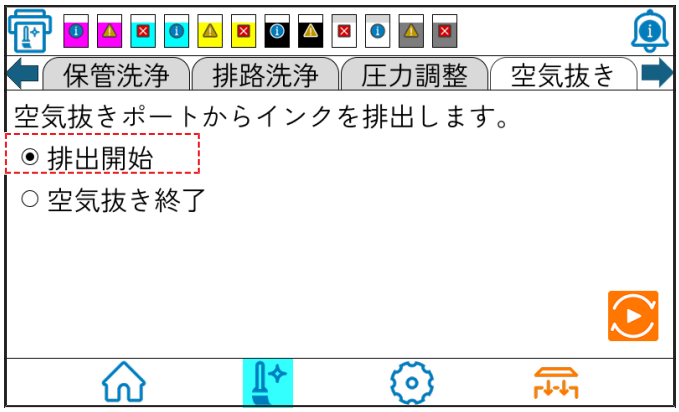
重要！
- エア抜き治具のボトルにはマグネットが付いています。空気抜きをおこなうときは、下図のカバーのなるべく下の位置に治具を取り付けてください。



- 治具は、必ず同一ヘッド内の任意２ポートに接続してください。１ポートのみに治具を接続して空気抜きをおこなうと、接続していないポートからインクが流出する恐れがあります。
- 治具の瓶内のインクは、空気抜き3回程度ごと小まめに廃液してください。瓶の中にインクが溜まりすぎると、インクの重さでカバーに取り付けた治具が落下する恐れがあります。

7 をタップする。

8 [排出開始]を選び、 をタップする。



9 混色したインクや混入した空気を排出させる。

- をタップする。と、本機は大気解放状態となり、インク等が勢いよく排出されます。
- 混色したインクや混入した空気が完全に無くなるまで排出させてください。完全に排出されると、混色していないインクが排出されます。
- インク排出中は、ブザー音が一定間隔で鳴り続けます。（1回あたりの所要時間45秒程度）

- インクがポートから流れ出てこない場合は、一時的に治具を床に置いた状態で空気抜きをおこない、インクが流れ始めたらカバーに取り付け直してください。

- 空気抜き後も治具を床に置いたまま放置すると、インクの自重によってヘッド内のインクが治具へ流れ出て、ヘッド内に空気が入り込む可能性があるため注意してください。

10 空気抜きを行う全てのポートに対して、手順9の作業を行う。

- キャリッジが素早く移動する場合が有ります。手、頭や体等をキャリッジに近づけないよう注意してください。

11 以下の画面が表示されたら をタップする。



12 治具を取り外し、キャップを取り付ける。

- 治具を取り外したら、素早くキャップを取り付けてください。

13 キャップを取り付けたら、 をタップする。

- 負圧制御が再開し、ワイピングを始めます。



14 以下の画面が表示されたら をタップする。



15 キャリッジカバーDCを閉じる。

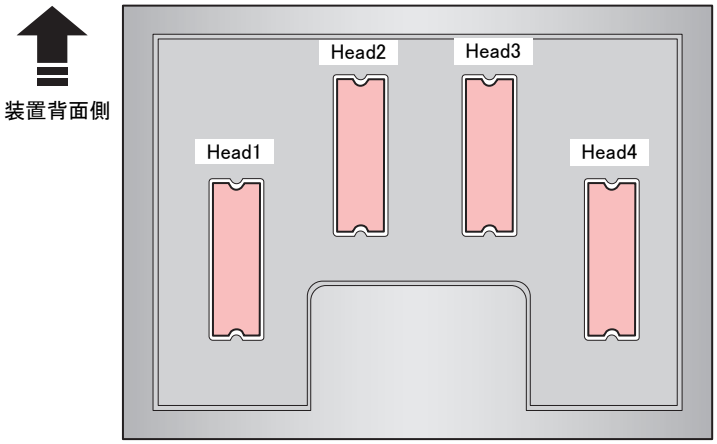
重要!
- 取り外したカバーは作業終了後、速やかに取り付けてください。長時間放置すると、紫外線によるインクへの影響が出る可能性があります。
- 使用後の治具はチューブと瓶内のインクを排出し、遮光して保管してください。

ノズルリカバリー機能

特定ノズルのノズル抜けが直らない場合、そのノズルは使用せず他の正常なノズルをかわりに使用（ノズルリカバリ）してプリントすることができます。

本機のヘッドは下図のように構成されています。

ノズルリカバリー機能では、ヘッド1～4それぞれのノズル列を指定して、リカバリの設定をすることができます。

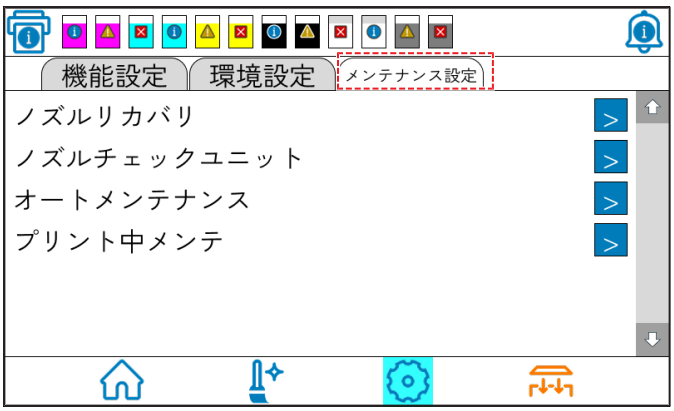


- 本機は、1つのヘッドに対して4つのノズル列（A列・B列・C列・D列）で構成されています。

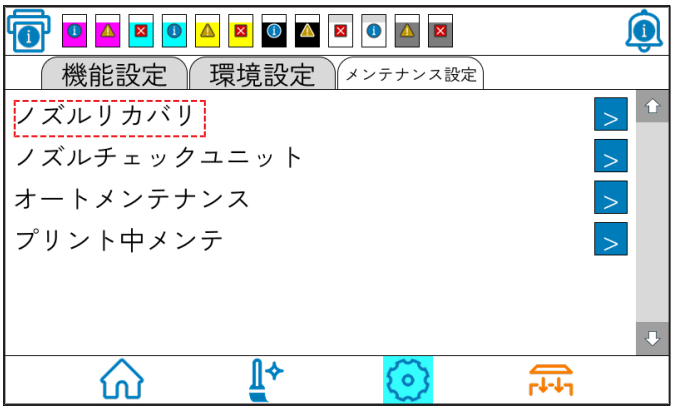


パターンを印刷して確認する

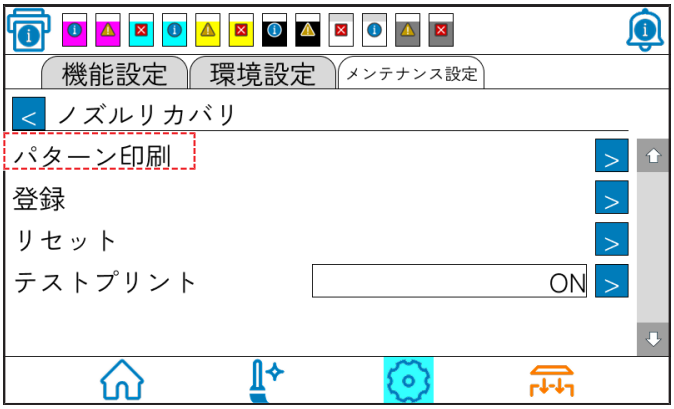
1 設定画面の[メンテナンス設定]をタップする。



2 [ノズル リカバリ] をタップする。



3 ［パターン印刷］をタップする。



4 プリントするヘッドを選ぶ。

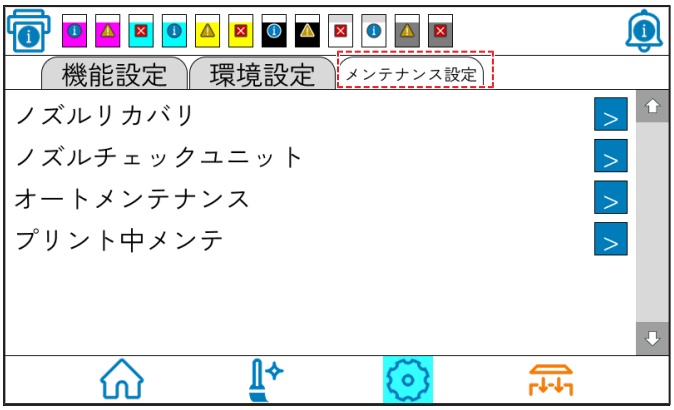
- ノズルパターンがプリントされます。



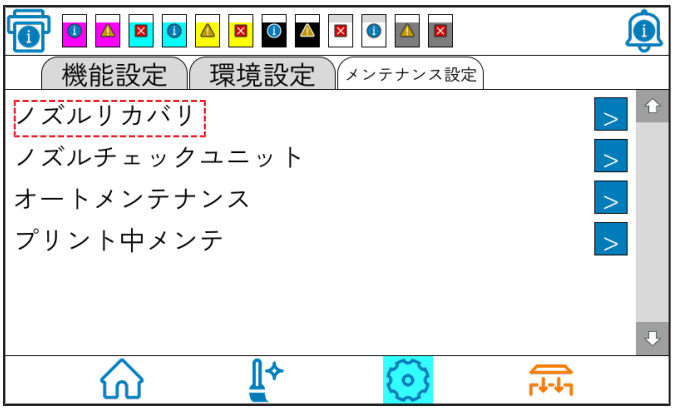
- 白インクを使用している場合、透明フィルムに印刷して確認してください。

ノズルリカバリを登録する

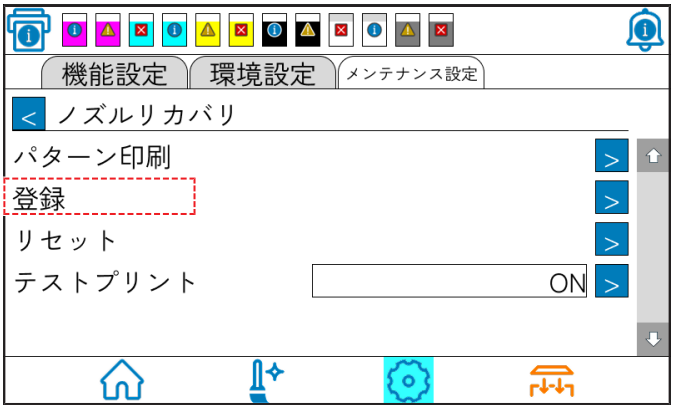
1 設定画面の[メンテナンス設定]をタップする。



2 [ノズル リカバリ] をタップする。



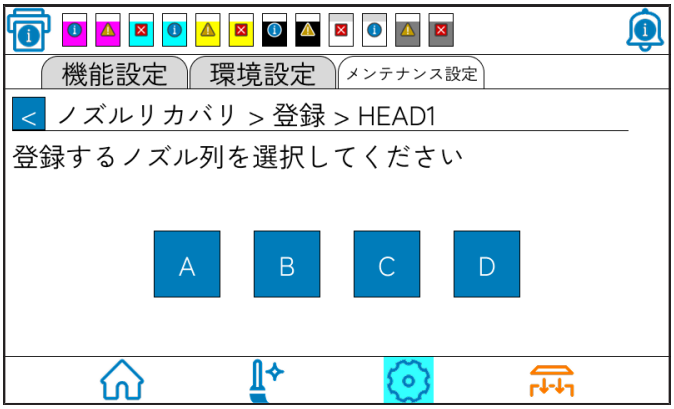
3 ［登録］をタップする。



4 登録するヘッドを選ぶ。



5 ノズルリカバリをするノズル列を選ぶ。

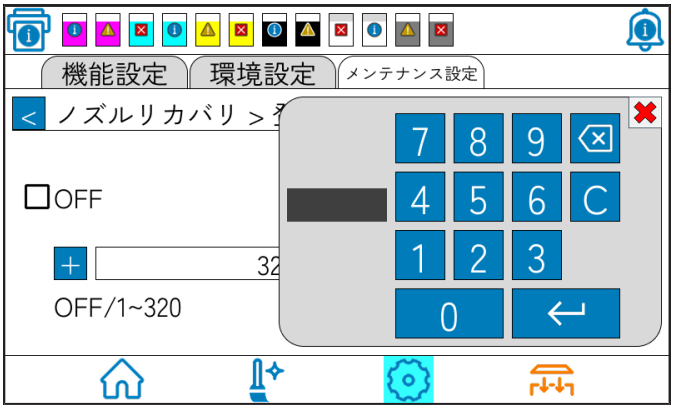


6 リカバリが必要なノズル番号を登録する。

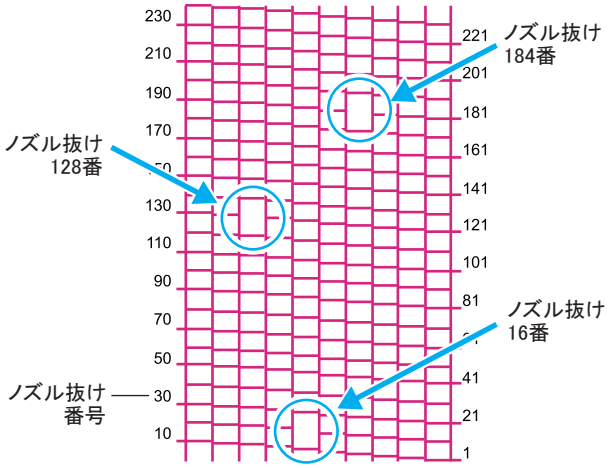
(1) 登録番号（№1～10）を選ぶ。



(2) ＋ － をタップ、または数値を入力してリカバリするノズル番号を登録します。



- リカバリノズル登録例



登録番号	リカバリノズル番号	状態
1	16	ノズルリカバリする
2	128	ノズルリカバリする
3	184	ノズルリカバリする
4	OFF	登録無し
5	OFF	登録無し

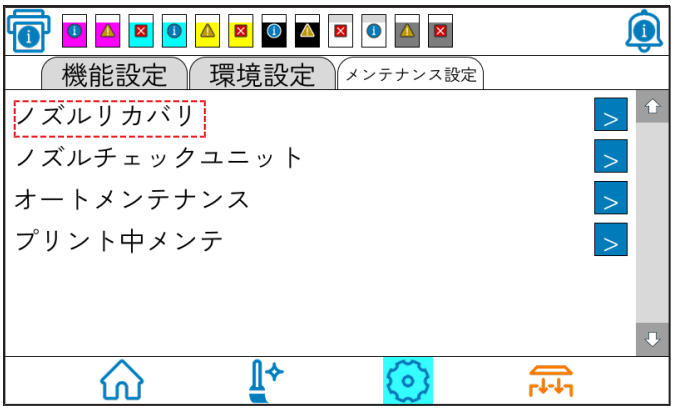
重要！
- 1ノズル列あたり10個までノズルを登録できます。
- 本機能を使用しても、プリント時間は変わりません。
- 印刷条件の最低パス数では、ノズルリカバリ機能は無効です。
- ノズルリカバリを登録しても、テストプリントなどのパターンはリカバリされません。

設定値をリセットする

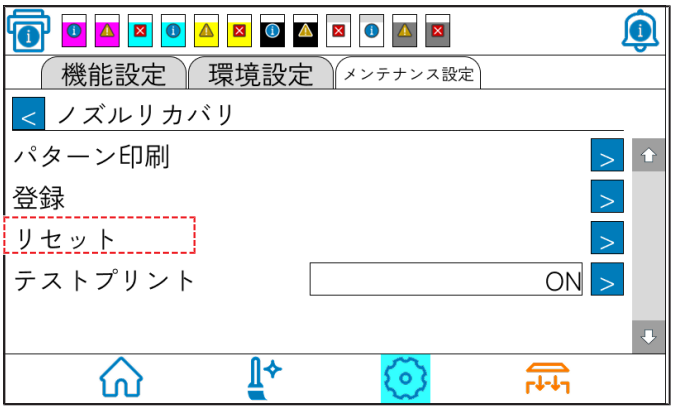
1 設定画面の[メンテナンス設定]をタップする。



2 [ノズル リカバリ] をタップする。



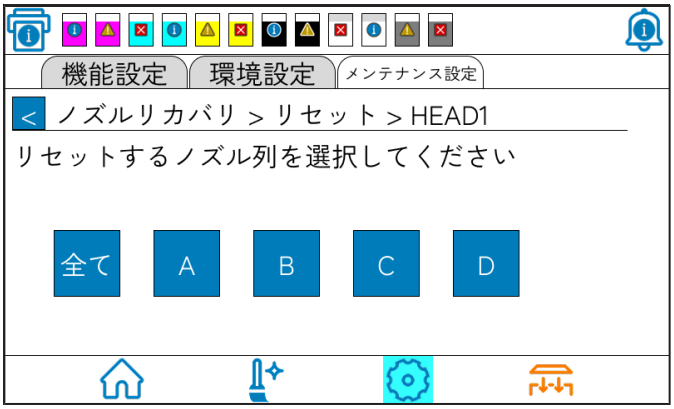
3 ［リセット］を選ぶ。



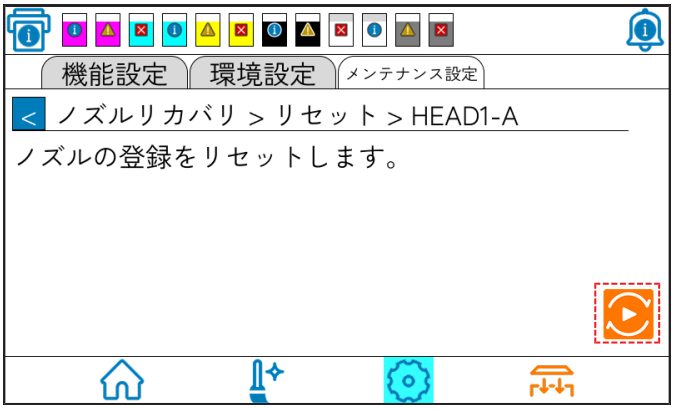
4 設定値をリセットするヘッドを選ぶ。



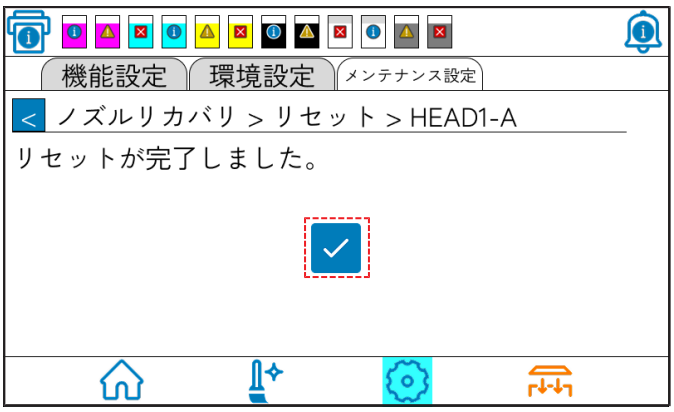
5 リセットするノズル列を選ぶ。



6 以下の画面が表示されたら  をタップする。



7 以下の画面が表示されたらをタップして終了する。



4.6 オートメンテナンス機能

本機を快適にお使いになるため、自動的に各種メンテナンスを行うように設定できます。

ここでは、各種自動メンテナンスの実行間隔を設定します。

定期的に自動メンテナンスを行うことにより、インク詰まりなどのトラブルを防止することができます。（オートメンテナンス機能）

オートメンテナンス機能には、以下の項目があります。

重要！
- 手動で各種メンテナンスを行った場合、手動メンテナンス終了後、オートメンテナンス機能で設定した時間が経過したら自動的に各種メンテナンスを開始します。

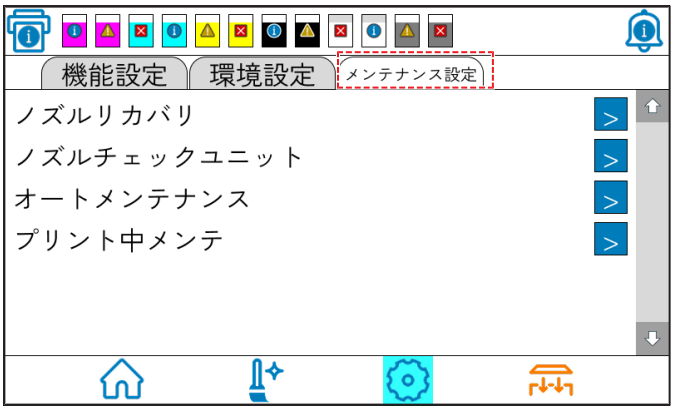
機能名	説明
リフレッシュ	リフレッシュを実行するまでの間隔を設定します。
クリーニング	クリーニングタイプと、実行するまでの間隔を設定します。

重要！
- “廃インクタンク確認”のメッセージが表示されている場合、オートメンテナンス機能で設定した動作は実行されません。必要に応じて☞「廃インクの廃棄」（P. 153）の操作をしてください。
- 本機前面の電源ボタンをオフにする場合は、廃インクタンクの確認をしてください。

リフレッシュ間隔を設定する

ノズル詰まり防止のため、ノズルから若干のインクを吐出する間隔を設定します。

1 **設定画面の[メンテナンス設定]をタップする。**



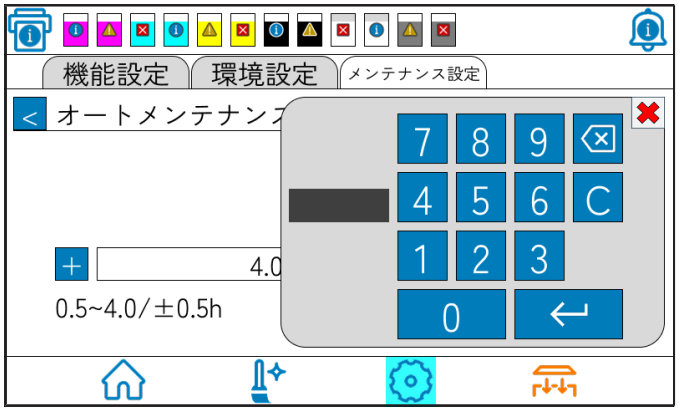
2 **[オート メンテナンス]をタップする。**

3 [リフレッシュ]をタップする。



4 [+] [-] をタップ、または数値を入力してリフレッシュ間隔を設定する。

- 設定値:0.5h～4.0h
- 推奨値:1.0h

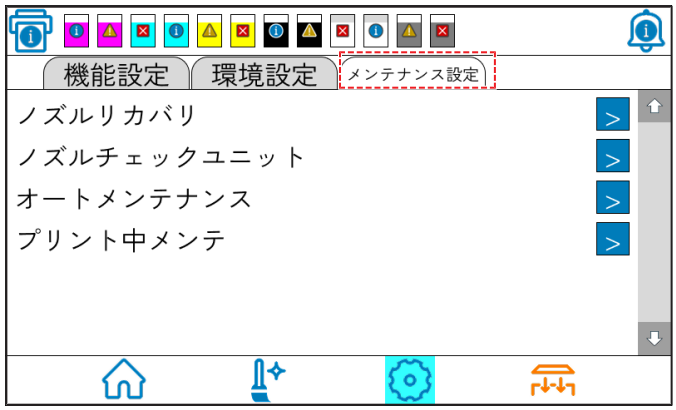


5 [✓] をタップする。

クリーニング間隔を設定する

クリーニングタイプと、クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。

1 設定画面の[メンテナンス設定]をタップする。



2 [オート メンテナンス]をタップする。

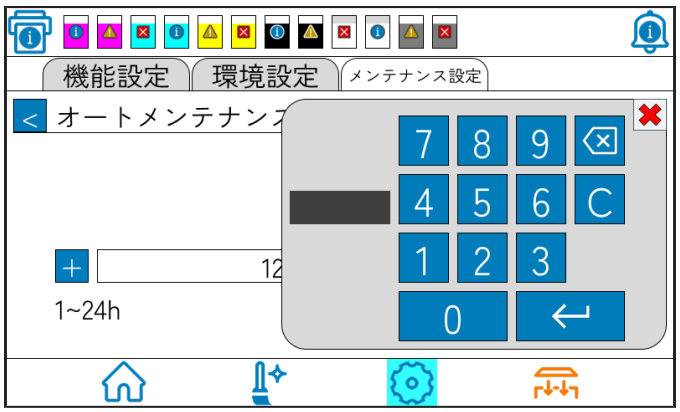
3 [クリーニング間隔]をタップする。

- 以下の画面が表示されます。



4 [+] [-] をタップ、または数値を入力してクリーニングを行う間隔を設定する。

- 設定値：1h～24h
- 推奨値：12h



5 クリーニングタイプを選ぶ。

- 設定値：ノーマル、ソフト、ハード
- 推奨値：ソフト



6 [✓] をタップする。

4.7 消耗品の交換

消耗品は、販売店、またはお近くの弊社営業所にてお買い求めください。
消耗品は、弊社ホームページにてご覧になれます。
https://japan.mimaki.com/supply/inkjet.html

ワイパーを交換する

ワイパーは消耗品です。“ワイパー交換”のメッセージが表示されたら、速やかにワイパーを交換してください。

また、スライダー下面に付着したインクの清掃をしてください。

重要! ・ クリーニングワイパーは別売品です。お近くの販売店、または弊社営業所でお求めください。

1 メッセージが表示されたら、メンテナンス画面の[パーツ交換]をタップする。



2 [ワイパー交換]をタップする。



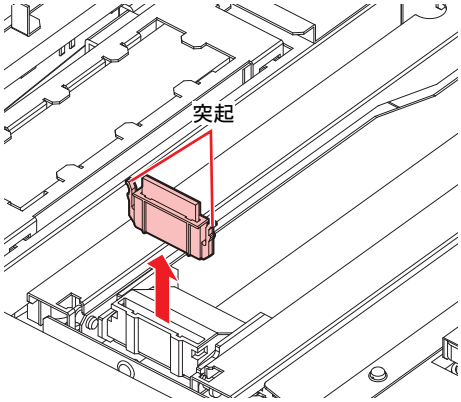
3 以下の画面が表示されたらをタップする。

- キャリッジがテーブル上に移動します。



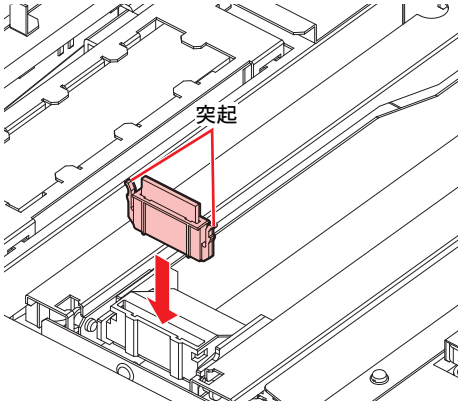
4 ワイパーを取り出す。

- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



5 新しいワイパーを差し込む

- ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



6 ワイパーを交換したらをタップする。

キャリッジフィルターの交換

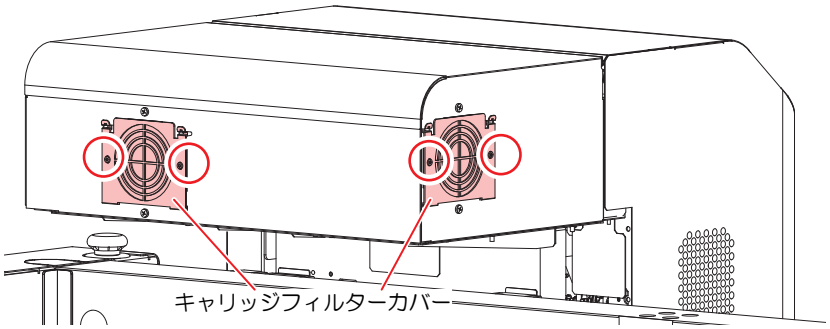
1～2週間に一度交換してください。

- 主電源を切ってからメンテナンスをしてください。

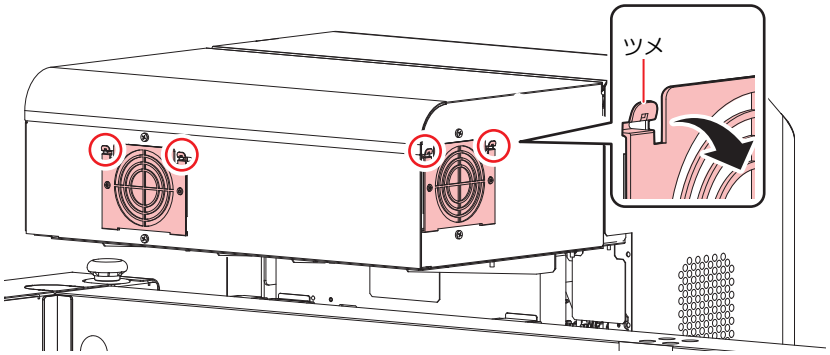
1 キャリッジフィルターカバーを取り外す。

- キャリッジの左面と背面にある、キャリッジフィルターカバーを取り外します。

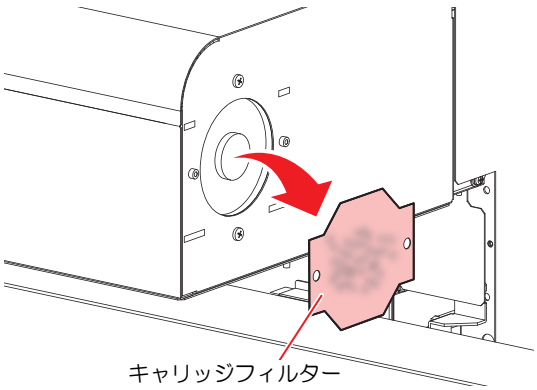
(1) ネジ（各2）を外す。



(2) キャリッジフィルターカバーの上部についているツメをつまんで、手前に引いてください。

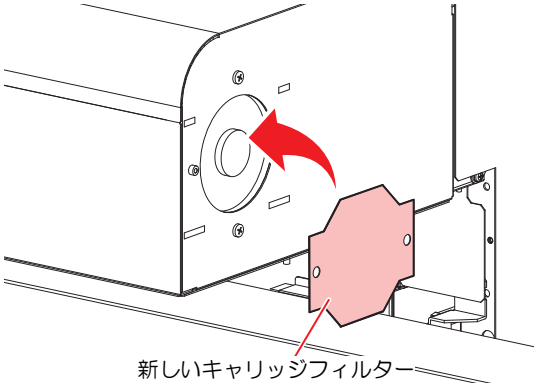


2 使用済みのキャリッジフィルターを取り外す。



3 新しいキャリッジフィルター（品番：SPA-0189）を取り付ける。

- キャリッジフィルター左右の穴をキャリッジの凸部に入れ込んでください。



重要！
- キャリッジフィルターはキャリッジの左面と背面にあります。
  交換するときは、全てのフィルターを同時に交換してください。

4 キャリッジフィルターカバーを元の状態に戻す。

廃インクの廃棄

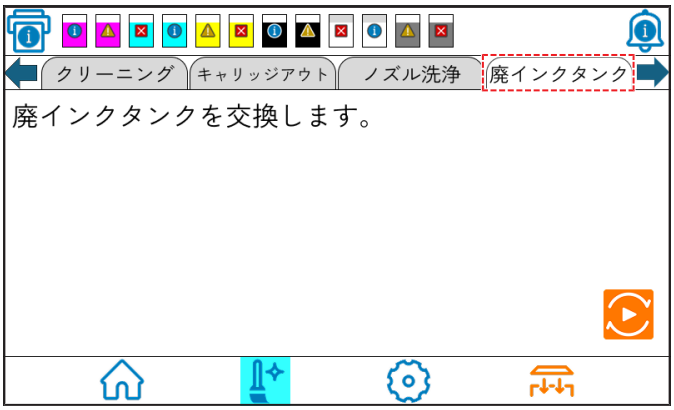
ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、本機の右下にある廃インクタンクにたまります。本機では、インクの排出量をセンサー検知し、一定の量になるとワーニングが表示されます。廃インクタンク交換の目安としてお使いください。

- 2.6Lタンクの70%（約1.9L）でメッセージを表示します。

- 廃インクタンクを廃棄するときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
  インクが目に入る場合があります。

重要！
- 本機の動作中（プリント中またはクリーニング中）は、廃インクタンクの交換はしないでください。
- 作業中に廃インクがこぼれた場合は、ウエス等で拭き取ってください。

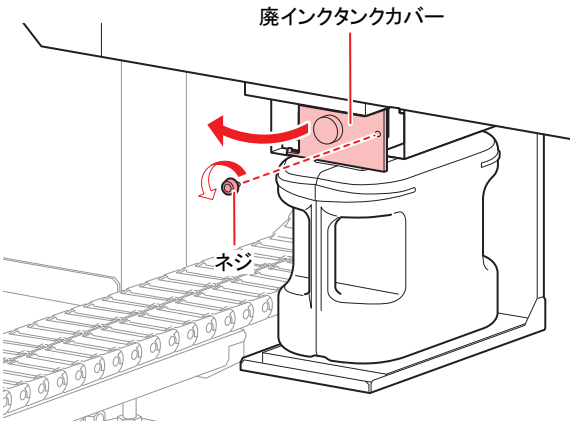
1 メンテナンス画面の[廃インクタンク]をタップする。



2 をタップする。

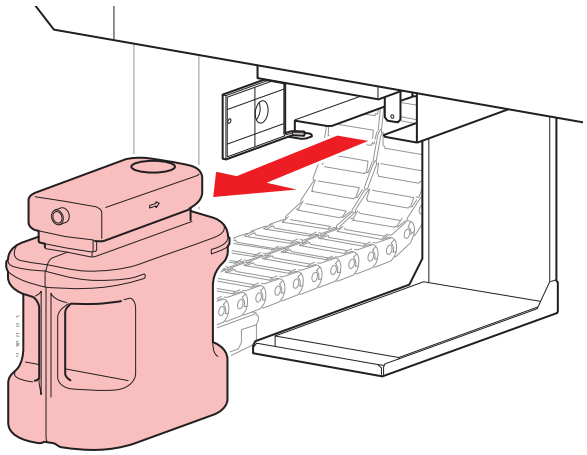
3 廃インクタンクカバーを開く。

- 廃インクタンクカバーについているネジを取り外し、カバーを手前に開けます。



4 廃インクタンクを取り出す。

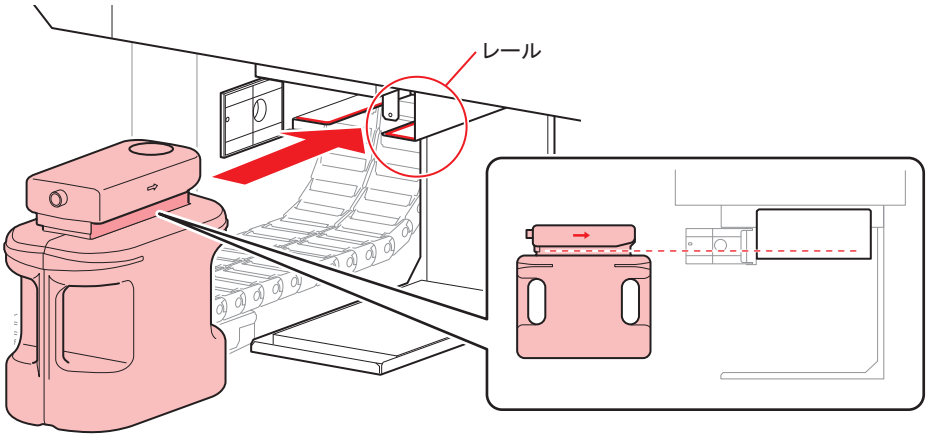
(1) 廃インクタンクの取っ手を持ち、手前に引き出す。
(2) 取り出した廃インクタンクにキャップをはめる。



5 廃インクタンクを交換したら をタップする。

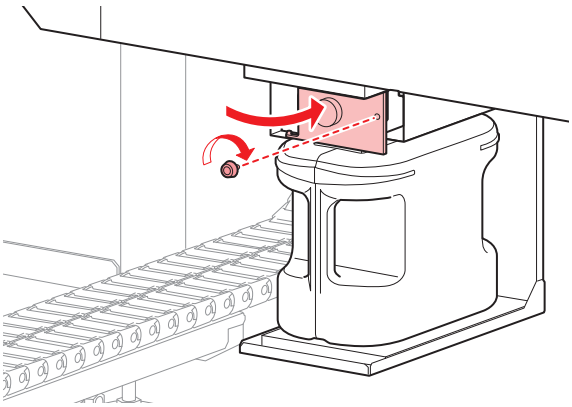
6 廃インクタンクを交換する。

(1) 新しい廃インクタンクを用意する。
(2) 廃インクタンクを持ち上げて排水口の真下にセットされているか確認する。



- 廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系（川等）、生活排水（トイレ、道路等）への漏洩流出を防いでください。

7 廃インクタンクカバーを閉じる。



8 をタップする。

インクボトルキャップの交換

１年を目安に交換してください。交換方法は☞「インクボトルを交換する」（P. 41）を参照してください。



- インクやメンテナンス液、廃インク、そのほか本機で使用されている液体を取り扱うときは、換気に十分注意して、必ず保護メガネ、手袋、マスクなどを着用してください。インクなどの液体が跳ねて、皮膚に付着したり、目や口の中に入ったりするおそれがあります。

ミストフィルターの交換



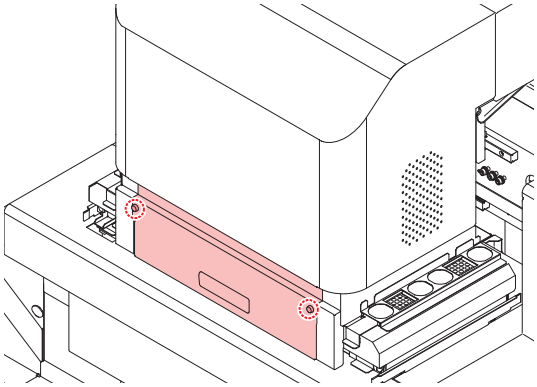
- 本作業を行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
  インクが目に入る場合があります。

ミストフィルターの状態を確認して、汚れが激しいときは交換してください。

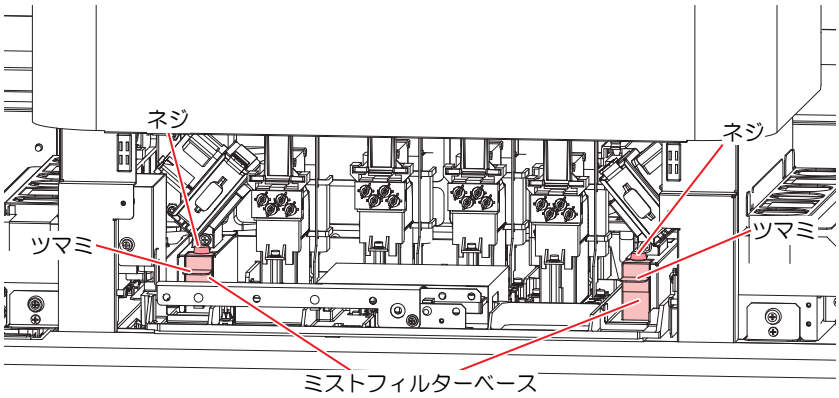
1 キャリッジカバーDCを取り外す。

- ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。

重要！
- 取り外したカバーは作業終了後、速やかに取り付けてください。長時間放置すると、紫外線によるインクへの影響が出る可能性があります。

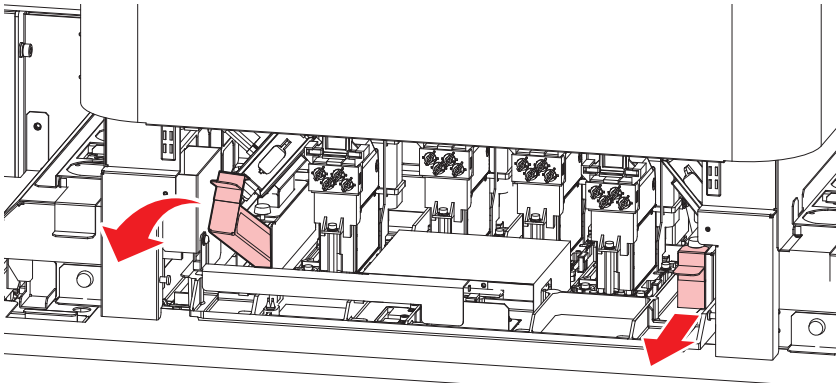


2 固定ネジを緩めミストフィルターベースを引き抜く。





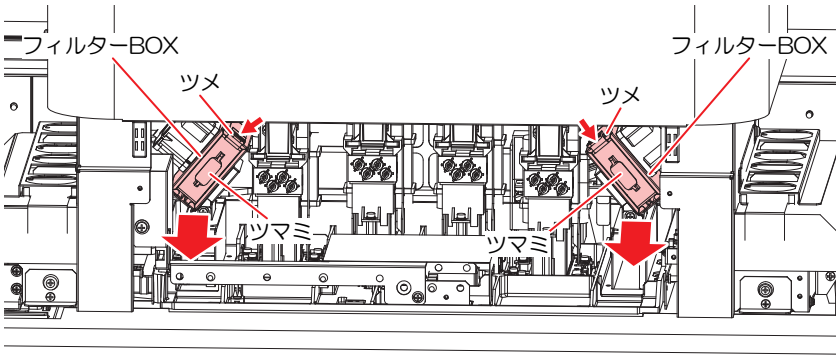
- 左側は上にあげながら引き抜きます。



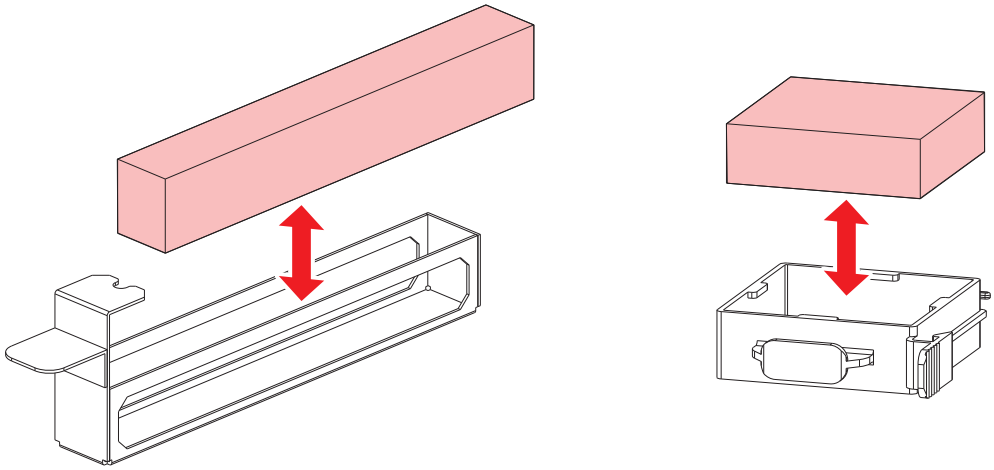
3 フィルターBOXを引き抜く。

- 爪を押しながら矢印の方向にスライドさせて外します。

- 爪のある方向に持ち上げながら、爪を外すと簡単に外れます。



4 交換が必要なフィルター（品番：SPC-819）を新しいものに交換する。



5 ミストフィルターベースを差し込む。

6 手順2で外した固定ネジを締める。

7 フィルターBOXを差し込む。

- カチッと音がするまで挿し込んで、ツメが固定されたことを確認してください。

- 左右で向きが異なりますので、注意して取り付けてください。

8 キャリッジカバーDCを閉じる。

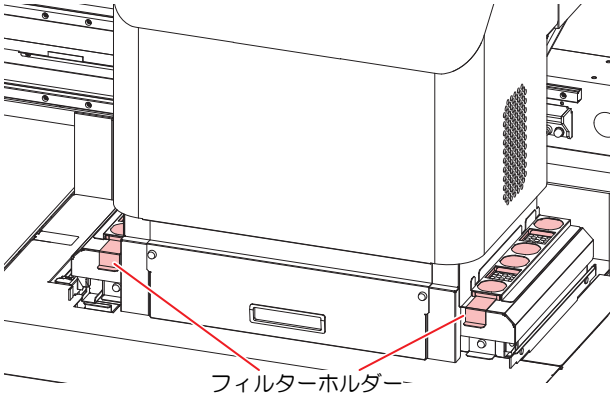
UV LEDフィルターの交換



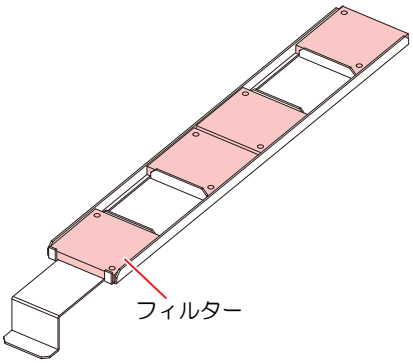

- 本作業を行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
  インクが目に入る場合があります。

UV LEDフィルタの状態を確認して、汚れが激しいときは交換してください。

1 フィルターホルダーを引き抜く。



2 左右それぞれ4枚新しいフィルター（品番：SPC-01044）に交換する。



3 フィルターホルダーを元に戻す。



- 奥まで挿し込み、マグネットにより固定されていることを確認してください。

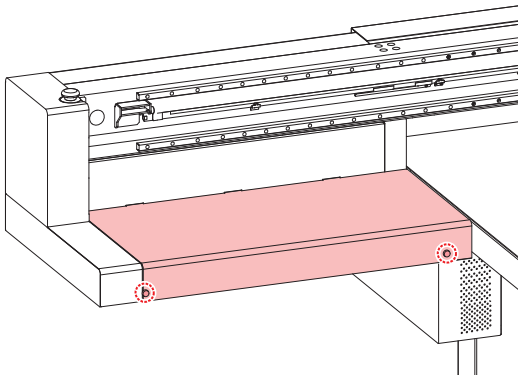
UV LEDガラスの交換

UV LEDガラスの状態を確認して、汚れが激しいとき、割れやひびがある場合は交換してください。

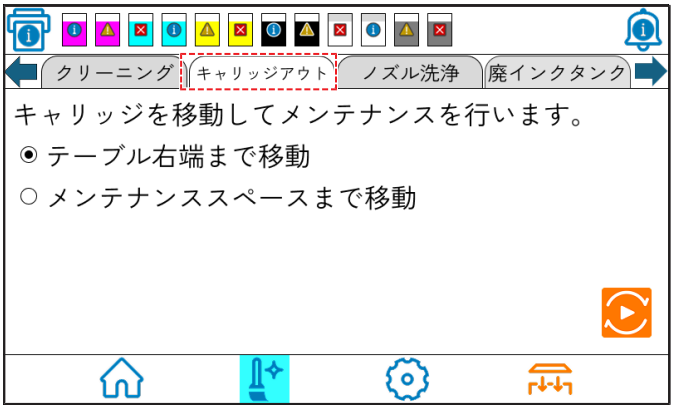
- 本部材にはガラスが使用されています。取り扱いの際は、破損や衝撃を与えないよう十分注意してください。
- UV-LED装置は非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、UV-LED装置消灯後、十分温度が下がってから行ってください。やけどのおそれがあります。
- 本作業を行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
  インクが目に入る場合があります。

1 **Yバー左側のカバーを外す。**

- 化粧ネジ（2箇所）を外して、カバーを取り外します。



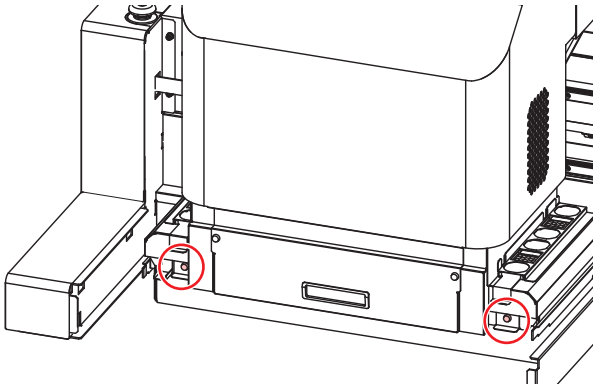
2 **メンテナンス画面の[キャリッジアウト]をタップする。**



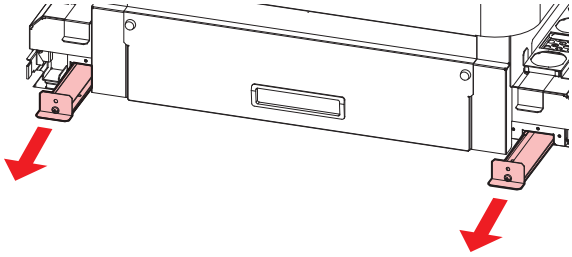
3 **[メンテナンススペースまで移動]を選択する。**

- キャリッジが、本機の左端まで移動します。

4 ネジを外す。



5 UV LEDガラスを引き抜く。



6 新しいUV LEDガラスを挿し込む。

- UVLEDガラス左　品番：SP-01042
- UVLEDガラス右　品番：SP-01043

- ガラス面には触らないでください。
- 左右で向きが異なりますので、注意して取り付けてください。
- ガラスにひび割れや破損がある場合は、ガラス片の落下やけがを防ぐため、十分注意して取り扱ってください。

7 ネジを締める。

4.8 フラッシングフィルターについて

交換に必要な道具	• F-200/LF-200 メンテナンス用洗浄液（品番：SPC-0568）	• 保護メガネ
	• ウエス	• 手袋



• 交換を行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用してください。
フラッシングフィルターにはインクが吸収されているため、インクが目に入る場合があります。

フラッシングフィルターを交換する

フラッシングフィルターは定期的に交換する必要があります。

次のような交換メッセージが表示されたら、RF吸収剤(フラッシングフィルター)品番：SPC-0768を交換してください。

1 フラッシングフィルターの交換時期になると“フラッシングフィルターの交換”のメッセージが表示される。

2 メッセージが表示されたら、メンテナンス画面の[パーツ交換]をタップする。

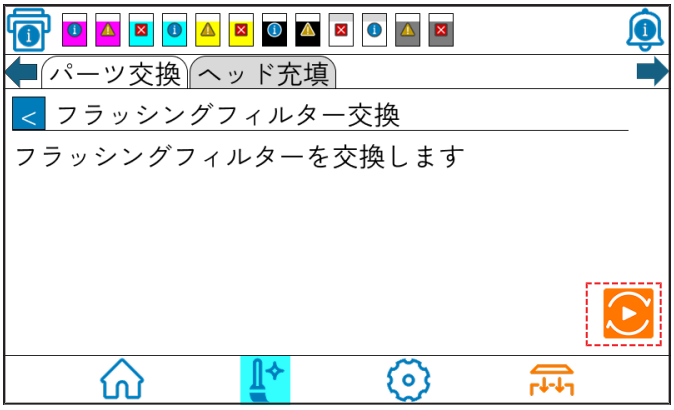


3 [フラッシングフィルター交換]をタップする。

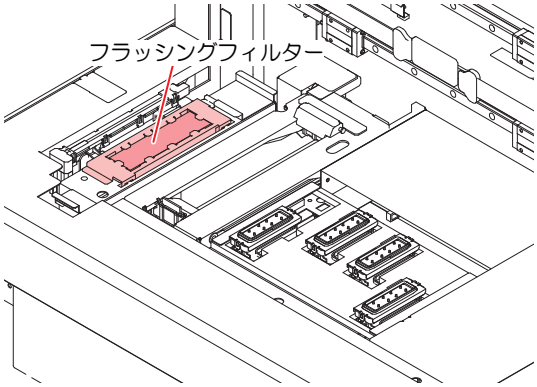


4 以下の画面が表示されたらをタップする。

- キャリッジが移動します。



5 フラッシングフィルターを交換します。



6 交換が完了したらをタップする。

- キャリッジがステーションに戻ります。

第 5 章　困ったときは



この章では...

故障かなと思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明をしています。

故障かなと思ったら 166
　電源が入らない..... 166
　プリントできない 166
　画質不良が発生したら 166
　ノズル詰まりを解消したいとき..... 167
　インクボトルに異常が発生したら 167
　インク漏れが発生したら..... 168
　「ホワイトインクボトル ヲ フッテクダサイ」が表示されたら.....168
　圧力異常が発生したら 169
メッセージを表示するトラブル 172
　ワーニングメッセージ 172
　エラーメッセージ 172

5.1 故障かなと思ったら

故障かなと思う前にもう一度確認してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピューターのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。

プリントできない

プリントができない場合は、データが適正に本機に送られていない可能性があります。

また、プリント機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。

確認点	実施項目
ご使用のインターフェイスケーブルは合っていますか？	本機専用のケーブルをご使用ください。
インターフェイスケーブルを確実にセットしていますか？	インターフェイスケーブルを確実にセットしてください。
ディスプレイにインク切れのメッセージが表示されていますか？	新しいインクボトルに交換してください。

画質不良が発生したら

ここでは、プリント品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

現象	対処方法
白スジ/カスレ/色の濃いスジが発生する（ヘッド移動方向）	1. ヘッドクリーニングを行ってください。 ☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78） 2. ステーション内部のメンテナンスをしてください。 ☞「キャッピングステーションのメンテナンス」（P. 113） 3. ヘッドが通過する部分に紙片などのゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。 4. 空気抜きを行ってください。 ☞「空気抜きを行う」（P. 135）
往復印字でズレが発生する	1. ドット位置を補正してください。 ☞「ドット位置を補正する」（P. 79）
プリント中にインク滴が落ちる	1. ワイパーを清掃してください。 ☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113） 2. インクキャップのクリーニングをしてください。 ☞「ワイパーとキャップの清掃」（P. 113） 3. ヘッドの周辺を清掃してください。 ☞「ヘッド周辺のメンテナンス」（P. 122） 4. ヘッドクリーニングの[ノーマル] を実行してください。 ☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78） 5. プリント中メンテのオートクリーニングを設定してください。 ☞「メンテナンス設定メニュー」（P. 90） 6. 圧力調整を行ってください。 ☞「圧力異常が発生したら」（P. 169）

ノズル詰まりを解消したいとき

本機を長時間使用しなかった場合や環境温度によって、ノズルの吐出が不安定になる場合があります。
ノズルの吐出を回復させるために以下の方法をお試しください。

1 日常のお手入れを行う。

- 「お手入れのお願い」に記載されている各所のお手入れを行ってください。

2 ヘッドクリーニング（ノーマル）を実施する。

- Step1のお手入れを行った後、ヘッドクリーニングを実施します。
☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）
- その後、テストプリントを行いノズルの状態を確認してください。
☞「テストプリントをする」（P. 74）



- ノズル抜けが改善しない場合は、次のステップをお試しください。

3 ヘッドクリーニング（ハード）を実施する。

- ノーマルクリーニングを繰り返してもノズル抜けが改善しない場合は、クリーニングモードをハードに設定して、再度ヘッドクリーニングを実施します。
☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）
- その後、テストプリントを行いノズルの状態を確認してください。
☞「テストプリントをする」（P. 74）

4 ヘッドクリーニングしてもノズル詰まりが解消しない場合は、ノズル詰まりが復旧しない場合の操作をしてください。

- ☞「ノズル詰まりが復旧しない場合」（P. 128）

重要！
- 以上の操作をしてもノズル抜けが回復しない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください

インクボトルに異常が発生したら

インクボトルに異常が発生したら、ワーニングメッセージが表示されます。
プリント、クリーニングなど、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。
異常が発生したときは、次のようにしてください。

- インクカバーにセットしているインクIC チップが正しくセットされているか確認してください。
- 速やかに新しいインクボトルに交換してください。

重要！
- インクボトル異常が表示されたまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの防止機能が動作しなくなります。
ノズルが詰まった場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

インクボトル異常の内容を確認したいときは、次の操作をしてください。

1 ローカルモードで、[ENTER]キーを押す。

2 [ENTER]キーを押す。

- インクボトル異常の内容が表示されます。
- 複数のインクボトル異常が発生している場合は、[ENTER]キーまたは◀ ▶を押すと、順番に表示されます。

インク漏れが発生したら

インク漏れが発生した場合は、主電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてから、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

「ホワイトインクボトル ヲ フッテクダサイ」が表示されたら

ホワイトインクは沈降しやすい性質を持っているため、定期的にインクボトルを振る必要があります。

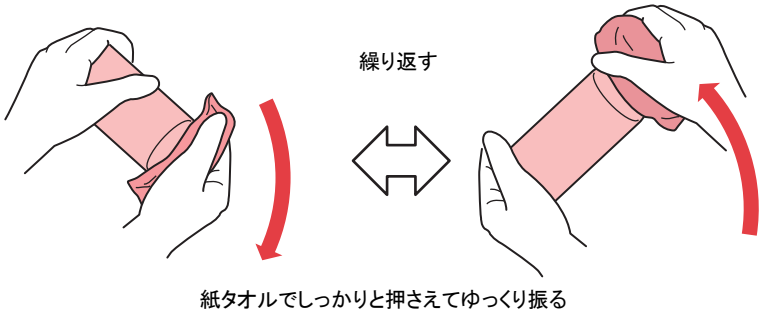
ホワイトインクをご使用の場合、定期的にホワイトインクボトルを振るようメッセージが表示されますので、次の手順に従ってホワイトインクボトルを振ってください。

- 操作パネルを奥に押し込んだ状態で本作業を行ってください。作業時は、操作パネルおよびテーブルに頭部を接触させないよう注意してください。

1 ホワイトインクボトルを取り出し、20回以上ゆっくりと左右に振る。

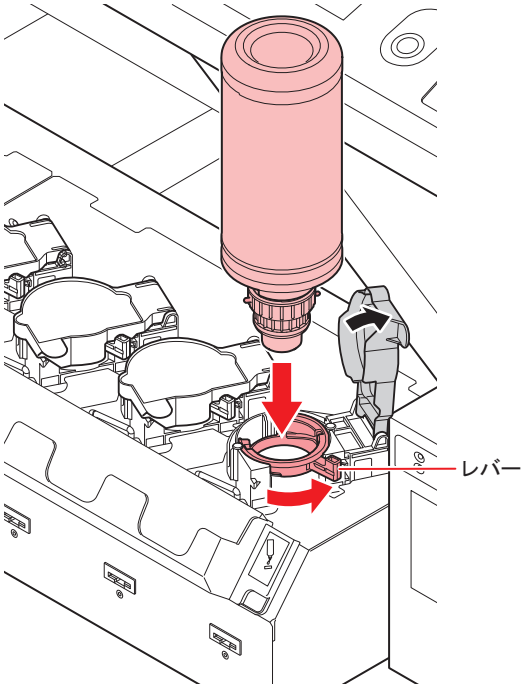
- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでインクボトルのフタをしめた状態で、ゆっくりとインクを流すように左右に20回以上振ってください。

- フタがしっかりと閉まっていることを確認してから振ってください。
- 強く振りすぎるとインク漏れの原因となる場合があります。慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があります。インクボトルが縦になるまで傾けてください。



2 タンクにインクボトルをセットし、タンク部のレバーを右から左へ回す。

- タンク部のレバーを右端まで確実に回してから、インクボトルをセットしてください。



重要! • インクボトルをタンクにセットしたら、絶対にインクボトルを回さないでください。インク漏れの原因になります。

3 [ENTER]を押す。

圧力異常が発生したら

使用環境や経年変化により、本機で管理している圧力が制御範囲を超えてしまう場合があります。

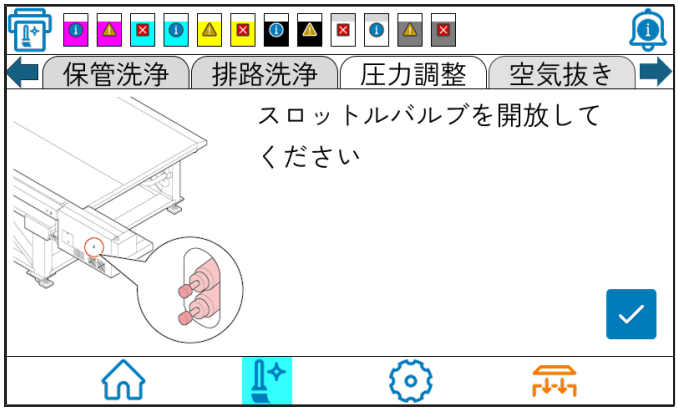
圧力異常に関するエラーが発生した場合は、速やかに以下の操作を実行して圧力を調整し、正常な値に戻してください。

1 メンテナンスメニューの[圧力調整]をタップする。



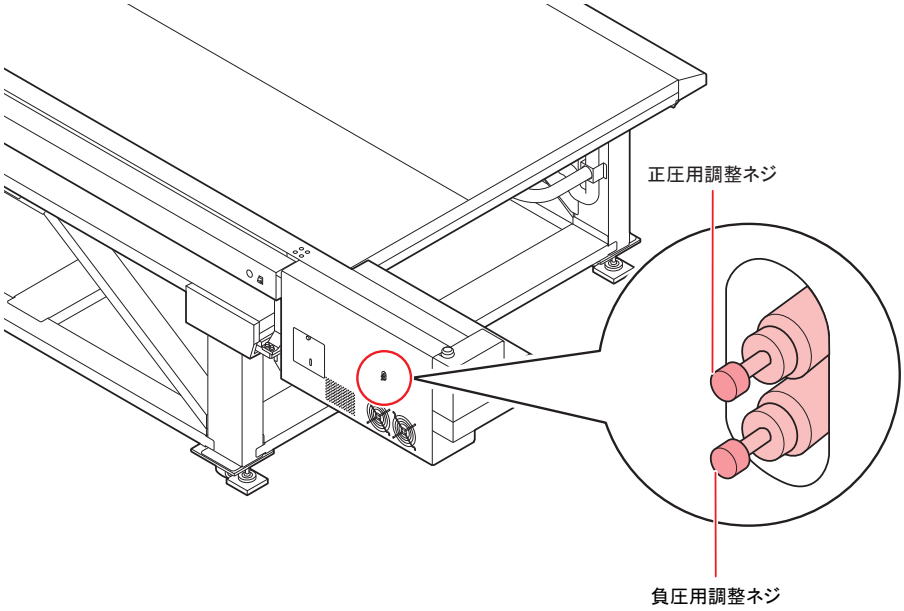
2 "正圧"または"負圧"を選び、をタップする。

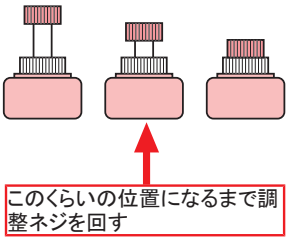
- 以下の画面が表示されます。



3 スロットルバルブの調整ネジを回し、空気が流れるように開放する。

- スロットルバルブの調整ネジが中間地点に来るまで回してください。





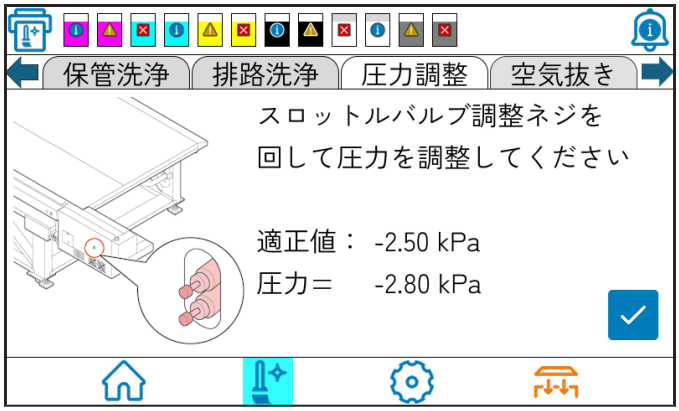
4 をタップする。

- センサーの調整が始まります。



5 スロットルバルブ調整ネジを回して、圧力が適正値になるように調整する。

- 負圧の適正値: -2.50kPa
- 正圧の適正値: 15.00kPa
- スロットルバルブの調整は、「負圧」→「正圧」→「負圧」の順番で行ってください。
- 負圧では±0.1 ～ 0.2kPa の範囲で変動するため、中間値が目標の圧力になるように調整してください。



6  をタップする。

- エラーが解除され、負圧制御が始まります。



重要! • 圧力調整を実施してもエラーが発生する場合、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

5.2 メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。
メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

インクエラー

インクエラーは、ローカルガイダンスでも表示されます。

表示	原因	対処方法
インク IC ナシ : ---- YYKK	インクボトルのインクICチップが正常に読み込めない。	• ワーニングが発生しているインクボトルを再挿入してください。 再度表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
インク IC イジョウ : ---- YYKK		
インク シュルイ : ---- YYKK	インクボトルのインク種類が充填してあるインクと異なる。	• ワーニングが発生しているインクボトルのインク種類を確認してください。
インク カラー : ---- YYKK	インクボトルのインクカラーが充填してあるインクと異なる。	• ワーニングが発生しているインクボトルのインクカラーを確認してください。
インクボトル イジョウ : ---- YYKK	インクボトルのインクICチップ情報に異常が生じた。	• ワーニングが発生しているインクボトルを交換してください。
インクボトル ナシ : ---- YYKK	インクボトルが外部インク供給ユニットにセットされていない。	• ワーニングが発生しているボトルホルダーにインクボトルをセットしてください。
インク キゲンギレ : ---- YYKK	インクが期限切れになった。	• 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。 ☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
インク キゲンギレ（1カゲツ） : ---- YYKK	インクが期限切れから、1か月経過した。	• 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。 ☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
インク キゲンギレ（2カゲツ） : ---- YYKK	インクが期限切れから、2か月経過した。	• 新しいインクに交換してください。まもなくプリント不可になります。 ☞「インクボトルを交換する」（P. 41）

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。

表示	原因	対処方法
ERROR 04 PARAM ROM	メイン基板に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 108 HD THERMIS [12]	プリントヘッド温度制御に異常を検出した。	
ERROR 108 HD CONNECT [12]	プリントヘッドの接続に異常を検出した。	
ERROR 108 HD MEM EMP [12]	プリントヘッドに異常を検出した。	
ERROR 10e FROM CLEAR		
ERROR 10f FROM WRITE		
ERROR 115 PCB MAIN-F1		
ERROR 122 CHECK : SDRAM	SDRAMに異常を検出した。	
ERROR 122 PRAM NONE		
ERROR 123 PRAM DATA	メイン基板に異常を検出した。	
ERROR 124 PRAM ADDR		
ERROR 128 HDC FIFO OVER	プリントヘッド制御基板に異常を検出した。	
ERROR 128 HDC FIFO UNDER		
ERROR 129 バッテリ交換	内部時計の電池切れを検出した。	• 販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 12d PCB MAIN-F4	メイン基板に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 147 DS-IC BUSY	インクIC制御に異常を検出した。	
ERROR 148 E-LOG SEQ	ログの制御に異常を検出した。	
ERROR 151 Main PCB V1R2	メイン基板の電源系統に異常を検出した。	
ERROR 152 Main PCB V2R5		
ERROR 153 Main PCB V3R3		
ERROR 154 Main PCB V05		
ERROR 155 Main PCB V36-1		

表示	原因	対処方法
ERROR 15f HEAD DRIVE HOT	G6HDC基板のCOMドライバーが高温になっている。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 171 NEW HEAD CONNECT	新しいプリントヘッドの接続を認識した。	
ERROR 17e PCB IIO1 (PCB INKCTR1)	基板間通信エラーを検出した。	
ERROR 17f PCB IIO2 (PCB INKCTR2)		
ERROR 186 HDC OVERFLOW	プリントヘッド制御に異常を検出した。	
ERROR 186 HDC UNDERFLOW		
ERROR 187 HDC SLEW RATE		
ERROR 188 HDC MEMORY		
ERROR 18c Main PCB V12	メイン基板の電源に異常を検出した。	
ERROR 18e FLS NOT COMP	プリントヘッド制御に異常を検出した。	
ERROR 18f OFFSET START [1 2]		
ERROR 18f OFFSET END [1 2]		
ERROR 19e HDC-F*	G6HDC基板ヒューズ切れを検出した。	• ヒューズの交換が必要です。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 19f LED接続異常	UV-LED基板が認識できない。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 1b5 SLIDER CONNECT	G6HDC基板が検出できない。	
ERROR 1bf PCB MAIN-F2	メイン基板に異常を検出した。	
ERROR 1e6 PRAMサイズ不足	メモリーサイズが不足している。	
ERROR 1e9 PCB INKCTR*-F*	インク供給2基板 ヒューズ切れを検出した。	• ヒューズの交換が必要です。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 201 コマンドエラー	プリント（RIP）データ以外のデータを受信した。もしくは受信したプリント（RIP）データに異常を検出した。	1. データクリアを実行して、再度データを送信してください。 2. Etherケーブルの接続を確認してください。 3. 規格に適合したケーブルを使用してください。

表示	原因	対処方法
ERROR 202 パラメーターエラー	受信したプリント（RIP）データに異常を検出した。	4. 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59）
ERROR 206 プリントモードエラー	プリントできないプリント条件のプリント（RIP）データを受信した。	• RIP用ソフトウェアで、出力条件やプロファイルを変更してください。
ERROR 20A ドライバーバージョン	Mimakiドライバーのバージョンが古いため、プリントすることができない。	• 最新のMimakiドライバーを入手して、インストールしてください。
ERROR 303 PCB MAIN ET	メイン基板に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 401 モーターアラーム X	Xモーターに過大な負荷がかかった。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 402 モーターアラーム Y	Yモーターに過大な負荷がかかった。	
ERROR 403 X オーバーカレント	Xモーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 404 Y オーバーカレント	Yモーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 405 STATION ERR	ステーション動作異常。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 406 ワイパー動作不良	ワイパー原点が、検出できなかった。	
ERROR 48b Y MOTOR COM	Yモーターの通信ができない。	
ERROR 48c Y MTR I2C COM	起動時にYモーターの通信ができない。	
ERROR 496 Y MOTOR DIR	Yモーターの動作方向を指定できない。	
ERROR 4ce Y位置異常検出 (MAX)	座標のズレを検出した。	1. タッチパネルにて「エラー一覧（ベルマーク）」を表示してください。 2. 「エラー一覧画面」にあるアラームクリアをタップしてください。
ERROR 4cf Y位置異常検出 (MIN)		
ERROR 505 メディア ジャム	メディアジャムセンサーが反応した。	• 接触したメディアを取り除き、「エラー一覧画面」にあるアラームクリアをタップしてください。
ERROR 506 STATION SNS	ステーションセンサーが検出できない。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、
ERROR 509 HDC POSCNT	位置制御に異常を検出した。	

表示	原因	対処方法
ERROR 50a Y原点検出	Y原点検出（初期化動作）に異常を検出した。	お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 50f L-SCALE BLACK	リニアスケールに異常を検出した。	
ERROR 512 CAPSHTR ORGIN	キャップシャッターの原点検出に失敗した。	
ERROR 51A フアツ センサー イジョウ	負圧センサーに異常を検出した。	
ERROR 520 セイアツ センサー イジョウ	正圧センサーに異常を検出した。	
ERROR 525 イオナイザー異常	イオナイザーの内部回路が破損したか、異常放電が発生している。	
ERROR 526 イオナイザー イオンレベル	電極針の汚れや摩耗によって、イオン発生量が低下している。	• イオナイザーの取扱説明書を参照して、電極針を清掃してください。
ERROR 527 イオナイザー コンディション	周囲の金属によってイオンが吸収されるなど、設置環境の不安定さから除電能力に影響が出ている。	• イオナイザーの近くに導体や別の除電器がある場合は、導体や除電器を遠ざけてください。
ERROR 528 ポンプモーターセンサー	ポンプセンサー検出に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 542 緊急停止を検出しました	緊急停止スイッチの押下を検出した。	1. 緊急停止スイッチを解除してください。 2. タッチパネルにて「エラー一覧（ベルマーク）」を表示してください。 3. 「エラー一覧画面」にあるアラームクリアをタップしてください。
ERROR 54d G6HDC冷却ファン異常	G6HDC冷却ファンが回転不良を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 54e UV-LEDファン異常	UV-LED冷却ファンが回転不良を検出した。	
ERROR 576 ロケートピン動作異常	ロケートピンの動作に異常を検出した。	• 全てのロケートピンが下がっているかを確認してください。
ERROR 601 インクボトル ニアエンド	インクが少なくなった。	• 間もなくインクエンドとなるので、注意してください。
ERROR 602 インクボトル エンド	インクがなくなった。	• 新しいインクに交換してください。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）

表示	原因	対処方法
ERROR 604 廃インクタンク確認	廃インクタンクのセンサーが二ア状態を検知した。	1. 廃インクタンクの排液量を確認してください。 2. 廃インクタンクを交換してください。☞「廃インクの廃棄」（P. 153）
ERROR 605 ワイパー交換	ワイパー使用カウントが規定量を超えた。	• 新しいワイパーに交換してください。☞「ワイパーを交換する」（P. 150）
ERROR 606 インクIC無し	インクICチップが正常に読み込めない。またはセットされていない。	1. インクICチップが正しく挿入されているか確認してください。 2. 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 3. 新しいインクに交換してください。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
ERROR 608 インクIC異常	インクICチップの情報にエラーが発生した。	
ERROR 60c インク種類	充填されているインク種類とインクICチップに登録されているインク種類が異なる。	• 正しいインク種類のインクICチップをセットしてください。
ERROR 60F インク期限注意	インクが期限切れになった。	• 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
ERROR 617 サブタンク センサー	サブタンクの液面検出センサーに異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59）
ERROR 618 タンク ザンリョウH	サブタンクの液面検出センサーに異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） ノズル状態を確認して、ノズル抜けがある場合はクリーニングを実施して復旧してください。☞「ヘッドクリーニングをする」（P. 78）
ERROR 619 タンク ザンリョウL		
ERROR 61a インクオーバーフロー	サブタンクのインク量が規定よりも多い状態を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 61b インク供給	インクが供給できない。	
ERROR 61C フアツ セイギョ	適切な負圧を生成できない。	1. 圧力調整を実施してください。☞「圧力異常が発生したら」（P. 169） 2. 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 3. 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 61D フアツ イジ フソク	適切な負圧を維持できない。	
ERROR 61E フアツ イジ オーバー		
ERROR 61F セイアツ セイギョ	適切な正圧を生成できない。	

表示	原因	対処方法
ERROR 620 セイアツ イジフソク	適切な正圧を維持できない。	
ERROR 621 セイアツ イジオーバー		
ERROR 628 インク使用量超過	• インクICに書き込まれた使用量が規定値を超過した。 • インク交換時にインクICチップを交換しなかった、またはノズル詰まりのまま使用を続けた。	• 新しいインクに交換してください。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
ERROR 629 インク期限注意	インクが期限切れになった。	• 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
ERROR 62a インク期限オーバー	インクが期限切れから2か月経過して、インクが使用できなくなった。	• 新しいインクに交換してください。プリントすることができません。☞「インクボトルを交換する」（P. 41）
ERROR 631 インクカラー	充填されているインクカラーとインクICチップに登録されているカラーが異なる。	• 正しいインクカラーのインクICチップをセットしてください。
ERROR 637 インク漏れ（インクモレ ユニット）	インク漏れセンサーがインク漏れを検知した。	• 販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 649 フアツ チョウセイ	圧力の再調整が必要な状態を検出した。	1. 圧力調整を実施してください。☞「圧力異常が発生したら」（P. 169） 2. 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 3. 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 650 NCU接続異常	NCUの接続に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59）再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 651 NCU交換	ノズル詰まり判定に異常を検出した。	• NCUを清掃してください。☞「NCUの清掃」（P. 118） • エラーが解消されない場合、NCUの交換をお勧めします。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ERROR 652 NCU 検出エラー (HW)	ノズル詰まり判定に異常を検出した。	• NCUを清掃してください。 ☞「NCUの清掃」（P. 118）
ERROR 653 NCU 検出エラー (マーク)		
ERROR 654 NCU センター位置検出エラー	吐出位置の調整に失敗した。	
ERROR 655 NCU 吐出位置検出エラー		
ERROR 656 NCU SN調整エラー	センサー感度調整に失敗した。	
ERROR 657 NCU インク吸収材交換	NCUのインク吸収材が満杯になった。	• NCUのインク吸収材交換が必要です。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 658 NCU センサー感度低下	センサー感度が低下している。	• NCUを清掃してください。 ☞「NCUの清掃」（P. 118） • エラーが解消されない場合、NCUの交換をお勧めします。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 65b NCU感度調整エラーH	センサー感度調整に失敗した。	
ERROR 65c NCU感度調整エラーL		
ERROR 666 廃インクタンク交換	廃インクタンクのセンサーがフル状態を検知した。	1. 廃インクタンクの排液量を確認してください。 2. 廃インクタンクを交換してください。☞「廃インクの廃棄」（P. 153）
ERROR 706 UVランプ温度高い	UV-LEDユニットが高温になった。	• 頻発する場合、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 707 ヘッドヒーター断線	ヘッドヒーターが断線した。（一定時間以上加熱しても温度が上がらない）	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 70b DRV OVHT	UV-DRV基板が高温になった。	
ERROR 711 LED OVHT*	UV-LED基板が高温になった。	
ERROR 715 インクヒータ サーミスタ断線	インクヒーターのサーミスタが正常に読めない。	
ERROR 716 インクヒーター温度異常	インクヒーターの温度異常を検出した。	
ERROR 717 インクヒーター断線	インクヒーターが断線した。（一定時間以上加熱しても温度が上がらない）	
ERROR 71a PCB UVDRV*-F*	UV-DRV基板のヒューズ切れを検出した。	• ヒューズの交換が必要です。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ERROR 71e ヘッド温度異常	ヘッド温度の異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 71f ヘッドサーミスタ断線	ヘッドのサーミスタが正常に読めない。	
ERROR 753 インクヒーター温度異常 (HW)	インクヒーターの温度異常を検出した。	
ERROR 754 インクヒーター温度異常	インクヒーターの温度異常を一定時間検出した。	
ERROR 755 ヘッド温度異常 (HW)	ヘッド温度の異常を検出した。	
ERROR 756 ヘッド温度異常	ヘッド温度の異常を一定時間検出した。	
ERROR 801 (C) OPCODE	メイン基板に異常を検出した。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR 802 (C) SWI		
ERROR 803 (C) PFTCHABRT		
ERROR 804 (C) DATAABRT		
ERROR 806 FW/SIO bit	基板間通信エラーを検出した。	
ERROR 808 FW/STP-MTR **	メイン基板に異常を検出した。	
ERROR 80f FW/SIO Vch	基板間通信エラーを検出した。	
ERROR 811 FW/SIO read		
ERROR 81b FW/STACK OV	メイン基板に異常を検出した。	
ERROR 828 PRG ERR L *****		
ERROR 901 実行できません	何らかのエラーにより機能が実行できない。	• エラーの内容を確認してください。
ERROR 902 未作図 データ アリ	プリント（RIP）データを受信している。	• プリントデータを受信済みのためプリントを実行してください。またはデータクリアを実行して、プリントを中止してください。
ERROR 90f プリント エリア不足	プリント領域が不足している。	• メディア幅が広い、もしくはメディア長さが十分なメディアに交換してください。原点移動で領域が狭い場合は原点を移動してください。
ERROR b1a PCB BaseIO	Base IO基板が認識できない。	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。 ☞「電源を切る」（P. 59） 再度表示する場合は、販売店、
ERROR b1b BaseIO PCB Vpow-s	基板間通信エラーを検出した。	

表示	原因	対処方法
ERROR b1c BaseIO PCB V24		お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。
ERROR b1e PCB BaseIO-F **	Base IO基板の電源に異常を検出した。	
ERROR b3d INKCT PCB V2R5	インク供給2基板の電源に異常を検出した。	
ERROR b3c INKCT PCB V3R3		
ERROR b36 PCB INKIO	基板間通信エラーを検出した。	
ERROR b42 PCB UVD32B		
ERROR b47 UVD32B PCB Uvpow	UVD32B基板の電源に異常を検出した。	
ERROR b51 BaseIO PCB V24adj	BaseIO基板の電源に異常を検出した。	
ERROR b54 PCB INKIO-F*	インクIO基板のヒューズ切れを検出した。	• ヒューズの交換が必要です。販売店、お近くの弊社営業所、またはコールセンターにお問い合わせください。

SYSTEM HALT

表示	対処方法
SYSTEM HALT (*). 000: メッセージ	• 主電源を切って、しばらくたってから電源を入れてください。☞「電源を切る」（P. 59） エラー番号を確認のうえ、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。（"000"はエラー番号.）

第 6 章　付録



この章では...

本機の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様 184
　本体仕様 184
　インク仕様 185
　吸着ブロワ仕様 186
インクボトルのセット順 187
LICENSE Library (EPL StarterWare) 188

6.1 仕様

本体仕様

項目		JFX220-2515
プリントヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド
	仕様	4ヘッド：2スタガ カラー2インライン、特色2インラインorカラー2インライン×2スタガ
印刷条件 （スキャン x フィード）	4色+白+クリア+プライマ4色×2スタガ	300 x 600：双方向/単方向 4/8 pass（*4色×2スタガは無し） 300 x 900：双方向/単方向 6/12 pass 600 x 600：双方向/単方向 8/16 pass 600 x 900：双方向/単方向 12/24 pass 1200 x 1200：双方向/単方向 16/32 pass （暫定）LDモード600×600単方向　8Pass
	6色+蛍光ピンク+蛍光イエロー+白+クリア+プライマ	300 x 600：双方向/単方向 8/16 pass 300 x 900：双方向/単方向 12/24 pass 600 x 600：双方向/単方向 16/32 pass 600 x 900：双方向/単方向 24/48 pass 1200 x 1200：双方向/単方向 32/64 pass （暫定）LDモード600×600単方向 16Pass
使用可能インク		専用UV硬化インク（Y, M, C, K, Lm, Lc, W, CL, Pr,Fy,Fp）
インク供給		1L x 12ボトル
インク容量	4色	C/M/Y/K：各3本
	4色+白+クリア+プライマ	C/M/Y/K：各1本、W/CL：2本、W：4本
	6色+蛍光ピンク＋蛍光イエロー＋白＋クリア＋プライマ	C/M/Y/K/Pr/Cl/Lm/Lc/Fy/Fp：各1本、W：2本
使用可能メディア	サイズ	2580mm x 1940mm
	厚さ	101.6mm(4inch)以下 LDモード①100.6mm以下 ②98.6mm以下 ③84.6mm以下
	重さ	50kg/m^2まで、集中荷重禁止
最大プリント範囲		2500mm x 1500mm
距離精度	絶対精度	±0.3mmまたは指定距離の±0.3%の大きい方
	再現性	±0.2mmまたは指定距離の±0.1%の大きい方
直角度		±0.5mm/500mm
ヘッド高さ調整		1.2mm～3mm
メディア吸着		バキュームユニットによる吸着固定
UV装置		UV LED灯具（キャリッジに搭載）
		UV電源本体内蔵
廃インクタンク		ボトル式（2600cc）/容量検出センサ

項目		JFX220-2515
インターフェイス		1000BASE-T Ethernet
コマンド		MRL-III
騒音	待機時	62.3dB以下（FAST-A、前後左右1m）
	連続動作時 *1	82.1dB以下※A特性音響パワーレベル96.4dB
適合規格		VCCI-classA、FCC ClassA、UL62368-1準拠 ETL、CEマーキング（EMC指令、低電圧指令、機械指令）、IEC/EN62368-1（CB認証）、RoHS対応、REACH対応、RCM、KC、UKCA
電源仕様		INLET1：AC200-240±10%、50/60Hz±1Hz、12A以下 INLET2：AC200-240±10%、50/60Hz±1Hz、10A以下
消費電力		INLET1：2880W以下 INLET2：2300W以下
出力定格*2		OUTLET1：AC200-240V , 50/60Hz , 6.4/8.2A OUTLET2：AC200-240V , 50/60Hz , 6.4/8.2A
短絡電流定格（SCCR）		1.0KA
設置環境	使用可能温度	15°C～30°C（59°F～ 86°F）
	相対湿度	35～65%Rh（結露なきこと）
	精度保証温度	18°C～ 25°C（64.4°F ～ 77°F）
	温度勾配	±10°C/h以下
	粉塵	0.15mg/m^3（オフィス相当）
	動作最高高度	2,000m
重量		約920kg
外形寸法（突起物を含む）	幅（W）	4400mm
	奥行き（D）	2520mm
	高さ（H）	1490mm

*1.動作条件：高速スキャン、ブロワON：機械指令2006/42/ECの1.7.4.2 項に準じる。
*2. 吸着ブロワ用。

インク仕様

項目	仕様
形態	1Lインクボトル
色	ブラックインク シアンインク マゼンタインク イエローインク ホワイトインク ライトシアン ライトマゼンタ クリアインク プライマーインク（PR-200）

項目		仕様
		蛍光ピンク 蛍光イエロー
インク容量		1リットル
有効期限		有効期限は、インクボトルに記載されている通り。 ただし、開封後は期限内であっても3ヶ月以内。
保存温度	保存時	5～30 ℃（30 ℃の場合、1ヶ月以内）
	輸送時	1～60 ℃（60 ℃の場合120 時間以内、40 ℃の場合1ヶ月以内）

重要！
- 弊社が指定しているインク以外は、使用しないでください。
  また、インクボトルを分解したり、インクの詰め替えや継ぎ足しをしないでください。
- インクは、寒い場所で長時間放置すると凍結する場合があります。
  万一インクが凍結したときは、室温（25 ℃）で3時間以上かけて解凍してから使用してください。
  ただし、解凍したインクを使用すると、インクの変質によりプリント品質が劣化します。インクが凍結しない環境で保管してください。

吸着ブロワ仕様

項目	仕様
接続可能台数	**最大2台**
定格	AC200-240 50/60Hz 6.0A/6.5A
取付穴	4-φ12、取付ピッチ：225mm×130mm
重量	18kg以下

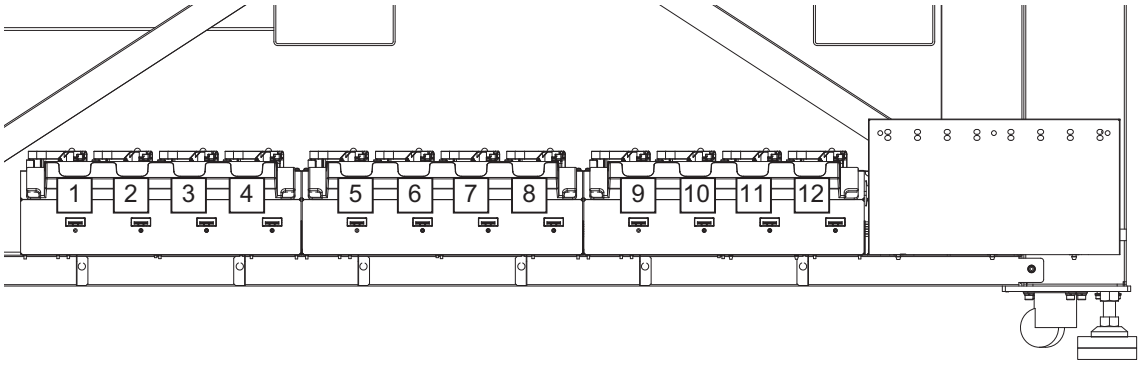
重要！
- 使用国・地域で要求される認証および法規制に適合した製品を使用すること。



- 指定外のブロワは取り付けないこと。

6.2 インクボトルのセット順

お使いになるインクセットによって、セットするインクボトルの順番が異なります。



インクセット	インク配置											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4色	C	M	Y	K	C	M	Y	K	Y	K	M	C
4色+白インク+プライマ+クリア	Pr	Pr	Cl	Cl	C	M	Y	K	W	W	W	W
6色＋蛍光ピンク＋蛍光イエロー＋白インク＋クリア＋プライマ	C	M	Y	K	Pr	Cl	W	W	Fy	Fp	Lm	Lc

6.3 LICENSE Library (EPL StarterWare)

Mimaki printer Firmware

Copyright @2020 MIMAKI ENGINEERING CO.,LTD. All rights reserved.

This product contain open source software listed in the tables below.

Component	License
StarterWare for ARM® based TI Sitara Processors	BSD-TI

The following license terms and conditions shall apply to the open source software listed in the table above:

BSD-TI

Copyright (C) 2010 Texas Instruments Incorporated - http://www.ti.com/

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

インデックス

L

LANGUAGE 93

M

MAPS 86
MAPS（Mimaki Advanced Pass System） 86

U

UV-LEDライト 87
UV設定 87

い

インク エンド 129
インクキャップ 113
インクヒーター 86
印刷中チェック 90

お

オートクリーニング 90
オートメンテナンス 90

か

環境設定メニュー 93

き

キーブザー 93
機能設定メニュー 92
キャッピングステーション 32
キャリッジアウト 89
キャリッジ 32, 89
吸引バルブ 63

く

クリーニング 89

け

警告ラベル 21

し

時刻設定 93
自動ノズルリカバリー 90

遮光カバー 44
受信障害 6
詳細設定 87

す

スムージングレベル 86

た

単位表示設定 93

て

テストパターン 76

と

吐出不良 90
ドット位置補正 86

ね

ネットワーク 93

の

ノズル洗浄 89, 128
ノズルチェック 90, 91
ノズル詰まり 91
ノズルリカバリー機能 139
ノズルリカバリー 90, 128, 139

は

廃インクタンク 89, 153
判定条件 90

ひ

表示言語 93

ふ

フラッシングフィルター 162
プリント中メンテ 90

へ

ヘッドギャップ 71

ほ

保管洗浄 89

ボトルキャップ 39
ホワイトインク 168
ポンプチューブ洗浄 89

ま

マーク表示 7

め

メディア情報 87
メディア設定メニュー 86
免責事項 6
メンテナンスメニュー 89
メンテナンス用洗浄液 104

り

リフレッシュ 90

れ

レベルフット 28

ろ

ロジカルシーク 92

わ

ワークチェンジ 86
ワイパー交換 89
ワイパー 89, 113

MEMO

JFX220-2515 取扱説明書

2026年11月

発行者　株式会社ミマキエンジニアリング
発行所　株式会社ミマキエンジニアリング
〒389-0512
長野県東御市滋野乙2182-3

D203988-10-13112026



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.2026

KM
FW : 1.0